

茨城県教育財団文化財調査報告第143集

取手都市計画事業下高井特定土地地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

東 原 遺 跡
前 畑 遺 跡
柏 原 遺 跡

平成11年3月

住宅・都市整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

210.031

Tob 7

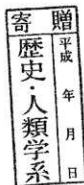
(143)

茨城県教育財団文化財調査報告第143集

取手都市計画事業下高井特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

<small>ひがし</small> 東	<small>はら</small> 原	遺	跡
<small>まえ</small> 前	<small>はた</small> 畑	遺	跡
<small>かしわ</small> 柏	<small>ばら</small> 原	遺	跡

平成 11 年 3 月



住宅・都市整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

00603057



柏原遺跡遠景



柏原遺跡出土細石刃核・彫器・削器・搔器・細石刃

序

取手市と住宅・都市整備公団は、市の西部地区に拠点都市機能を持ち、良好な居住環境を有する住宅の供給を行うための特定土地区画整理事業を進めております。その事業予定地内の下高井地区には、埋蔵文化財包蔵地である東原遺跡、前畑遺跡、柏原遺跡等が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成5年10月から発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は既に「取手市都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ・Ⅱ」として刊行いたしました。

本書は、平成7年度及び平成9年度に調査を実施した東原遺跡、前畑遺跡、柏原遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である住宅・都市整備公団から賜りました多大なる御協力に対し、心から感謝申し上げます。

また、茨城県教育委員会、取手市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成11年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成7年4月から平成8年3月まで発掘調査を実施した、茨城県取手市野々井字前畑309番地の4ほかに所在する前畑遺跡、茨城県取手市野々井字柏原778番地の1ほかに所在する柏原遺跡、平成7年4月から平成8年3月及び平成10年1月から平成10年3月まで発掘調査を実施した、茨城県取手市野々井字東原529番地ほかに所在する東原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 東原遺跡、前畑遺跡及び柏原遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	小 林 秀 文	平成6年4月～平成8年3月	
副 理 事 長	中 島 弘 光	平成7年4月～	
副 理 事 長	齋 藤 佳 郎	平成8年4月～平成10年3月	
副 理 事 長	川 俣 勝 慶	平成10年4月～	
常 務 理 事	一 木 邦 彦	平成7年4月～平成8年3月	
常 務 理 事	齋 藤 紀 彦	平成9年4月～	
事 務 局 長	齋 藤 紀 彦	平成7年4月～平成8年3月	
事 務 局 長	西 村 敏 一	平成9年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	安 藏 幸 重	平成5年4月～平成8年3月	
埋 蔵 文 化 財 部 長	沼 田 文 夫	平成8年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 剣 敏 夫	平成4年4月～平成8年3月
	課 長	河 崎 孝 典	平成9年4月～平成10年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成10年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～
	課 長 代 理	清 水 薫	平成9年4月～平成10年3月
	主 任 調 査 員	海 老 澤 稔	平成6年4月～平成8年3月
	主 任 調 査 員	小 高 五 十 二	平成8年4月～平成10年3月
	主 任 調 査 員	池 田 晃 一	平成10年4月～
経 理 課	主 任	川 崎 敦 司	平成10年4月～(平成10年4月～平成10年9月主事)
	課 長	小 幡 弘 明	平成7年4月～平成8年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成9年4月～平成10年3月(平成7年4月～平成8年3月主査)
	課 長	佐 藤 健	平成10年4月～
	主 査	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成7年4月～平成9年3月
	課 長 代 理	清 水 薫	平成10年4月～
	主 任	小 池 孝	平成7年4月～平成10年3月
	主 任	宮 本 勉	平成9年4月～
	主 任	木 下 光 保	平成10年4月～
	主 事	軍 司 浩 作	平成5年3月～平成8年3月
主 事	小 西 孝 典	平成9年4月～平成10年3月	

調査 第一課	課長(部長兼務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～平成8年3月
	課長(部長兼務)	沼 田 文 夫	平成8年4月～
	調査第四班長	鶴 見 貞 雄	平成7年4月～平成8年3月
	調査第一班長	横 堀 孝 徳	平成9年4月～平成10年3月
	主任 調査員	中 山 忠 久	平成7年4月～平成7年9月調査
	主任 調査員	川 又 清 明	平成7年4月～平成8年3月調査
	主任 調査員	菱 沼 良 幸	平成7年10月～平成8年3月調査
	主任 調査員	新 井 聡	平成10年1月～平成10年3月調査
	副主任 調査員	浅 野 和 久	平成10年1月～平成10年3月調査
整理課	課 長	川 井 正 一	平成10年4月～
	主任 調査員	菱 沼 良 幸	平成10年10月～平成11年3月整理・執筆・編集

- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、柏原遺跡出土の旧石器の組成及びその系統と調査上の留意点については、明治大学の安藤政雄氏にご指導をいただいた。また、柏原遺跡出土の黒曜石産地分析については、千葉県立中央博物館の橋本勝雄氏と、沼津工業専門学校の望月昭彦氏にお願いした。
- 5 柏原遺跡のローム層序自然科学分析については、バリノ・サーヴェイ株式会社へ委託した。
- 6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

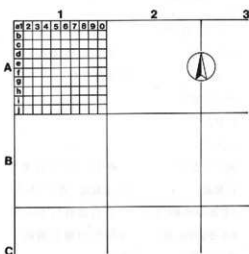
7 遺跡の概略

ふりがな	とりでとしけいかくじぎょうしめたかいとくいとちかくせいらいじぎょうちないまいぞうふんかざいちようさほうこくしよ							
書 名	取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
副 書 名	東原遺跡・前畑遺跡・柏原遺跡							
巻 次	Ⅲ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第143集							
著 者 名	菱沼良幸							
編 集 機 関	財団法人 茨城県教育財団							
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発 行 機 関	財団法人 茨城県教育財団							
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発 行 日	1999 (平成11) 年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地							
東原遺跡	茨城県取手市 野々井学東原 529番地ほか	08217-30	35度	140度	20	19960401～	2,878㎡	取手都市計画 事業下高井特 定土地地区画整 理事業に伴う 事前調査
			55分	2分	～	19970331		
前畑遺跡	茨城県取手市 野々井学前畑 309番地の4ほか	08217-31	35度	140度	20	19960401～	5,622㎡	
			55分	2分	～	19970331		
			12秒	49秒	23m	19980101～ 19980331		
			3秒	47秒	22m			

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
かしらばらいせき 柏原遺跡	いばらきけんとりてし 茨城県取手市 ののやま 野々井字柏原 778番地の1ほか	08217-1	35度 55分 10秒	140度 2分 13秒	20 ～ 23m	19960401～ 19970331	10,406㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東原遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡 2軒		弥生土器		弥生時代後期の小 集落跡である。	
		中世	地下式城 2基					
		時期不明	竪穴住居跡 1軒 土坑 23基 溝 11条		縄文土器片 石製品 古銭			
前畑遺跡	包蔵地	時期不明	土坑 24基 溝 2条		縄文土器片 石製品		縄文土器片が採集さ れ、包蔵地と考えられる。	
柏原遺跡	制作跡	旧石器時代	石器集中地点 5か所		石器(鎌石刃核、磨石刃、 彫器、掻器、削器、剥片)		旧石器時代から平 安時代の複合遺跡で ある。 特に、旧石器時代の 細石刃核、細石刃、 彫器、掻器等が出土 し、石器の製作跡と 考えられる。	
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 2軒 陥し穴 4基 土坑 2基		縄文土器片 石製品 土製品			
		弥生時代	竪穴住居跡 1軒		弥生土器 土製品			
		奈良時代	竪穴住居跡 1軒		土製品			
		時期不明	竪穴住居跡 1軒 土坑 34基 溝 22条		石製品 古銭			

凡 例

- 1 東原遺跡, 前畑遺跡, 柏原遺跡の調査区設定は, 日本平面直角座標第IX系を原点とし, X軸(南北)—8,200m,



Y軸(東西)+18,320mの交点を基準点とした。

大調査区は, この基準点を基に遺跡範囲内を40m方眼で区画設定した。さらに, この大調査区を東西, 南北に各々10等分し, 4m方眼の小調査区を設定した。大調査区の名称は, アルファベットと算用数字を用い, 北から南へA, B, C..., 西から東へ1, 2, 3...とし, その組み合わせで「A1区」, 「B1区」のように呼称した。小調査区も同様に, 北から南へa, b, c...j, 西から東へ1, 2, 3...0とし, 名称は大調査区の名称を冠し, 「A1a1区」, 「B2b2区」のように呼称した。

第1図 調査区呼称方法概念図

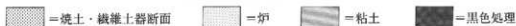
- 2 遺構, 遺物, 土層に使用した記号は, 以下のとおりである。

遺構 住居跡—S I 土坑—S K 溝—S D ビット—P

遺物 土器—P 石器・石製品—Q 製品—D P 金属製品—M 拓本土器—T P

土層 擾乱—K

- 3 遺構, 遺物の実測図中の表示は, 以下のとおりである。



● 土器 □ 石器・石製品 ○ 土製品 — — — 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は, 『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構, 遺物実測図の作成方法及び掲載方法については, 以下のとおりである。

- (1) 遺跡全体図は縮尺500分の1とし, 各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり, それらについては個々にスケールで表示した。
- (3) 「主軸方向」は, 炉をとおり軸線あるいは長軸方向とし, その主軸が座標北からみて, どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した。(例 N—10°—E, N—10°—W) なお, [] を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は, A—口径 B—器高 C—底径 D—高台径(脚部径) E—高台高(脚部高) F—体部径とし, 単位はcmである。なお, 現存値は() を, 推定値は[] を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は, 土器の残存率, 実測(P)番号, 出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目 次

序	1
例言	1
凡例	1
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 東原遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 竪穴住居跡	10
2 地下式竈	15
3 土坑	16
4 溝	20
5 遺構外出土遺物	23
第4節 まとめ	25
第3章 前畑遺跡	27
第1節 遺跡の概要	27
第2節 基本層序	27
第3節 遺構と遺物	28
1 土坑	28
2 溝	32
3 遺構外出土遺物	33
第4節 まとめ	35
第3章 柏原遺跡	36
第1節 遺跡の概要	36
第2節 基本層序	36
第3節 遺構と遺物	37
1 旧石器時代	37
2 竪穴住居跡	52
(1) 縄文時代	52
(2) 弥生時代	57
(3) 奈良時代	59
(4) 時期不明	60
3 土坑	61
4 溝	70
5 遺構外出土遺物	75
第4節 まとめ	78
付章	82
写真図版	

插图目次

第1图 调查区称呼方法概念图	第29图 第2号石器集中地点石器实测图	39
第2图 东原遺跡、前畑遺跡及び柏原遺跡調査区…3	第30图 石材別石器集中地点平面图	41・42
第3图 周辺遺跡分布图	第31图 器種別石器集中地点平面图	43・44
东原遺跡	第32图 第3号石器集中地点石器实测图(1)	45
第4图 东原遺跡基本土層图	第33图 第3号石器集中地点石器实测图(2)	46
第5图 第1号住居跡实测图	第34图 第3号石器集中地点石器实测图(3)	47
第6图 第1号住居跡出土遺物实测图	第35图 第4号石器集中地点・ 集中地点外石器实测图	48
第7图 第2・3号住居跡实测图	第36图 第3号住居跡・出土遺物实测图	53
第8图 第2号住居跡出土遺物实测图	第37图 第3号住居跡出土遺物实测图	54
第9图 第3号住居跡出土遺物实测图	第38图 第4号住居跡・出土遺物实测图	56
第10图 第1号地下式竈实测图	第39图 第2号住居跡・出土遺物实测图	58
第11图 第2号地下式竈实测图	第40图 第1号住居跡・出土遺物实测图	59
第12图 第1~14号土坑实测图	第41图 第5号住居跡实测图	41
第13图 第15~23号土坑实测图	第42图 第15号土坑・出土遺物实测图	62
第14图 第3A号溝实测图	第43图 第21号土坑实测图	62
第15图 第3B号溝实测图	第44图 第28号土坑实测图	63
第16图 第3C号溝实测图	第45图 第29号土坑实测图	63
第17图 第1・2・4~8号溝实测图	第46图 第30号土坑・出土遺物实测图	64
第18图 遺構外出土遺物实测图(1)	第47图 第38号土坑・出土遺物实测图	65
第19图 遺構外出土遺物实测图(2)	第48图 第1~13号土坑实测图	67
前畑遺跡	第49图 第14・16~20・22~27・31号土坑实测图	68
第20图 前畑遺跡基本土層图	第50图 第32~37・39・40号土坑实测图	69
第21图 第4~6号土坑实测图	第51图 第15A・15B号溝实测图	71
第22图 第1~3・7~20号土坑实测图	第52图 第16号溝实测图	71
第23图 第21~24号土坑实测图	第53图 第17号溝实测图	72
第24图 第1・2号溝实测图	第54图 第18号溝实测图	72
第25图 遺構外出土遺物实测图	第55图 第19号溝实测图	72
柏原遺跡	第56图 第1~12A・12B・13・14・20号溝实测图	74
第26图 柏原遺跡基本土層图	第57图 遺構外出土遺物实测图(1)	77
第27图 遺物平面位置計測法	第58图 遺構外出土遺物实测图(2)	78
第28图 第1号石器集中地点石器实测图		

表目次

表1 东原遺跡、前畑遺跡及び柏原遺跡 周辺遺跡一覽表	表2 东原遺跡住居跡一覽表	15
8	表3 东原遺跡地下式竈一覽表	16

表4 東原遺跡土坑一覽表	19	表10 第2号住居跡出土炭化種子分析表	57
表5 東原遺跡溝一覽表	22	表11 柏原遺跡住居跡一覽表	61
表6 前畑遺跡土坑一覽表	31	表12 柏原遺跡土坑一覽表	69
表7 前畑遺跡溝一覽表	33	表13 柏原遺跡溝一覽表	75
表8 石材別石器一覽表	41	表14 細石刃分類表	79
表9 旧石器一覽表	48		

写真図版目次

東原遺跡	完堀状況, 第4号住居跡遺物出土状況
PL1 遺跡全景(平成7年度)	PL19 第1・2号住居跡遺物出土状況, 第5号住居跡完掘状況
PL2 遺構確認状況, 調査終了全景	PL20 第15・21・28号土坑完掘状況
PL3 第1号住居跡完掘状況, 第1号住居跡遺物出土状況	PL21 第29・30号土坑完掘状況, 第38号土坑遺物出土状況, 第18・19号溝完掘状況
PL4 第2・3号住居跡完掘状況, 第2号住居跡遺物出土状況	PL22 石器出集中地点出土遺物(1)
PL5 第1・2号地下式竈完掘状況, 第3A・3B・4号溝完掘状況	PL23 石器出集中地点出土遺物(2)
PL6 第1・2号住居跡出土遺物	PL24 石器出集中地点出土遺物(3)
PL7 遺構外出土遺物	PL25 石器出集中地点出土遺物(4)
前畑遺跡	PL26 石器出集中地点出土遺物(5)
PL8 遺構確認状況, 調査終了全景	PL27 石器出集中地点出土遺物(6), 第3号住居跡・第15号土坑出土遺物
PL9 第4・5・6号土坑完掘状況, 第1・2号溝完掘状況	PL28 第1～4号住居跡出土遺物
PL10 遺構外出土遺物	PL29 第2・3号住居跡・第15・30・38号土坑出土遺物
柏原遺跡	PL30 遺構外出土遺物
PL11 遺跡全景	PL31 第15号土坑・遺構外出土遺物
PL12 調査前全景, 遺構確認状況	PL32 第3号住居跡・遺構外出土遺物
PL13 旧石器集中地点全景, 第1号石器集中地点遺物出土状況	
PL14 旧石器集中地点全景, 第3号石器集中地点遺物出土状況	
PL15 細石刃核出土状況, 彫器出土状況, 尖頭器出土状況	
PL16 削器出土状況, 細石刃出土状況	
PL17 第3号住居跡完掘状況, 第3号住居跡遺物出土状況	
PL18 第2・4号住居跡完掘状況, 第4号住居跡	



中野區大塚古墳群の調査風景（上）

調査風景（上）



上 旧石器調査風景，下 作業風景

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

取手市は、整備された交通網や東京から約40kmに位置する首都圏という恵まれた立地条件のもと、工業団地の進出や住宅地の増加が著しく、めざましい発展を遂げている。また、常磐新線や首都圏中央連絡自動車道の開発計画に伴い、ますます茨城県南部の業務核都市としての役割を期待されている。そこで、住宅・都市整備公団は、取手市の西部地区に「取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業」を計画した。この事業は、業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより、平成4年8月26日、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部は、茨城県教育委員会に対し、この事業計画地区である取手市西部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これを受け、茨城県教育委員会は、取手市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い、平成4年11月25日、表面観察及び試掘調査を実施した結果、菅五郎崎遺跡ほか下高井向原遺跡など数遺跡が所在することを確認し、住宅・都市整備公団あてに回答した。平成5年2月4日から、住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて、文化財保護の立場から慎重に協議を重ねた結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとした。そこで、茨城県教育委員会は、住宅・都市整備公団に、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団と取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内の埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成5年10月1日から下高井向原Ⅱ遺跡を手始めとして、断続的に事業予定地内の発掘調査を申請した。平成7年4月1日から、東原遺跡、前畑遺跡及び柏原遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施することとなった。

平成9年3月5日、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部は、茨城県教育委員会に対し、下高井特定土地区画整理事業地域内における東原遺跡(4,979㎡)の取り扱いについて協議を行い、平成9年3月17日、茨城県教育委員会から住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部あてに東原遺跡を記録保存とする回答をし、調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。平成10年1月1日から3か月間、東原遺跡の発掘調査を実施することとなった。

なお、住宅都市整備公団首都圏都市開発本部は組織改編により、平成9年10月1日付けで茨城地域支社として事務所を開設した。

第2節 調査経過

東原遺跡、前畑遺跡及び柏原遺跡の発掘調査を、平成7年4月1日から平成8年3月31日までの1年にわたって実施した。以下、調査の経過について、その概要を月ごとに記述する。

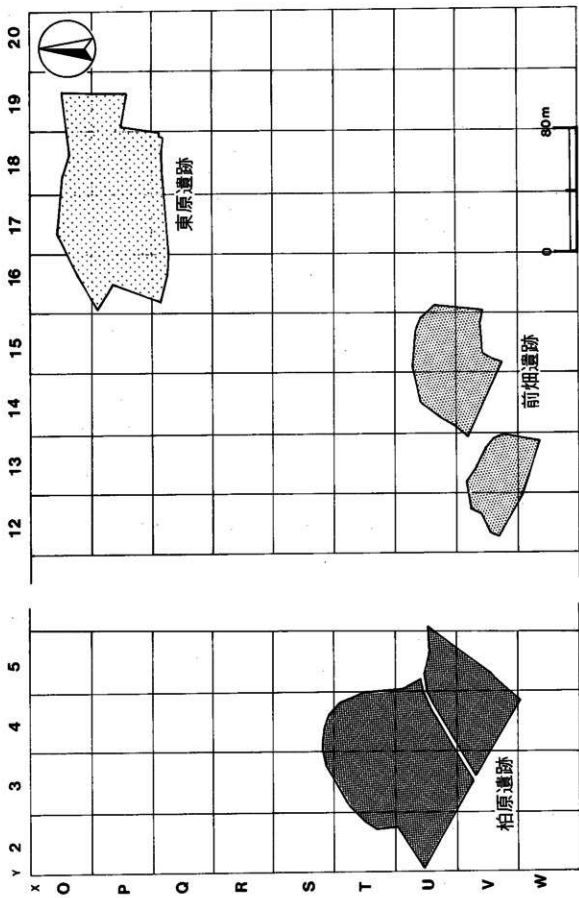
平成7年度 東原遺跡(2,878㎡)、前畑遺跡(5,622㎡)、柏原遺跡(10,406㎡)の調査を行った。

4月 発掘調査を開始するため、現場事務所や倉庫の設置、調査器材の搬入、補助員募集等の諸準備を行った。17日から補助員を投入して、諸施設の整備、柏原遺跡の伐倒作業を開始し、19日から試掘調査を実施した。

- 5 月 4月に引き続き柏原遺跡の試掘調査を行った。
- 6 月 前畑遺跡の試掘調査を開始した。16日から柏原遺跡の重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。
- 7 月 6月に引き続き、柏原遺跡の表土除去及び遺構確認作業を行い、住居跡5軒、土坑47基、溝21条及び旧石器製作跡を確認した。
- 8 月 11日から柏原遺跡の遺構調査を開始した。
- 9 月 8月に引き続き、柏原遺跡の遺構調査を行った。25日からは遺構調査と共に旧石器製作跡の調査を開始した。
- 10 月 9月に引き続き、柏原遺跡の遺構調査と旧石器集中区の調査を継続し、24日に航空写真撮影を実施した。25日から前畑遺跡の除草作業を開始した。
- 11 月 前畑遺跡調査区西側部分の人力による表土除去及び遺構確認作業を行い、土坑25基、溝2条を確認した。10日から前畑遺跡の遺構調査と東原遺跡の試掘調査を開始した。
- 12 月 前畑遺跡の遺構調査と東原遺跡西側部分の人力による表土除去を開始した。12日からは東原遺跡東側部分の重機による表土除去及び遺構確認作業を開始し、住居跡3軒、土坑24基、溝5条を確認した。
- 1 月 東原遺跡の遺構調査を開始した。
- 2 月 1月に引き続き、東原遺跡の遺構調査を行い、17日に現地説明会を開催し、22日に航空写真撮影を実施した。
- 3 月 柏原遺跡の旧石器製作跡の補足調査を行い、19日までに遺跡内の危険箇所の安全対策を行い、22日に現場の作業を終了した。

平成9年度 東原遺跡 (4,979㎡) の調査を行った。

- 1 月 7日に器材搬入を行い、12日から補助員を投入して、諸施設の整備を行った。20日から試掘調査を開始、土坑1基、溝4条を確認した。
- 2 月 遺構調査を開始した。
- 3 月 補足調査を行い、12日にはすべての調査を終了し、13日に現場の作業を終了した。



第2図 東原遺跡、前畑遺跡及び柏原遺跡調査区

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

東原遺跡は取手市野々井字東原529番地ほかに、前畑遺跡は取手市野々井字前畑309番地の4ほかに、柏原遺跡は取手市野々井字柏原778番地の1ほかに所在し、取手市役所の北西約2kmのところまに位置している。遺跡のある取手市は、茨城県最南部の利根川沿いにあり、東は利根町、龍ヶ崎市、西は守谷町、南は利根川を挟んで千葉県の我孫子市、北は伊奈町、藤代町と境を接している。市域は、南側の利根川沿いの低地と北側の小貝川沿いの低地に挟まれて東西に細長く伸びた北相馬台地を骨格としており、面積は36.84km²である。市の中央部を、国道6号線とJR常磐線が並行してほぼ南北に通じ、中央部から西に国道294号線と関東鉄道常総線が通っている。交通条件の良さと東京から約40km内の首都圏にあることから工業団地と併せて大規模住宅団地化が進み、県南部の中核的商業都市としての発展がめざましい。

取手市の地形は、標高21～25mの北相馬台地と利根川水系の低地からなっている。利根川は、群馬県を水源とし、市の南部を西から東に流れ千葉県との県境を形成している。小貝川は、栃木県を水源とし、蛇行しながら市の東部で利根川と合流している。北相馬台地は、利根川や小貝川の支流が入り込み、複雑な地形となっている。市街地より東では、小文間の小台地や利根町の小台地などが孤立した台地として連なっている。台地の地層は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり、下部から成田層下部、成田層上部、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の順で堆積している。堆積状況は、水平で単調であり、褶曲や断層はみられない。

東原遺跡は、小貝川右岸から南西側に入り込む小支谷に挟まれた標高20～23mの舌状台地の東側に立地している。遺跡のある台地と小支谷の比高は8～10mである。前畑遺跡は、東原遺跡と小支谷を挟んで対峙した南側の標高20～22mの台地上に立地している。柏原遺跡は、前畑遺跡と小支谷を挟んで西側に約400m離れた標高20～23mの舌状台地の北側に立地している。調査前の現況は、いずれの遺跡も畑地及び山林であり、遺跡周辺の低湿地は荒地である。

参考文献

- ・茨城県農地部農地計画課【土地分類基本調査 龍ヶ崎】1987年12月
- ・峰須紀夫【茨城県 地学のガイド】コロナ社 1986年11月
- ・取手市教育委員会【取手市史 原始古代(考古)資料編】1989年3月

第2節 歴史的環境

東原遺跡、前畑遺跡及び柏原遺跡が所在する取手市は、大小の河川、低地、台地と変化に富んだ自然環境の中で昔から人々の生活が営まれており、数多くの遺跡が残っている。特に、利根川水系によって形成されている台地上には、旧石器時代から中世までの遺跡が多数所在している。ここでは、当地域の主な遺跡について時代をおって述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、大渡I遺跡⁽¹⁾の発掘調査の出土遺物中に旧石器時代と思われる石器や石器剥片が出土している。

縄文時代早期の遺跡は、椿山・大日原遺跡〈15〉、市之台古墳群〈49〉があり、撫糸文系土器片や稲荷台式土器片が出土している。縄文時代早期の遺跡は、堀尻遺跡〈35〉、大渡Ⅰ遺跡、堂ノ脇遺跡〈42〉、下高井向原Ⅰ遺跡〈47〉、同地貝塚〈55〉、今城遺跡〈60〉等がある。縄文時代早期後半の条痕文系土器群の時期には、台地の縁辺及び小高い尾根上の台地に立地した小規模な遺跡が多数出現した。縄文時代前期の遺跡は、西浦Ⅰ遺跡〈4〉、椿山・大日原遺跡、向山貝塚〈16〉、上高井糠塚古墳〈22〉、白旗遺跡〈43〉、守谷町郷州原遺跡〈53〉、同地貝塚、庚塚遺跡〈57〉、鈴塚C遺跡〈63〉等がある。縄文時代前期の遺跡は早期の遺跡と比較して規模が大きくなり、各地に点在していた遺跡が、谷の奥に面した台地の内部から河川の台地縁辺に移った。縄文時代中期の遺跡は、陣谷原遺跡〈11〉、堀尻遺跡、大渡Ⅰ遺跡、下高井向原Ⅱ遺跡〈48〉、同地貝塚等がある。縄文時代後半は遺跡が増加するが規模は小さくなる。縄文時代後期の遺跡は、駒場Ⅰ遺跡〈6〉、陣谷原遺跡、山王作遺跡〈19〉、台畔遺跡〈20〉、神明遺跡〈21〉、前新田遺跡〈23〉、大塊遺跡〈24〉、稲向原Ⅰ遺跡〈25〉、稲向原Ⅲ遺跡〈27〉、古戸遺跡〈29〉、惣代八幡遺跡〈31〉、遠道遺跡〈34〉、堀尻遺跡、大渡Ⅰ遺跡、竹ノ代Ⅰ遺跡〈39〉、東山遺跡〈41〉、甚五郎崎遺跡〈46〉、姫宮神社遺跡〈52〉、郷州原遺跡、同地貝塚、大日遺跡〈62〉等がある。神明遺跡からは、安行Ⅰ式のミズク形土偶が出土している。縄文時代晩期の遺跡は、神明遺跡、同地貝塚等があり、大規模な後期の遺跡が継続したものであるが、遺跡数は急減している。

弥生時代の遺跡は、市之代古墳群、大渡Ⅱ遺跡〈38〉、郷州原遺跡、大日遺跡等がある。大日遺跡からは、弥生時代の住居跡2軒が確認されている。

古墳時代の遺跡は、大山Ⅰ遺跡〈9〉、大山Ⅱ遺跡〈10〉、椿山・大日原遺跡、上高井糠塚古墳群、稲向原Ⅱ遺跡〈26〉、宿畑遺跡〈32〉、大渡Ⅱ遺跡、竹ノ代Ⅱ遺跡〈40〉、下高井向原Ⅰ遺跡〈47〉、市之代古墳群、上川辺遺跡〈50〉、郷州原遺跡、同地古墳群〈54〉、庚塚遺跡、乙子遺跡〈58〉、北今城遺跡〈59〉、仲原遺跡〈61〉、大日遺跡等が確認されている。これらの遺跡のうち3遺跡が古墳群、2遺跡が単独の古墳である。市之代古墳群は、小貝川の沖積地に独立した市之代の台地にあり、小貝川をのぞむ縁辺部に立地している。現在、3基の前方後円墳と12基の円墳が確認されている。大山Ⅰ遺跡からは、古墳時代前期の住居跡がまともて発見された。また、仲原遺跡は古墳時代前期から中期の住居跡19軒が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡は、西浦Ⅱ遺跡〈5〉、駒場Ⅱ遺跡〈7〉、如何崎遺跡〈13〉、東遺跡〈14〉、向山Ⅱ遺跡〈17〉、貝塚新田遺跡〈18〉、稲向原Ⅳ遺跡〈28〉、佃Ⅱ遺跡〈33〉、堂ノ脇遺跡、新屋敷遺跡〈44〉、出土遺跡〈45〉、寺田耕地遺跡〈46〉、甚五郎崎遺跡、下高井向原Ⅰ遺跡、奥山道台遺跡〈51〉、郷州原遺跡、今城遺跡等がある。下高井向原Ⅰ遺跡から平安時代後期の和鏡(瑞花双鳳五花鏡)が出土している。また、今城遺跡から奈良三彩と緑釉の浄瓶が出土している。

中世の遺跡としては、大山遺跡〈8〉、大山Ⅱ遺跡、下高井城跡〈12〉、古戸城跡〈30〉、野々井城跡〈36〉、守谷城跡〈56〉等がある。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第3図中の該当番号と同じである。

註

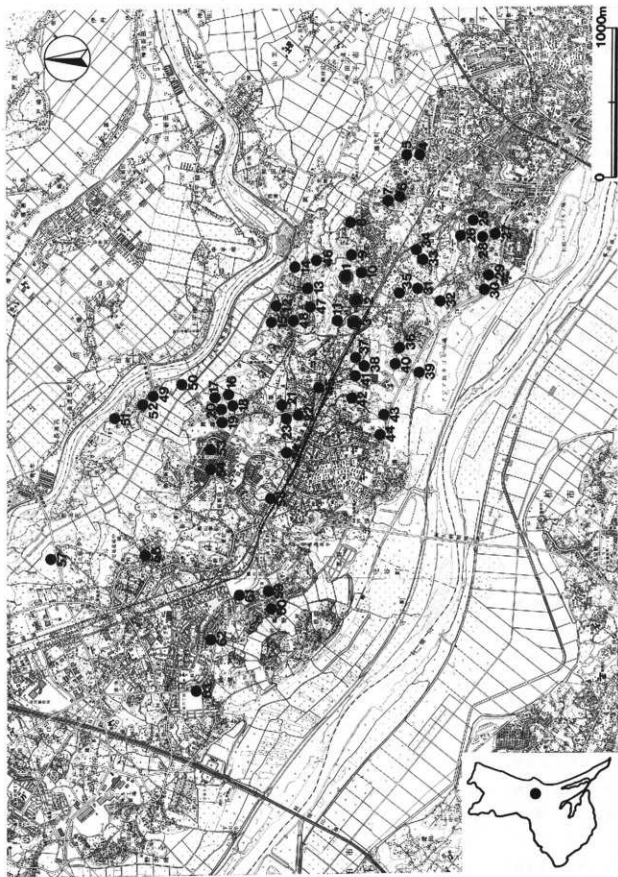
- (1) 取手市教育委員会『茨城県取手市大渡Ⅰ遺跡平成5年度発掘調査報告書』1994年3月
- (2) 茨城県教育財団「南守谷地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 乙子遺跡 北今城遺跡 大日遺跡 座庄内遺跡 篠根入・仲原遺跡 鈴塚B・C遺跡 鈴塚古墳群 今城遺跡」『茨城県教育財団文化財報告書』

1981年3月

- (3) 茨城県教育財団 「取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 大山Ⅰ遺跡」
【茨城県教育財団文化財報告第123集】 1997年6月
- (4) 取手市教育委員会 「市之代古墳群第3号墳調査報告」 1978年3月
- (5) (2)に同じ
- (6) 茨城県教育財団 「取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 菰五郎崎遺跡
下高井向原Ⅰ遺跡 下高井向原Ⅱ遺跡」【茨城県教育財団文化財報告第107集】 1996年3月
- (7) (2)に同じ

参考文献

- ・ 取手市教育委員会 「取手市史原始古代(考古)資料編」 1989年3月
- ・ 守谷町史編さん委員会 「守谷町史」 1985年3月
- ・ 茨城県教育委員会 「茨城県遺跡地図」 1990年3月



第3図 周辺遺跡分布図

表1 東原遺跡, 前畑遺跡及び柏原遺跡周辺遺跡一覽表

番号	遺跡名	県遺跡 番号	時代					番号	遺跡名	県遺跡 番号	時代					
			旧	縄	弥	古	奈平				中世	旧	縄	弥	古	奈平
①	東原遺跡	5591		○	○		○	33	佃Ⅱ遺跡	5621					○	
②	前畑遺跡	5592		○				34	遠遺跡	5622	○					
③	柏原遺跡		○	○	○		○	35	堀尻遺跡	5623	○					
4	西浦Ⅰ遺跡	5584		○				36	野々井城跡	5624						○
5	西浦Ⅱ遺跡	5585					○	37	大渡Ⅰ遺跡	4133	○	○				
6	駒場Ⅰ遺跡	5586		○				38	大渡Ⅱ遺跡	4134			○	○		
7	駒場Ⅱ遺跡	5587					○	39	竹ノ代Ⅰ遺跡	5625	○					
8	人山遺跡	5588					○	40	竹ノ代Ⅱ遺跡	5626				○		
9	大山Ⅰ遺跡	5589			○			41	東山遺跡	5627	○					
10	大山Ⅱ遺跡	5590			○		○	42	堂ノ脇遺跡	5628	○				○	
11	陣谷原遺跡	5593		○				43	白旗遺跡	5629	○					
12	下高井城跡	2584					○	44	新屋敷遺跡	5630					○	
13	如何崎遺跡	5597					○	45	出土遺跡	5631					○	
14	東遺跡	5598					○	46	甚五郎崎遺跡	5596	○				○	
15	柳山・大日原遺跡	5599		○	○			47	下高井向原Ⅰ遺跡	5594	○		○	○		
16	向山貝塚	5601		○				48	下高井向原Ⅱ遺跡	5595	○					
17	向山Ⅱ遺跡	5602					○	49	市之代古墳群	2587	○	○	○			
18	貝塚新田遺跡	5603					○	50	上川辺遺跡	5610				○		
19	山王作遺跡	5604		○				51	奥山遺台遺跡	5611					○	
20	台坪遺跡	5605		○				52	姫宮神社遺跡	5612	○					
21	神明遺跡	5606		○				53	郷州原遺跡		○	○	○	○		
22	上高井鎌塚古墳	5607		○	○			54	同地古墳群	2525				○		
23	前新田遺跡	5608		○				55	同地貝塚	2576	○					
24	大境遺跡	5609		○				56	守谷城跡	2578						○
25	稲向原Ⅰ遺跡	5613		○				57	庚塚遺跡	2580	○		○			
26	稲向原Ⅱ遺跡	5614				○		58	乙子遺跡					○		
27	稲向原Ⅲ遺跡	5615		○				59	北今城遺跡					○		
28	稲向原Ⅳ遺跡	5616					○	60	今城遺跡						○	
29	古戸遺跡	5617		○				61	仲原遺跡					○		
30	古戸城跡	5618					○	62	大日遺跡			○	○	○		
31	惣代八幡遺跡	4132		○				63	鈴塚C遺跡	3616	○					
32	宿畑遺跡	5619			○											

第3章 東原遺跡

第1節 遺跡の概要

東原遺跡は、取手市の西北部、小貝川右岸から南西方向に入り込む支谷に突出した標高20～23mの舌状台地上に位置する。当遺跡は、縄文時代、弥生時代及び中世の複合遺跡である。現況は畑地と山林で、調査面積は7,857㎡である。谷津を挟んだ東側には大山I遺跡、北東側には甚五郎崎遺跡がある。

今回の発掘調査によって、竪穴住居跡3軒、地下式竈2基、土坑23基及び溝11条を検出した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に7箱出土した。縄文時代の遺物は、早期から後期までの縄文土器片、石斧、石鏃、尖頭器、石錘及び磨石である。弥生時代の遺物は、弥生土器片が出土している。中・近世の遺物としては、古銭がある。

第2節 基本層序

調査区北側の台地平坦部（N18ha区）にテストピットを設定した。深さ2.8mまで掘り下げ、第4図に示す土層の堆積状況を確認した。

第1層 厚さ20cmで、黒褐色の耕作土である。

第2層 厚さ15cm～40cmで、明褐色のソフトローム層である。

第3層 厚さ10cm～40cmで、にぶい褐色のソフトローム層である。

第4層 厚さ10cm～35cmで、褐色のハードローム層である。ロームブロックが多く、締まりが強い。

第5層 厚さ40cm～50cmで、褐色のハードローム層である。赤色スコリアを少量含む、締まりが強い。色調から黒色帯と見られる。

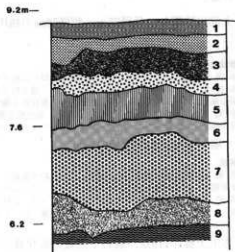
第6層 厚さ20cm～40cmで、褐色のハードローム層である。締まりが強い。

第7層 厚さ50cm～85cmの褐色土で、ロームブロックを少量含む。粘性、締まりともに強い。

第8層 厚さ20cm～50cmの黄褐色土である。粘性、締まりともに強い。

第9層 黄褐色をした粘土層である。厚さは20cm以上である。

遺構は、第1層下面及び第2層上面で確認され、第2層から第3層にかけて掘り込まれている。



第4図 東原遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡からは、弥生時代の竪穴住居跡2軒（SI1・2）と時期不明の竪穴住居跡1軒（SI3）が検出された。以下、検出した住居跡と遺物について記載する。

第1号住居跡（第5図）

位置 調査区西部，P19c区。

重複関係 本跡の西部が第2号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.7m，短軸5.0mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-23°-E

壁 壁高は30~40cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦であり，中央部から出入り口施設，南東コーナーにかけ踏み固められている。

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁は径40cmの円形で，深さ55cmである。P₂は径38cmの円形で，深さ60cmである。P₃は径33cmの円形で，深さ34cmである。P₄は径42cmの円形で，深さ40cmである。規模と配置からいずれも支柱穴と考えられる。P₅は径40cmの円形で，深さ21cm。規模と配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 中央部に位置し，長径75cm，短径50cmの楕円形で，床面を15cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 赤褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土中ブロック多量，焼土粒子・ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子多量，焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

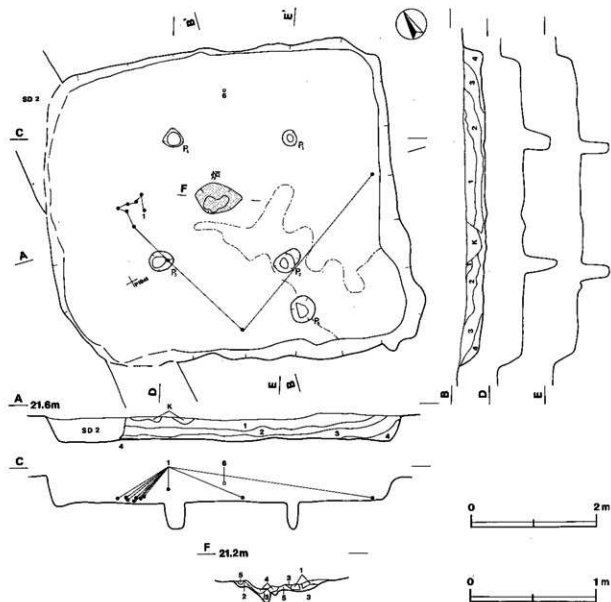
遺物 弥生土器片119点，磨石1点及び炭化種子が出土している。第6図1の弥生土器壺は，西部の覆土下層から出土している。2~5は，覆土中から出土した弥生土器片である。2は頸部から胴部にかけての破片で，3~5は胴部片である。いずれも付加条1種（付加2条）の縄文が施文されている。6の磨石は，北部の覆土中層から出土している。P₁~P₄のピット及び炉の覆土から炭化種子が検出されているが，内容は不明である。

所見 本跡は，形態及び出土遺物から弥生時代後期後半の住居跡と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	壺 弥生土器	B (24.2)	胴部上半から頸部にかけての破片。胴部は内彎し，頸部はゆるやかに外反して立ち上がる。胴部には付加条1種（付加2条）の縄文が施文され，頸部下半は無文帯としている。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P1 10% PL6 覆土下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第6四6	磨石	(9.3)	6.3	4.2	(333.4)	安山岩	覆土中層	Q1 PL6



第5図 第1号住居跡実測図

第2号住居跡 (第7図)

位置 調査区西部, P18区。

重複関係 本跡の南西部が第3号住居跡を掘り込んでいる。

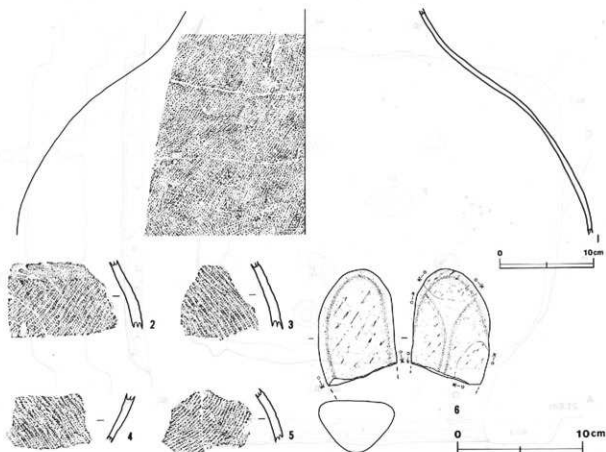
規模と平面形 長軸6.05m, 短軸4.4mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は40~55cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 炉を中心に広範囲が踏み固められている。住居跡中央部から東側の床面はブロック状のロームで, 西側の床面より若干高い。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径20~35cmの円形, 深さ40~50cmである。規模や配置から主柱穴と思われる。P₅は径35~40cmの円形, 深さ20cmで規模や配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部からやや北西寄りに位置し、長径70cm、短径53cmの楕円形で、床面を12cm掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 流土小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 流土中ブロック多量、ローム粒子少量
- 3 赤褐色 流土粒子多量、流土小ブロック少量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、流土粒子少量

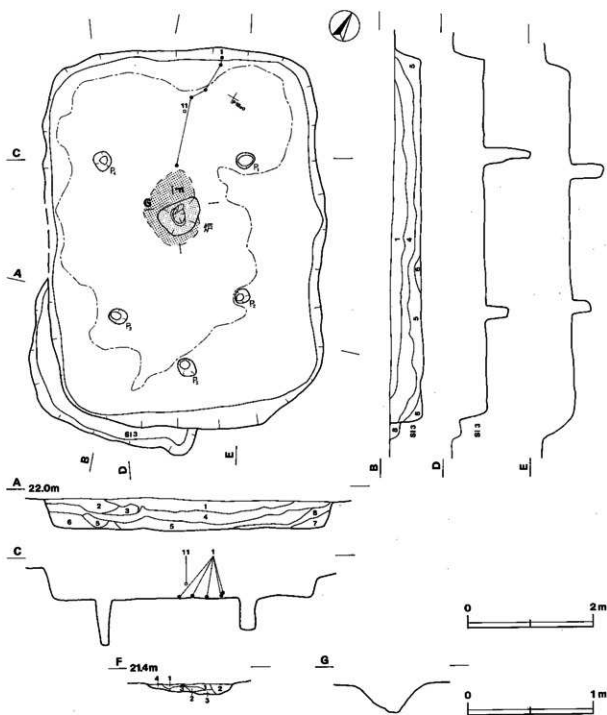
覆土 9層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 流土粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・ローム小ブロック少量

遺物 弥生土器片76点、磨石1点及び炭化種子が出土している。第8図1の弥生土器広口壺の頸部は、北西部床面から出土している。2～10は、覆土から出土した弥生土器片である。2・3は口縁部片である。両者とも付加条1種（付加2条）の縄文が施文され、2は口縁部下端には縄文原体による押圧が、3は棒状工具による押圧が施されている。4は頸部片で、歯数5本の櫛歯状工具による区画文が施文されている。5～7は頸部から胴部にかけての破片で、8～10は胴部片である。いずれも付加条1種（付加2条）の縄文が施文されている。11の磨石は、北西部の覆土中層から出土している。P₁～P₃のビット及び炉の覆土から炭化種子が検出されたが、種類は不明である。

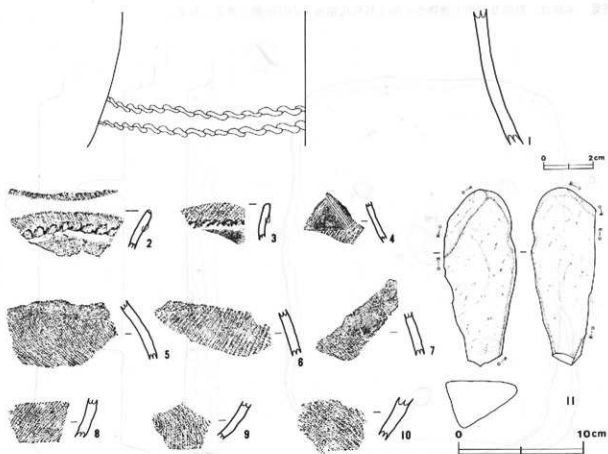
所見 本跡は、形態及び出土遺物から弥生時代後期後半の住居跡と考えられる。



第7図 第2・3号住居跡実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	広口壺 弥生土器	B (5.5)	腹部片。頸部はやや外反する。無文帯の中に2本の波状沈線を施している。	長石・雲母 褐色 普通	P2 10% PL6 床面



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第8図11	磨石	14.3	5.1	3.8	338.4	安山岩	覆土中層	Q2 P L 6

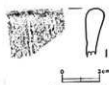
第3号住居跡 (第7図)

位置 調査区西部, P18f6区。

重複関係 第2号住居跡に掘り込まれており, 第2号住居跡より古い。

規模と平面形 壁の一部のみの確認のため規模及び平面形は不明である。

壁 壁高は15cmで, やや外傾して立ち上がる。



第9図 第3号
住居跡出土遺物実測図

土質解説
6 褐色 ローム小ブロック, ローム粒子中量

遺物 覆土中から縄文早期の土器片1点が出土している。第9図1は覆土から出土した縄文土器片の口縁部片で, 縦位の縄文が施文されている。

覆土 第2号住居に掘り込まれており, 覆土はほとんどない状態である。

所見 本跡は, 規模及び平面形が不明で, 出土遺物が少なく詳細は不明であるが, 出土遺物に縄文時代早期の土器片1点が覆土中から出土していることから, 縄文時代早期の住居跡の可能性も考えられる。

表2 東原遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	長径(m) 長軸×短軸 (cm)	短径(m)	床面	内部施設				炉・竈	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古-新)
							柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	P18c	N-27°-E	隅丸長方形	5.70×5.00	30~40	平坦	4	—	—	1	炉1	自然	弥生土器片119, 磨石1, 炭化種子	本跡→SD2
2	P18b	N-29°-W	隅丸長方形	6.05×4.40	40~55	平坦	4	—	—	1	炉1	自然	弥生土器片76, 磨石1, 炭化種子	
3	P18a	—	—	—	15	—	—	—	—	—	—	—	縄文土器片1	

2 地下式墳

当遺跡から地下式墳2基を検出した。以下、検出された地下式墳について記載する。

第1号地下式墳(第10図)

位置 調査区西部, P16c区。

主軸方向 N-6°-W

竪坑 上面は、長軸1.25m、短軸0.73mの長方形で、深さ1.56m。主室は、長軸0.73m、短軸0.52mの長方形で、底面は主室に向かって傾斜している。

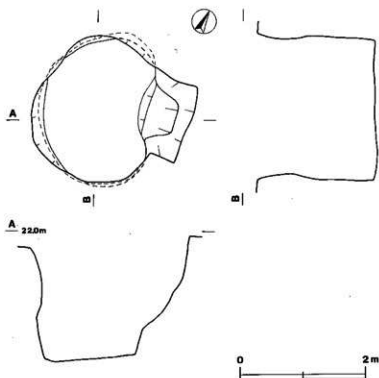
主室 底面は、長軸2.54m、短軸1.60mの楕円形で、平坦である。天井部から底面までの深さは(0.67)mである。

壁面 竪坑は外傾して立ち上がり、主室は垂直に立ち上がる。

覆土 主室は中空の状態を検出され、天井部の崩落の危険があるため、天井部を取り除いた。よって、覆土は検出されなかった。

遺物 出土していない。

所見 遺構の形態から中世の地下式墳であると思われる。



第10図 第1号地下式墳実測図

第2号地下式墳(第11図)

位置 調査区の西部, P16a区。

主軸方向 N-19°-W

竪坑 上面は、長径1.11m、短径0.45mの楕円形で、深さ0.34mである。底面は主室に向かって傾斜しており、長径0.85m、短径0.32mである。

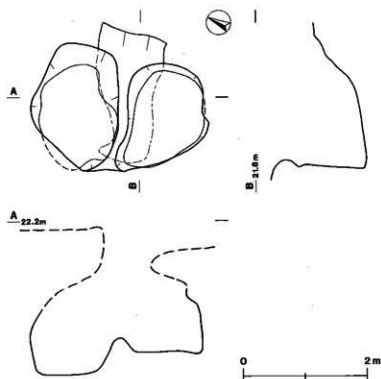
主室 底面は、長軸2.60m、短軸1.78mの長方形で、主室中央部に馬の背上の高まりがあり、底面を左右に分けている。天井部から底面までの深さは、主室左側が(0.58)mで右側が(0.72)mである。

壁面 竪坑は外傾して立ち上がり、主室は内傾して立ち上がる。

覆土 主室は中空の状態を検出され、天井部の崩落の危険があるため、天井部を取り除いた。よって、覆土は検出されなかった。

遺物 出土していない。

所見 遺構の形態から中世の地下式墳であると思われる。



第11図 第2号地下式墳実測図

表3 東原遺跡地下式墳一覧表

地下式墳番号	位置	長径方向 (採軸方向)	整 坑			主 室			壁 面	底 面	出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
			平面形	規 模		平面形	規 模					
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)		長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)				
1	P16c)	N-6°-南	長方形	1.25×0.73	154	楕円形	2.54×1.60	(67)	垂直	平埴		
2	P16a)	N-19°-南	楕円形	1.11×0.45	35	楕円形	2.60×1.78	左底面(58) 右底面(72)	内傾	中世前期の倉庫 土器類34件		

3 土坑

当遺跡からは、土坑23基が検出された。これらの土坑の形態は、楕円形11基、円形8基、長方形2基、不整形円形2基である。出土遺物は覆土上層からで、土坑に伴う遺物は検出されていない。形態及び遺物から時期や性格を判断するのは難しい。以下、検出した土坑については実測図(第12・13図)及び一覧表に記載する。

第1号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第2号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第3号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第4号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

第5号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第6号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第7号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量

第8号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック中量

第9号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第10号土坑 土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 赤褐色 焼土粒子少量
- 5 褐色 焼土粒子微量

第11号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量

第12号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第13号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第14号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第15号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量

第16号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック少量

第17号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量

第18号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第19号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

第20号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第21号土坑 土層解説

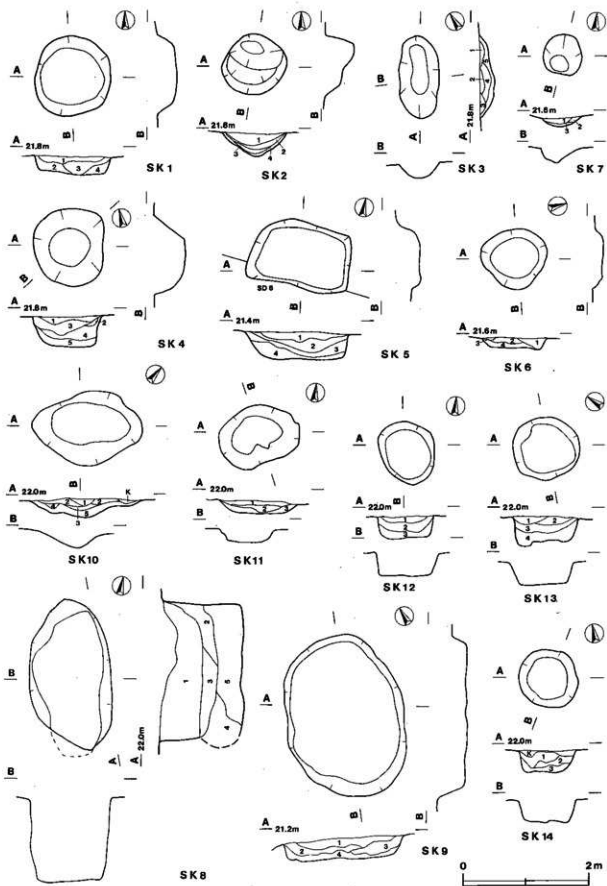
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

第22号土坑 土層解説

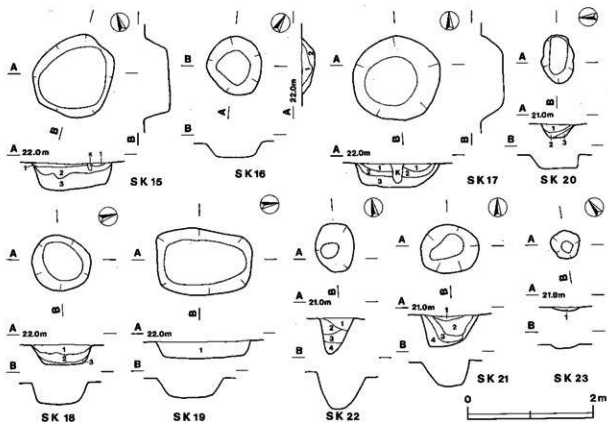
- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中・小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量

第23号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量



第12图 第1~14号土坑实测图



第13圖 第15~23号土坑実測圖

表4 東原遺跡土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧關係(旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	P16a ₁	—	円形	1.30×1.20	48	外傾	平坦	自然		
2	P16g ₇	N-90°-E	楕円形	1.05×0.90	53	外傾	皿状	自然	土師器片1	
3	P16g ₅	N-27°-E	楕円形	1.34×0.61	42	外傾	皿状	人為		
4	P16h ₅	—	円形	1.27×1.25	71	外傾	平坦	人為		
5	P16h ₃	N-70°-E	長方形	2.35×0.60	72	外傾	平坦	自然		
6	P16k ₄	K-79°-W	楕円形	1.10×0.98	25	傾斜	平坦	自然		
7	P16j ₆	N-28°-W	楕円形	0.60×0.30	35	外傾	皿状	自然		
8	P16b ₅	N-11°-W	楕円形	2.50×0.95	17	垂直	平坦	人為		
9	P19a ₁	N-29°-E	楕円形	2.64×1.90	48	外傾	平坦	自然	縄文土器片3	
10	P18d ₅	N-52°-E	不整楕円形	1.74×1.20	30	外傾	皿状	人為	土師器片1	
11	P18g ₀	N-82°-E	不整楕円形	1.30×0.95	24	外傾	平坦	自然		
12	P18g ₀	N-26°-W	楕円形	1.05×0.87	35	外傾	平坦	自然		
13	P18g ₀	N-42°-W	楕円形	1.10×1.00	35	外傾	平坦	自然		

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		側面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
14	P18b ₁	—	円 形	0.94×0.93	37	外傾	平坦	自然		
15	P18b ₂	—	円 形	1.33×1.30	42	外傾	平坦	自然		
16	P18b ₃	—	円 形	0.95×0.90	22	緩斜	皿状	自然		
17	P18c ₁	—	円 形	1.45×1.35	36	緩斜	平坦	自然	縄文土器片1	
18	P18c ₂	—	円 形	0.95×0.90	35	外傾	平坦	自然		
19	Q17j ₁	N-6°-E	長方形	1.50×1.02	30	緩斜	平坦	人為		
20	P19a ₁	N-24°-E	楕円形	0.80×0.48	27	緩斜	平坦	自然		
21	O18b ₁	N-76°-W	楕円形	0.95×0.80	50	緩斜	平坦	自然		
22	O19a ₁	N-14°-W	楕円形	0.80×0.65	60	外傾	皿状	人為		
23	P18c ₃	—	円 形	0.46×0.46	8	緩斜	皿状	自然		

4 溝

当遺跡からは、溝11条が検出された。形状に特徴のある溝について解説を加え、その他については実測図(付図1, 第17図)及び一覧表に記載する。

第3A号溝(第14図, 付図1)

位置 調査区東部 P18b₁~P19a₁区

重複関係 本跡が、第3B・3C号溝を掘り込んでおり、第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東側が調査区外になるため、正確な規模は不明である。北から南西(N-67°-E)に6.5m, 南へ曲がり(N-7°-E)28.9m延び、東(N-82°-E)へクランク状に曲がり19.1m延びる。上幅28~141cm, 下幅14~68cm, 深さ40cmである。断面形は緩やかなU字型である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説(1)

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

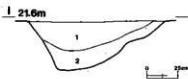
遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第3B号溝(第15図, 付図1)

位置 調査区東部 P18j₁~P18j₂区

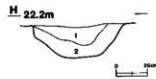
重複関係 本跡は、第3A号溝に掘り込まれている。



第14図 第3A号溝実測図



第15図 第3B号溝実測図



第16図 第3C号溝実測図

規模と形状 北から(南N-20°-E)へ1.6m, 東(N-5°-W)へ4.6m, 北(N-20°-E)へ1.8m延びる。上幅34~70cm, 下幅18~38cm, 深さ21cmである。断面形は緩やかなU字型である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説 (G)

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第3C号溝 (第16図, 付図1)

位置 調査区東部 P18₁₀~P18₁₀区

重複関係 本跡は, 第3A号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北から南西(N-55°-E)へ5.5m延びる。上幅32~68cm, 下幅12~31cm, 深さ22cmである。断面形はU字型である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説 (H)

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・砂粒微量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第1号溝 (A) 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第1号溝 (C) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第2号溝 (D) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム大・小ブロック少量

第4号溝 (J) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第5A号溝 (L) 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第5B号溝 (L) 土層解説

- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量

第6号溝 (M) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

第7号溝 (N) 土層解説

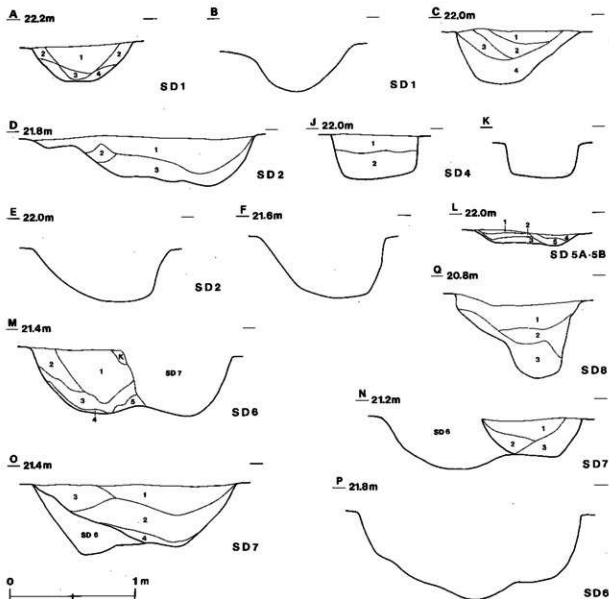
- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第7号溝 (O) 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

第8号溝 (Q) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム中量・小ブロック・ローム粒子少量



第17図 第1・2・4～8号溝実測図

表5 東原遺跡溝一覽表

溝番号	位置	方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 新旧関係(旧→新)
				溝口長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
1	P15a~P15a	東→西	直線状	(71.4)	72~119	11~29	92	U	平坦	自然	陶器1	
2	P15a~P15a	南→北東→西	くの字状	(60.0)	61~151	14~76	62	U	平坦	自然	陶文土器片17, 土師器片16, 陶器片5, 磁石1	SD 3A→本跡
3A	P15a~P15a	北→南東→西	くの字状	(54.5)	28~141	14~68	40	U	平坦	自然		SD 3B~3C→本跡→SD 2
3B	P15a~P15a	北→南東→西	コの字状	8.0	34~70	18~38	21	U	平坦	自然		本跡→SD 3A
3C	P15a~P15a	北→南西	S字状	5.5	32~68	12~31	22	U	平坦	自然		本跡→SD 3A
4	Q15a~Q15a	東→西→南	L字状	(14.8)	66~95	35~75	23	U	平坦	自然	陶文土器片2, 陶器片1	
5A	P15a~P15a	東→西	直線状	4.9	34~40	5~21	15	U	平坦	自然		本跡→SD 3B
5B	P15a~P15a	東→西	直線状	14.2	20~94	6~74	20	U	平坦	自然	陶文土器片18, 赤土器片SD 5A・本跡, SD 2と重複, 断面不明 土師器片8	
6	P15a~P15a	南→北→西	L字状	109.7	19~48	4~9	72	U	平坦	自然	土師器片15	本跡→SD 7
7	P15a~P15a	南→北→西	L字状	109.7	19~48	4~9	72	U	平坦	自然		SD 6→本跡
8	O15a~O15a	東→西	直線状	(24.5)	60~130	20~50	68	U	平坦	自然		

5 遺構外出土遺物

当遺跡の遺構外から、縄文時代から近世までの遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて記載する。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考	
第18図 1	釜鉢形土器 縄文土器	A (21.5) B (23.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して開く。胴部には2本1単位の斜線の沈線が施されている。	スコリア 明褐色 普通	P 5 10% P L 7 表採 (後期前葉)	
図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 2	杯 土器	B [0.9] D 4.6	底部片。平底。	底部内面ロクロナデ。底部余切り。	石英・雲母・スコリア にぶい黄色 普通	P 4 5% P L 7 表採
3	高台付杯 土器	B [2.0] D [8.1] E 0.7	底部片。平底。高台部はハの字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部面 転ヘラ切り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄色 普通	P 3 10% P L 7 表採

当遺跡から出土した縄文時代の遺物は、後期の土器片が主体であるが、早期～中期の土器片も出土している。

縄文時代早期に比定される土器 (第18図4～6)

4は口唇部外面や胴部に縄文が施文され、口縁部下に無文帯を持つ、井草式に比定される。5は縦位の縄文が施文されており、夏高式に比定される。6は口縁部に櫛状工具による細い沈線が施されており、三戸式に比定される。

縄文時代前期に比定される土器 (第18図7・8)

7は口唇部に刻み、胴部に縦位の羽状縄文が施文され、口縁部にループ文が施されており、関山式に比定される。8は貝殻腹縁文で施文後、沈線で区画されており、興津式に比定される。

縄文時代中期に比定される土器 (第18図9・10)

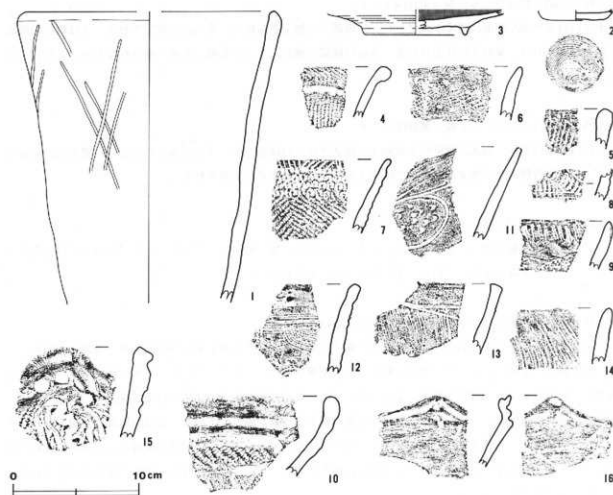
9は口唇部に半截竹管による押し引き文が施されており、加曾利Ⅰ式に比定される。10は単節縄文L Rを地文とし、太い沈線が施されており、加曾利Ⅲ式に比定される。

縄文時代後期に比定される土器 (第18図11～16, 第19図17～20)

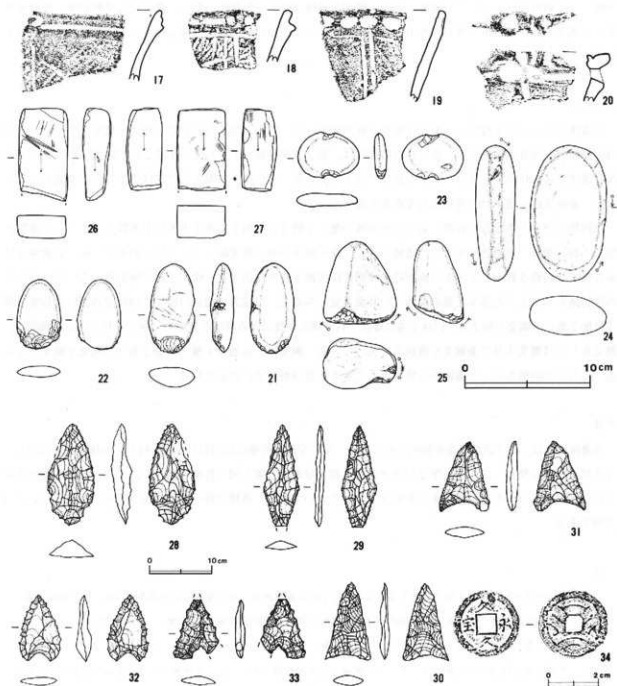
11は沈線で区画した中に刺突による列点文が施されている。12は3本1単位の櫛状工具で条線が施されている。13は横位の沈線の下に3本1単位の櫛条工具で条線が施されている。14は4～5本1単位の縦位の条線が施されている。11～14は称名寺Ⅱ式に比定される。15は波状口縁の上部に3個の刺突が施され、縄文を地文とし、蛇行沈線が施されている。16は口縁部に2個の刺突と沈線が施されている。17は口唇部に沈線を施し、その下に単節縄文R Lが施文されている。18は口唇部に2個の刺突を施し、口縁部の隆線の下に横位の沈線が施されている。19は指頭による押捺の下を沈線で区画されている。20は波状口縁の上部に1個の孔が穿たれている。15～20は堀之内Ⅰ式に比定される。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第19図21	礮石斧	7.2	3.7	1.5	63.2	安山岩	表採	Q6 PL7
22	礮石斧	5.6	3.6	0.8	22.1	緑閃石質	表採	Q7 PL7
23	石鏃	3.7	4.9	1.1	24.2	硬質砂岩	表採	Q8 PL7
24	磨石	10.9	6.1	3.1	300.9	砂岩	表採	Q5 PL7
25	磨石	6.6	5.8	4.1	205.1	赤色頁岩	表採	Q9 PL7
26	砥石	7.5	4.8	1.9	96.6	凝灰岩	表採	Q3 PL7
27	砥石 (6.7)	2.9	2.7		(131.6)	凝灰岩	表採	Q4 PL7
28	尖頭器	5.3	2.4	0.9	9.8	黒曜石	表採	Q10 PL7
29	尖頭器	4.1	1.4	0.3	1.7	チャート	表採	Q11 PL7
30	石鏃	3.1	1.8	0.4	1.7	チャート	表採	Q12 PL7
31	石鏃	2.8	2.1	0.5	1.6	チャート	表採	Q13 PL7
32	石鏃	2.6	1.6	0.3	1.7	黒曜石	表採	Q14 PL7
33	石鏃	2.2	1.8	0.3	1.3	黒曜石	表採	Q15 PL7

図版番号	図種	初鋳年		出土地点	備考
		年号(西暦)			
第19図34	文久永曹	文久3年(1863)		表採	M1 PL7



第18図 遺構外出土遺物実測図(1)



第19図 遺構外出土遺物実測図(2)

第4節 まとめ

今回の調査で確認した遺構は、竪穴住居跡3軒、地下式竈2基、土坑23基及び溝11条である。ここでは、各時期ごとに概観してまとめたい。

縄文時代

当遺跡と谷津を挟んだ北東側の菰五郎崎遺跡から、縄文時代の住居跡5軒が検出され、菰五郎崎遺跡が生活

の場として利用されていた。⁽¹⁾当遺跡からは、縄文の遺構は検出されなかったが、縄文時代早期前葉～後期前葉までの縄文土器片や石鏃・磨石等が出土している。このことから、当遺跡も縄文時代の生活の場として利用されていたと考えられる。

弥生時代

当遺跡の中心となる時代で、堅穴住居跡2軒が検出されている。取手市内の弥生時代の遺跡としては、市之台古墳群と大渡Ⅱ遺跡がある。⁽²⁾市之台古墳群では、第3号墳の盛り土から弥生土器2点が確認されている。大渡Ⅱ遺跡では、住居跡2軒から弥生土器片が出土している。このように取手市内では弥生時代の遺跡が少ないので、東原遺跡の遺構及び遺物は大変貴重な資料となる。

今回検出された第1号住居跡、第2号住居跡の覆土下層及び床面から弥生土器片が多数出土した。当遺跡の弥生土器に類似した遺物が出土した遺跡として、竜ヶ崎市の南三島遺跡(3・5区)がある。⁽³⁾南三島遺跡3区から堅穴住居跡5軒が、5区から弥生時代後期の住居跡1軒が検出され、弥生土器が検出されている。これらの住居跡から出土した弥生土器の共通した特徴を見てみると、口縁部は複合口縁で、口縁部外面に付加条1種(付加2条)の縄文を施文し、口縁下端に棒状工具か縄文原体による押圧が連続して加えられている。頸部は、無文もしくは柳条工具で条線文や波状文を施している。胴部は、付加条1種(付加2条)の縄文を施文している。これらの特徴から、当遺跡から検出された弥生土器は長岡式に比定される。

中世

当遺跡からは、地下式横2基が検出されている。第1号地下式横は楕円形の主室を持ち、堅坑は主室に向かってスロープ状に傾斜している。第2号地下式横も第1号地下式横と同じ特徴を持つが、主室の底面が縦坑を中心にして左右に分かれ、特徴のある形状をしている。いずれも、遺構に伴う遺物は出土せず、詳細については不明である。

註

- (1) 茨城県教育財団「取手都市計画事業下高井特定土地地区面整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 菘五郎崎遺跡 下高井向原Ⅰ遺跡 下高井向原Ⅱ遺跡」【茨城県教育財団文化財調査報告第107集】 1996年3月
- (2) 取手市教育委員会【取手市原始古代(考古)資料編】 1989年3月
- (3) 茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書12 南三島遺跡5区」【茨城県教育財団文化財調査報告第32集】 1986年3月
茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書18 南三島遺跡3・4区(Ⅱ)」【茨城県教育財団文化財調査報告第49集】 1989年3月

第4章 前畑遺跡

第1節 遺跡の概要

前畑遺跡は、取手市の北西部、小貝川右岸から南西方向に入り込む支谷に面した台地北側の標高20～22mに位置する。当遺跡は、縄文時代及び中・近世の複合遺跡である。現状は畑地で、調査面積は5,622㎡である。東側には大山I遺跡、小支谷を挟んだ北側には東原遺跡がある。

今回の発掘調査によって検出した遺構は、土坑24基、溝2条である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に2箱出土した。遺物は、縄文時代中期から後期までの縄文土器片、泥面子、砥石及び古銭である。

第2節 基本層序

調査区北部の台地平坦部（U15h2区）にテストピットを設定した。深さ3.5mまで掘り下げ、第20図に示すような土層の堆積状況を確認した。

第1層 厚さ20cm～40cmで、黒褐色の耕作土である。

第2層 厚さ10cm～30cmで、褐色のソフトローム層である。

第3層 厚さ10cm～30cmで、暗褐色のソフトローム層である。粘性、締まりともに強い。

第4層 厚さ10cm～40cmで、褐色のハードローム層である。赤色スコリアを極少量含み、締まりが強い。

第5層 厚さ20cm～40cmで、暗褐色のハードローム層である。赤色スコリアを少量含み、締まりが強い。色調から黒色帯と見られる。

第6層 厚さ15cm～50cmで、褐色のハードローム層である。締まりが強い。

第7層 厚さ10cm～20cmの褐色土で、ロームブロックを多量に含む。締まりが強い。

第8層 厚さ30cm～50cmの暗褐色土である。締まりが強い。

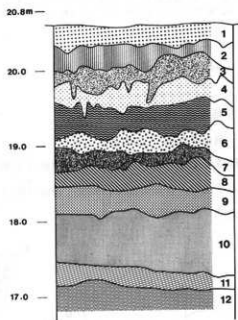
第9層 厚さ20cm～40cmの褐色土で、締まりが強い。

第10層 厚さ60cm～80cmの暗褐色土で、粘性、締まりともに強い。

第11層 厚さ15cm～20cmの褐色土である。粘性、締まりともに強い。

第12層 暗褐色をした粘土層である。厚さは20cm以上である。

遺構は、第1層下面及び第2層上面で確認され、第2層から第3層にかけて掘り込まれている。



第20図 前畑遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 土坑

当遺跡からは、土坑24基が検出された。土坑からの出土遺物は覆土上層からで、遺構に伴う遺物は検出されていない。ここでは、形状及び覆土の状態に特徴のある土坑について解説を加え、その他は実測図（第22・23図）及び一覧表に記載する。

第4号土坑（第21図）

位置 調査区西部 V12f₆区

重複関係 本跡が、第6号土坑を掘り込んでいる。第5号土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.70m、短径1.20mの不整楕円形で、深さ38cmである。

長軸方向 N-58°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

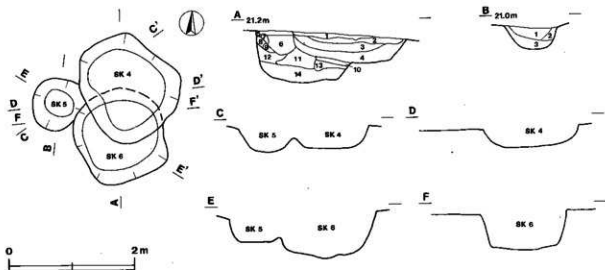
第5号土坑（第21図）

位置 調査区西部 V12f₆区

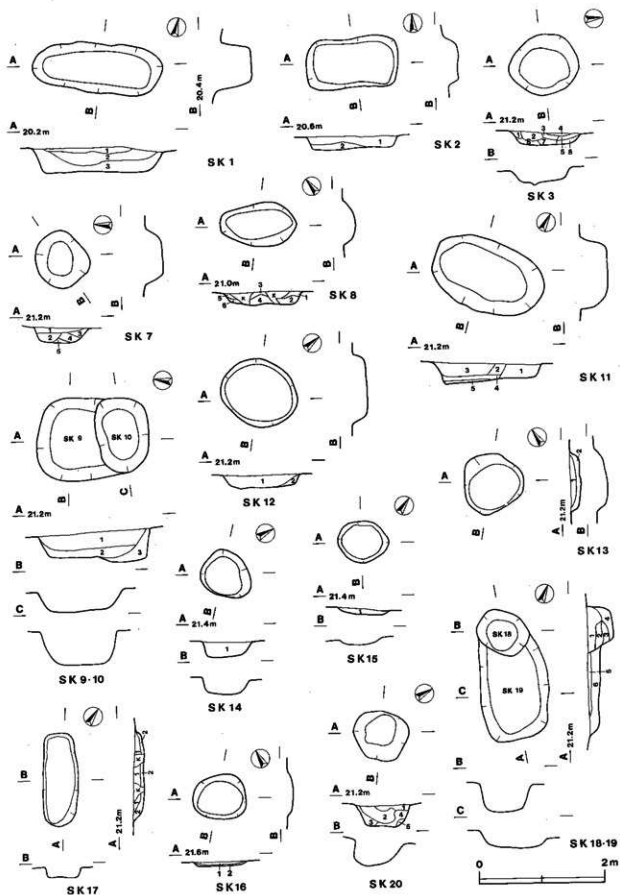
重複関係 第4・6号土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径0.90m、短径0.79mの楕円形で、深さ34cmである。

長軸方向 N-52°-E



第21図 第4～6号土坑実測図



第22图 第1~3·7~20号土坑实测图

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第6号土坑 (第21図)

位置 調査区西部 V12fa区

重複関係 本跡は、第4号土坑に掘り込まれている。第5号土坑との新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.48m, 短径1.33mの不整形円形で、深さ66cmである。

長軸方向 N-33°-W

壁面 垂直に立ち上がる。

底面 緩やかな凸凹があるが、ほぼ平坦である。

覆土 10層からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子中量
- 12 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 明褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡は、出土遺物がなく時期は不明である。遺構の形状及び覆土の状態から墓坑の可能性が考えられる。

第1号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第2号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大・中ブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量

第3号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム粒子多量

第7号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第8号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第9号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 炭化物・ローム粒子少量

第10号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第11号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 5 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量

第12号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

第13号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量

第14号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第15号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム粒子微量

第16号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第17号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第18号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量

第19号土坑 土層解説

- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第20号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第21号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第22号土坑 土層解説

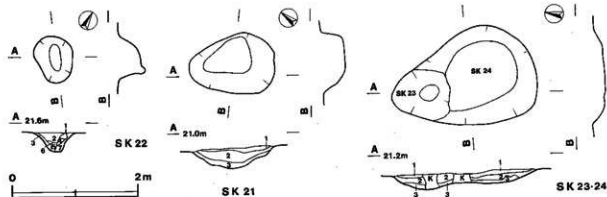
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第23号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第24号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量



第23図 第21~24号土坑実測図

表6 前畑遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置 (長軸方向)	平面形	果核		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(旧一新)
			長さ×短径(m)	深さ(cm)					
1	V12ca	N-80°-E	楕円形	2.10×0.80	68	垂直	平坦	自然	
2	V13fa	N-82°-W	長方形	1.50×0.80	22	緩斜	皿状	人為	土師質土器片1

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3	V12f	N-28°-W	楕円形	1.31 × 0.96	26	緩斜	平坦	人為		
4	V12g	N-58°-W	不整形円形	1.70 × 1.20	38	外傾	平坦	自然		SK6→本跡、 SK5の新旧不明
5	V12h	N-52°-E	楕円形	0.90 × 0.79	34	外傾	平坦	自然		SK4・6との新旧 不明
6	V12i	N-33°-W	不整形円形	1.48 × 1.33	66	垂直	平坦	人為		本跡→SK4、 SK5の新旧不明
7	V12j	E-82°-W	楕円形	[1.86] × 0.92	34	外傾	平坦	人為		
8	V12e	N-52°-W	楕円形	1.22 × 0.72	20	外傾	皿状	人為		
9	V12k	N-82°-E	楕円形	1.35 × 0.95	35	外傾	平坦	自然	土師器片1、土師質土器片4	
10	V12l	N-70°-E	楕円形	1.26 × 0.85	60	外傾	平坦	自然		
11	V12m	N-90°	楕円形	1.83 × 1.34	46	外傾	平坦	人為	土師質土器片1	
12	V12n	N-66°-E	楕円形	1.25 × 1.02	25	外傾	平坦	人為		
13	V13a	—	円形	0.95 × 0.92	19	緩斜	平坦	自然		
14	V13b	N-62°-E	楕円形	0.85 × 0.70	27	垂直	平坦	人為		
15	V12o	N-52°-E	楕円形	0.82 × 0.68	11	緩斜	皿状	人為		
16	V12p	N-58°-W	楕円形	0.87 × 0.72	10	緩斜	平坦	自然		
17	V12q	N-40°-W	楕円形	1.50 × 0.52	18	外傾	平坦	自然		SK19→本跡
18	V13f	N-90°	楕円形	0.85 × 0.64	48	外傾	平坦	人為		本跡→SK18
19	V13i	N-33°-W	楕円形	[2.10] × 0.85	29	緩斜	平坦	自然		
20	V13j	N-82°-W	楕円形	0.90 × 0.80	58	外傾	平坦	人為		
21	V13k	N-45°-W	楕円形	1.40 × 0.93	43	外傾	平坦	自然		
22	V13l	N-34°-W	楕円形	0.75 × 0.87	45	外傾	皿状	人為		本跡→SK24
23	V14a	—	円形	[0.98] × 0.95	25	外傾	皿状	自然	縄文土器片15	SK23→本跡
24	V14b	—	円形	[1.44] × 1.42	18	外傾	平坦	自然		

2 溝

当遺跡からは、溝2条が検出された。以下、検出された溝について記載する。

第1号溝 (第24図、付図2)

位置 調査区西部 V12es～V12h区

規模と形状 北側及び南側が調査区外に延びるため、正確な規模は不明である。北から南(N-15°-E)へ14.0m延びる。上幅94～158cm、下幅52～121cm、深さ50cmである。断面形はU字形である。

覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説(A)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒了中量、ローム中・小ブロック少量
- 6 黒色 ローム粒子微量
- 7 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第2号溝 (第24図, 付図2)

位置 調査区西部 V13f~W12a区

規模と形状 北側及び南側が調査区外に延びるため、正確な規模は不明である。北から南(N-46°-E)へ35.0m延びる。上幅88~142cm, 下幅40~92cm, 深さ66cmである。断面形はU字形である。

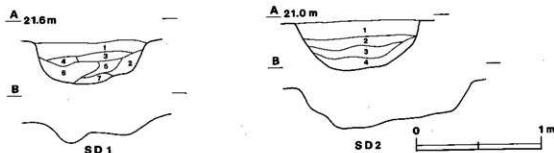
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説 (A)

- 1 黒褐色 粘土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 3 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第24図 第1・2号溝実測図

表7 前畑遺跡 溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考
				幅長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					重複関係 新旧関係(H→新)
1	V12a~V12b	北→南	くの字状	(14.0)	94~158	52~121	50	U	平坦	自然		
2	V13a~W12a	北東→南西	直線状	(35.0)	88~142	40~92	66	U	平坦	人為		

3 遺構外出土遺物

当遺跡の遺構外から、縄文時代から近世までの遺物が出土している。ここではこれらの出土遺物のうち特徴的なものについて記載する。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	前面値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	杯 土器	B (1.8) D (6.8)	底部・体部片。平底。体部は内彎き。矢筈に立ち上がる。	体部外面口クロナデ。内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。内面黒色処理。	石英・雲母にふい黄褐色 普通	P1 10% P.L10 表注

当遺跡から出土した縄文時代の遺物は、中期の土器が主体であるが、前期の土器片も出土している。

縄文時代前期に比定される土器 (第25図2・3)

2は三角刺突文と半截竹管による沈線で施文しており、興津式に比定される。3は無節の縄文を結節して施文しており、粟島台式に比定される。

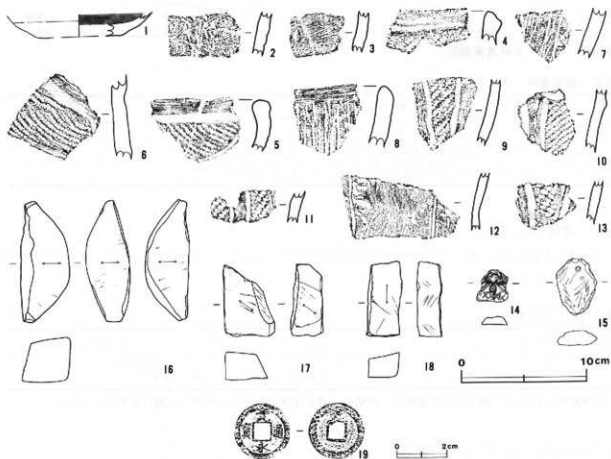
縄文時代中期に比定される土器（第25図4～13）

4・5は単節縄文RLを地文とし太い沈線を施している。6は単節縄文RLを施した波状口縁部片である。7・8は櫛条工具で沈線を施している。9～11は単節縄文RLの地文に沈線で区画し、その中を磨り消している。12は沈線で区画されている。13は沈線で区画後、単節縄文RLを充填している。これらは加曾利E-Ⅲ式に比定される。

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第25図14	泥面子	2.6	2.5	0.7	3.9	表採	DP1 P L10
15	彫形土製品	4.1	3.3	1.2	13.2	表採	DP2 P L10

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第25図16	砥石	9.8	3.9	3.6	136.8	凝灰岩	表採	Q1 P L10
17	砥石	5.8	4.0	2.2	76.8	凝灰岩	表採	Q2 P L10
18	砥石	6.1	2.8	2.0	45.8	凝灰岩	表採	Q3 P L10

図版番号	銭種	初鑄年		出土地点	備考
		年号(西暦)			
第25図19	寛永通宝	元文4年	(1739)	表採	M1 P L10



第25図 遺構外出土遺物実測図

第4節 まとめ

今回の調査で確認した遺構は、土坑24基及び溝2条である。遺物は縄文土器片、土師器片、石器及び古銭である。

当遺跡から縄文時代に係わる遺構は検出されていないが、縄文時代の遺物として前期（興津式・粟島台式）から中期（加曾利E—Ⅲ式）の土器片が出土している。このことから当遺跡は、縄文時代前期から中期の生活の場として利用されていたと考えられる。当遺跡周辺の地形は、南側に台地が広がることから、当時の集落は、南側の台地上に営まれていたと思われる。

また、溝2条が検出されているが、どちらも台地から小支谷に向かい傾斜しているので、排水の施設の可能性が考えられる。

第5章 柏原遺跡

第1節 遺跡の概要

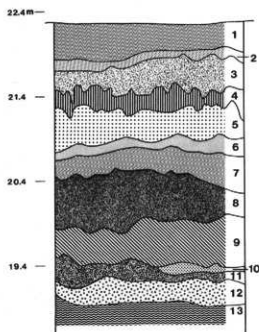
柏原遺跡は、取手市の北西部、小貝川右岸から南西方向に入り込む支谷に面した台地北側の標高20~23mに位置する。当遺跡は、旧石器時代、縄文時代、弥生時代及び奈良・平安時代の複合遺跡である。現状は畑地で、調査面積は10,406㎡である。小支谷を挟んだ東側には前畑遺跡、北東側には東原遺跡がある。

今回の発掘調査によって確認した遺構は、旧石器時代の集中地点5か所、縄文時代は、住居跡2軒、陥とし穴4基、土坑2基、弥生時代は、住居跡1軒、平安時代は、住居跡1軒、他に時期不明の住居跡1軒、土坑34基、溝22条である。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に9箱出土した。旧石器時代の遺物は、細石刃核、細石刃、彫器、搔器、削器及び尖頭器である。縄文時代の遺物は、早期から後期までの縄文土器、尖頭器、石鏃及び磨石である。弥生時代の遺物は、弥生土器及び紡錘車である。平安時代の遺物は、土師器の坏である。

第2節 基本層序

調査区東側の台地平坦部(V5g区)にテストピットを設定した。深さ3.4mまで掘り下げ、第26図に示すような土層の堆積状況を確認した。



第26図 柏原遺跡基本土層図

- 第1層 厚さ20cm~40cmで、黒褐色の耕作土である。
- 第2層 厚さ5cm~10cmで、黒褐色で、ローム粒子を中量含む。
- 第3層 厚さ20cm~40cmで、褐色のソフトローム層である。赤色スコリアを少量含む。
- 第4層 厚さ10cm~30cmで、褐色のハードローム層である。赤色スコリアを少量含む。
- 第5層 厚さ20cm~50cmで、暗褐色のハードローム層である。色調から黒色帯と見られる。
- 第6層 厚さ10cm~20cmで、褐色のハードローム層である。
- 第7層 厚さ20cm~40cmの褐色土である。
- 第8層 厚さ30cm~65cmの暗褐色土である。
- 第9層 厚さ20cm~40cmの暗褐色土で、粘性が強い。
- 第10層 厚さ5cm~20cm褐色土で、鉄分を少量を含む。粘性、締まりともに強い。

- 第11層 厚さ5cm~40cmの褐色土で、鉄分、粘土を少量含む、粘性、締まりともに強い。
- 第12層 厚さ10cm~30cmの暗褐色土で、鉄分、粘土を少量含む、粘性、締まりともに強い。
- 第13層 褐灰色をした粘土層である。厚さは20cm以上である。

遺構は、第2層下面及び第3層上面で確認され、第3層から第4層にかけて掘り込んでいる。

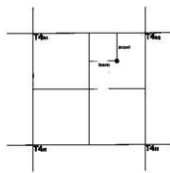
第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代

(1) 調査の概要と方法

当遺跡において旧石器時代の調査を行った区域は、遺跡の北側の台地縁辺部で、標高は約21mである。旧石器時代の存在については、遺跡調査の過程で、該期と思われる石器が出土したことから、調査方法を検討し調査を実施した。その結果、石器集中地点が確認され、表8のように礫を含め石器等243点が出土した。

旧石器の調査については、当初調査区T4g₁・T4h₁・T4h₂区から頁岩の石器等が相当数(16点)出土していることから、当該グリッドを中心に調査区を設定した。各グリッド(4m四方の調査区)を四つに分け、2m四方の小調査区(I~IV)を設定した。調査過程で出土した石器等を原位置に保持した状態で調査を進めたかったが、集中地点での遺物が集中し原位置を保持することができないため、個別写真記録を施したのち、平面位置の計測を第27図のような方法で実施し、その計測値(「北→南Acm」「西→東Bcm」)に基づき、整理の段階で図化することとした。また、面的な観察を通して石器集中地点の予測と正確な把握ができるように、出土した石器等の位置を保持するため、石器等の出土位置に印を付け、掘り下げた。さらに、生活の痕跡も注視しながら慎重に作業を行ったが、生活の痕跡は認められなかった。



第27図 遺物平面位置計測法

調査区の北部(T4c₁~T4c₄区)と東部(T4c₄~T4i₄区)に土層観察ベルトを設定し、土層観察を行った。

表8 石材別石器一覧表

器種	石 材								合計
	頁岩	チャート	珉 珉	黒曜石	安山岩	石英	粘板岩	硬質砂岩	
細石刃核	2								2
細石刃	104								104
形器	1								1
掻器	1								1
削器	1								1
尖頭器					1				1
石 錐		2							2
礫			8						8
剥片	49	40	11	19		1	2	1	123
合計	158	42	19	19	1	1	2	1	243

(2) 基本層序と垂直分布

旧石器時代の調査について、基本層序を検討するため調査区東部（V5g₃区）にテストピットを設定し、土壌観察を行った。その結果については、第5章第2節「遺跡の基本層序」の項を参照されたい。3層は褐色のソフトローム層、5層は暗褐色ローム層として扱ったが、土壌分析の結果3層中部から浅間火山ガラス（約1.2万年前）が、5層上部から始良カルデラ火山ガラス（約2.1~2.5万年前）が検出されている。石器類は3層から集中して出土した。出土した石材は、頁岩・チャート・瑪瑙・黒曜石・安山岩・石英・粘板岩及び砂岩である。柏原遺跡の所在する取手市周辺の立川ローム層の厚さは1m程度であり、他の時期の遺物がまじりやすい。旧石器調査で出土したチャートは、剥片とともに石鏃が出土したので、縄文時代のもと思われる。

(3) 石器等の平面分布

調査により出土した、石器の石材及び器種の平面分布は、第30・31図に示したとおりであるが、この図から、石器集中地点は第1~5号の5か所と思われる。第1~4号石器集中地点の石材は、頁岩である。第5号石器集中地点の石材は、黒曜石である。以下、確認された石器集中地点と出土した遺物について記載する。

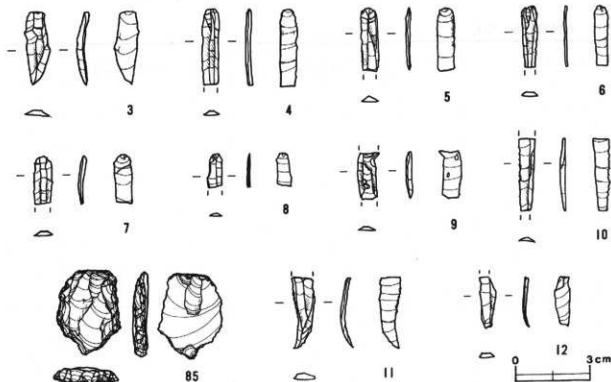
第1号石器集中地点（第31図）

位置 T4d₁区からT4d₃区。

規模 南北約8m、東西約10mの不整形の範囲内にある。遺物のまともりは中央部に認められる。

確認土層 第3層の範囲に集中して確認された。

遺物 本石器集中地点は、細石刃を主体としている。細石刃11点、掻器1点、剥片3点である。第28図3~12・91（写真のみ掲載）は湧別技法系による細石刃である。85は全周を調整加工し基部がやや細く作出された掻器である。114（写真のみ掲載）は剥片である。



第28図 第1号石器集中地点石器実測図

所見 細石刃、剥片が出土していることから、石器製作跡の可能性が考えられる。

第2号石器集中地点（第31図）

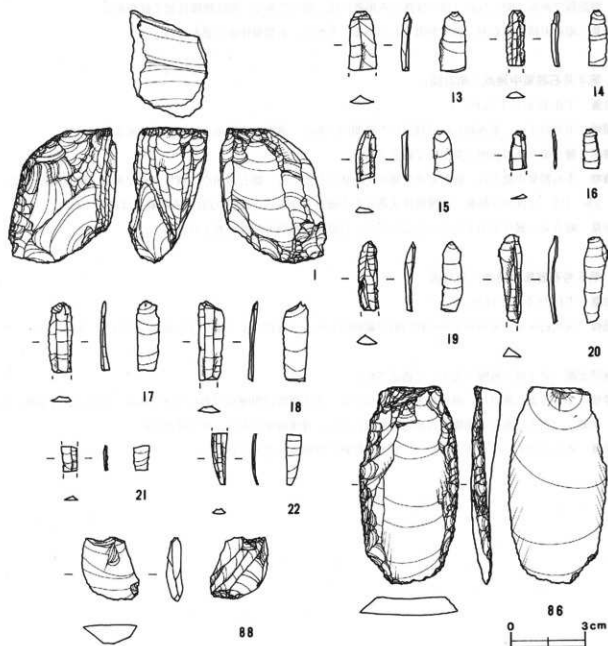
位置 T4g1区からT4g4区。

規模 南北約5m、東西約10mの楕円形の範囲内にある。遺物のまともりは中央部から西部にかけて認められる。

確認土層 第3層の範囲に集中して確認された。

遺物 本石器集中地点は、細石刃及び剥片を主体としている。細石刃核1点、細石刃16点、削器1点、剥片9点である。第29図1は細石刃剥離面が残る乳滑型細石刃核である。13～22・92～97（写真のみ掲載）は湧別技法系による細石刃である。86は薄手の縦長剥片を素材とし、刃部の2割縁及び先端部が調整加工された削器である。88は先端部に加工痕のある剥片である。

所見 細石刃核、細石刃、剥片が出土していることから、石器製作跡と思われる。



第29図 第2号石器集中地点石器実測図

第3号石器集中地点(第31図)

位置 T4g₁区からT4h₂区。

規模 南北約6m, 東西約11mの楕円形の範囲内にある。遺物の密集地点は中央部から西部にかけてである。

確認土層 第3層の範囲に集中して確認された。

遺物 本石器集中地点は、細石刃を主体としている。細石刃核1点, 細石刃65点, 彫器1点, 剥片24点である。

第32図2は調整素材を半割し, 細石刃剥離面の残る舟底形の細石刃核である。23~30・第33図31~57・第34図58~76・98~108(写真のみ掲載)は湧別技法系による細石刃である。30は当遺跡で出土した最大の細石刃で, 長さ5.9cm, 幅0.9cm, 厚さ0.25cm, 重さ1.8gである。打点は小さく, 主要剥離面に打瘤を残し, 断面は台形を呈している。第32図接合資料1は, 2枚(27, 28)の細石刃の接合である。接合資料2は, 2枚(29, 30)の細石刃の接合である。第33図接合資料3は, 2枚(40, 41)の接合である。第34図84は縦長剥片を半月型に整形した後, 先端部右上端部より左肩に斜めに彫刻刀面剥離によって作出された刃部を持つ荒屋型彫器である。89, 115~117(写真のみ掲載)は, 剥片である。89は側縁に加工痕がある。

所見 細石刃核, 細石刃, 剥片が出土していることから, 石器製作跡と思われる。

第4号石器集中地点(第31図)

位置 T4h₄区からT4h₆区。

規模 南北約3m, 東西約6mの楕円形の範囲内にある。遺物の密集地点は中央部である。

確認土層 第3層の範囲に集中して確認された。

遺物 本石器集中地点は, 細石刃及び剥片を主体としている。細石刃10点, 剥片7点である。第35図77~82・109~112(写真のみ掲載)は湧別技法系による細石刃である。118(写真のみ掲載)は剥片である。

所見 細石刃, 剥片が出土していることから, 石器製作跡の可能性が考えられる。

第5号石器集中地点(第31図)

位置 T4d₂区からT4f₃区。

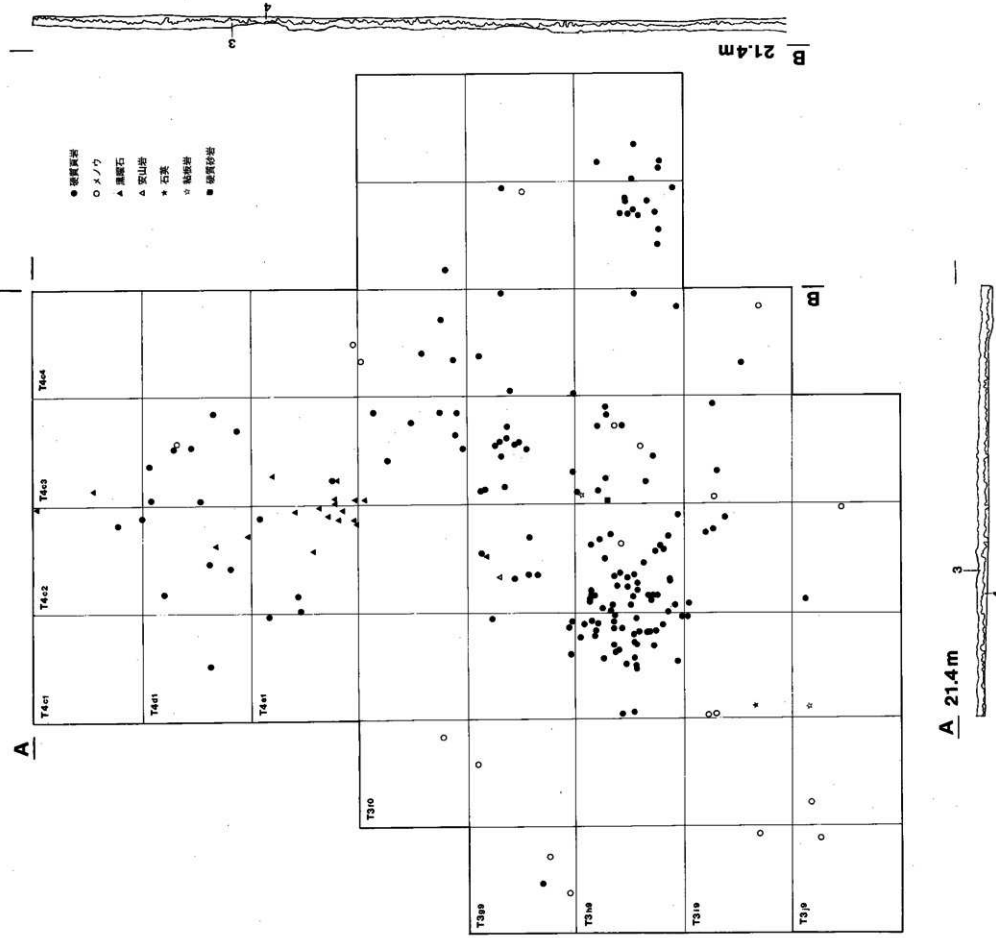
規模 南北約6m, 東西約4mの楕円形の範囲内にある。遺物のまとまりは中央部から南部にかけて認められる。

確認土層 第3層の範囲に集中して確認された。

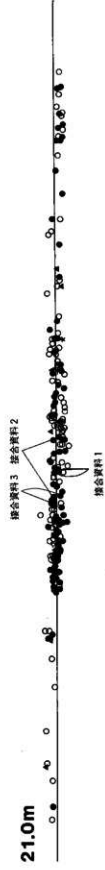
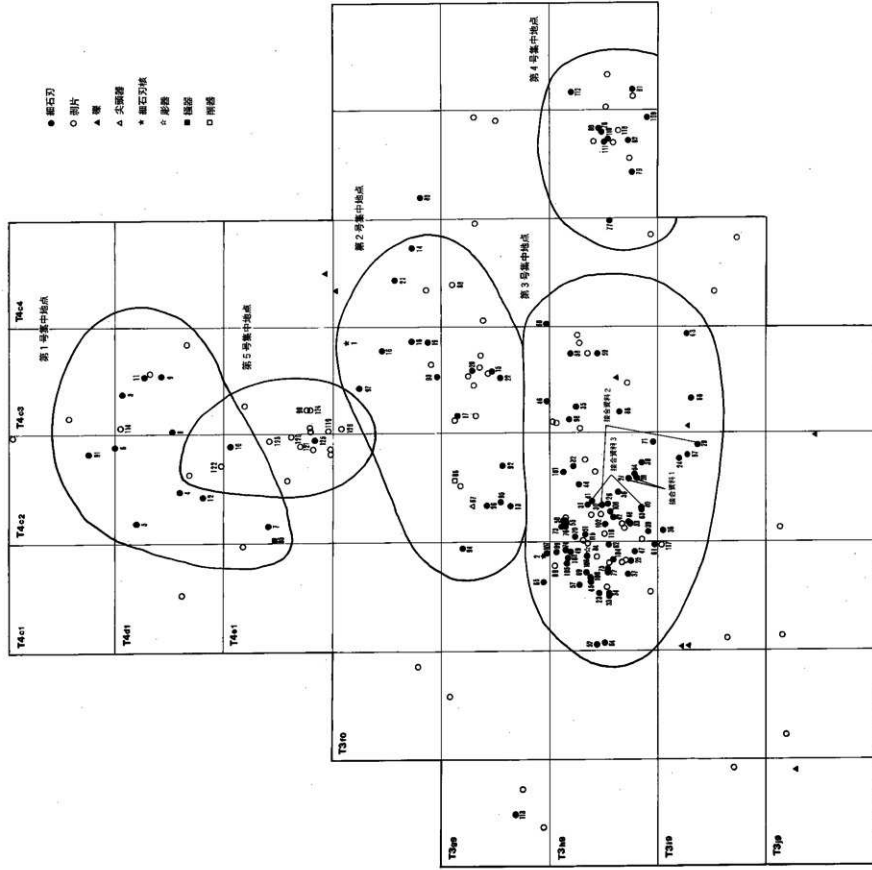
遺物 本石器集中地点は, 剥片を主体としている。出土遺物は黒曜石の剥片16点である。119~126(写真のみ掲載)は剥片である。黒曜石の産地は分析により, 神津島産であることが確認された。

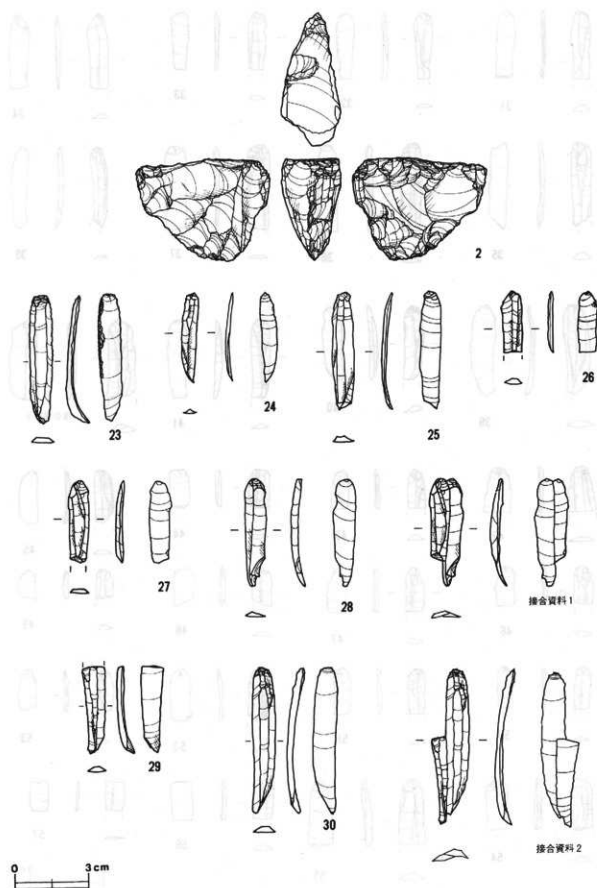
所見 剥片が出土していることから, 石器製作跡の可能性が考えられる。

第30図 石材別石器集中地点平面図

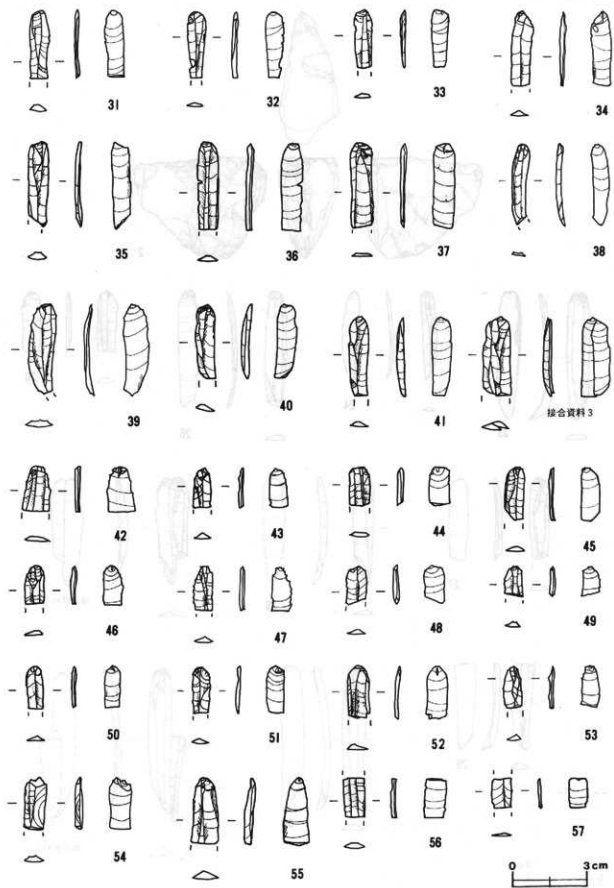


第31图 器種別石器集中心地点平面图

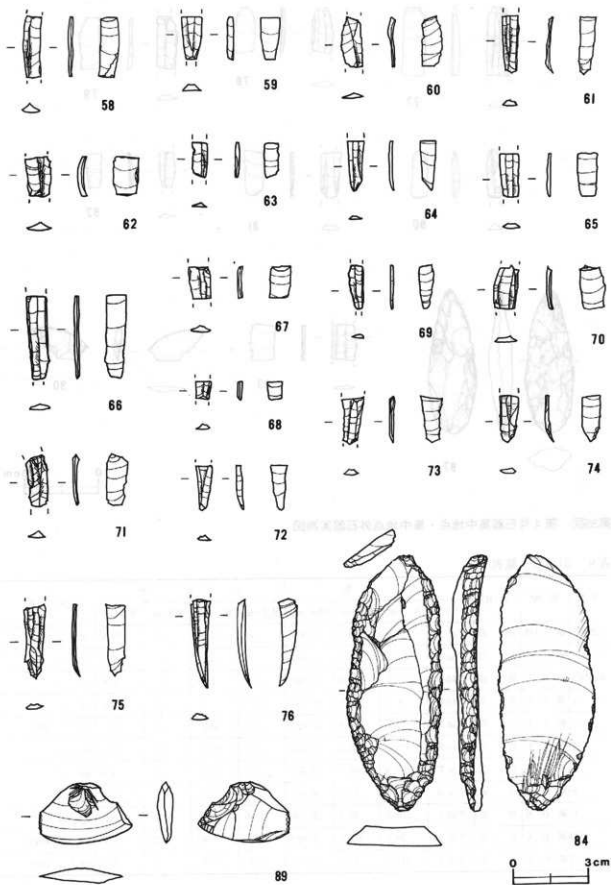




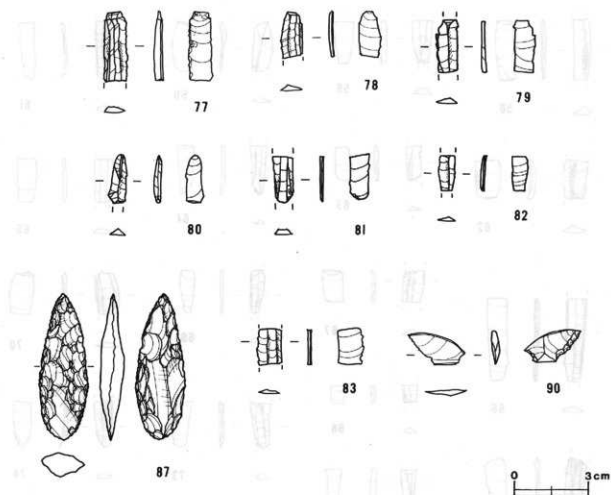
第32图 第3号石器集中地点石器实测图(1)



第33图 第3号石器集中地点石器实测图(2)



第34图 第3号石器集中地点石器实测图(3)



第35図 第4号石器集中地点・集中地点外石器実測図

表9 旧石器一覧表

番号	器種	石材	位 置			計 測 値				備 考	
			グリッド	A (cm)	B (cm)	標高(m)	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)		重さ(g)
第29図1	細石刃核	頁岩	T4G I	51.0	139.5	20.829	5.4	3.0	4.4	69.8	Q2 P1E
第32図2	細石刃核	頁岩	T4g, II	177.1	145.6	21.061	4.15	5.3	2.4	47.1	Q3 P1E
第28図3	細石刃	頁岩	T4d, IV	22.5	149.0	20.801	2.9	1.05	0.4	0.6	Q3 P1E
4	細石刃	頁岩	T4d, III	30.6	138.9	21.044	3.0	0.7	0.2	0.4	Q3 P1E
5	細石刃	頁岩	T4d, IV	79.7	70.6	20.823	2.5	0.7	0.2	0.4	Q3 P1E 使用痕あり
6	細石刃	頁岩	T4c, II	193.5	151.0	20.733	2.4	0.6	0.2	0.2	Q2 P1D
7	細石刃	頁岩	T4e, IV	168.0	60.0	20.732	1.9	0.7	0.2	0.3	Q3 P1E
8	細石刃	頁岩	T4d, III	9.0	13.0	20.831	1.3	0.6	0.1	0.1	Q3 P1E
9	細石刃	頁岩	T4d, I	170.3	18.5	20.738	1.85	0.8	0.2	0.2	Q2 P1E
10	細石刃	頁岩	T4e, I	20.5	153.0	20.820	2.9	0.65	0.25	0.4	Q3 P1E 使用痕あり
11	細石刃	頁岩	T4d, I	110.0	13.0	20.851	2.8	0.8	0.4	0.5	Q3 P1E 使用痕あり

	12	細石刀	頁岩	T4d ₁ E	119.8	163.0	20.884	2.0	0.6	0.2	0.1	Q8 PLD
第29圖	13	細石刀	頁岩	T4g ₁ E	57.0	134.0	21.085	2.4	1.2	0.3	0.8	Q8 PLD
	14	細石刀	頁岩	T4f ₁ E	98.0	91.0	20.877	2.2	0.7	0.3	0.4	Q8 PLD
	15	細石刀	頁岩	T4g ₁ I	187.0	29.0	20.988	2.0	0.8	0.2	0.4	Q8 PLD
	16	細石刀	頁岩	T4f ₁ I	186.0	106.0	20.907	1.6	0.65	0.1	0.2	Q8 PLD
	17	細石刀	頁岩	T4g ₁ V	53.5	55.0	21.142	2.7	0.9	0.2	0.8	Q8 PLD 使用標本)
	18	細石刀	頁岩	T4f ₁ II	94.5	136.5	20.929	3.15	1.0	0.3	1.0	Q7 PLD
	19	細石刀	頁岩	T4f ₁ II	156.0	139.0	21.056	2.8	0.8	0.4	0.8	Q8 PLD 使用標本)
	20	細石刀	頁岩	T4g ₁ I	112.0	33.0	20.882	3.6	0.9	0.4	0.8	Q8 PLD
	21	細石刀	頁岩	T4f ₁ III	21.5	169.0	20.853	1.0	0.7	0.15	0.1	Q8 PLD
	22	細石刀	頁岩	T4g ₁ E	18.5	5.0	21.066	2.0	0.6	0.2	0.2	Q8 PLD
第32圖	23	細石刀	頁岩	T4h ₁ I	185.0	7.0	21.136	5.1	0.9	0.2	1.9	Q8 PLD 使用標本)
	24	細石刀	頁岩	T4i ₁ I	74.0	102.5	21.001	3.6	0.7	0.3	0.4	Q8 PLD
	25	細石刀	頁岩	T4h ₁ II	95.7	133.5	21.000	4.2	0.8	0.45	1.1	Q10 PLD
	26	細石刀	頁岩	T4h ₁ III	15.6	142.5	21.177	2.45	0.8	0.2	0.4	Q9 PLD
	27	細石刀	頁岩	T4h ₁ II	97.5	30.0	21.075	3.3	0.9	0.35	0.7	Q7 PLD 複合資料1 PLD
	28	細石刀	頁岩	T4h ₁ II	120.0	36.5	20.971	4.25	0.95	0.6	0.6	Q10 PLD 複合資料1 PLD
	29	細石刀	頁岩	T4i ₁ I	141.8	151.7	21.139	3.4	0.9	0.2	0.8	Q7 PLD 複合資料2 PLD
	30	細石刀	頁岩	T4h ₁ V	181.5	131.0	21.122	5.9	0.9	0.25	1.8	Q8 PLD 複合資料3 PLD
第33圖	31	細石刀	頁岩	T4h ₁ V	141.3	107.6	21.177	2.75	0.8	0.2	0.4	Q8 PLD
	32	細石刀	頁岩	T4h ₁ I	84.0	74.5	21.177	2.6	0.7	0.25	0.3	Q8 PLD
	33	細石刀	頁岩	T4h ₁ III	23.0	176.5	21.076	2.3	0.7	0.2	0.3	Q8 PLD 使用標本)
	34	細石刀	頁岩	T4h ₁ II	2.3	6.0	21.106	3.0	0.85	0.2	0.5	Q5 PLD
	35	細石刀	頁岩	T4h ₁ II	102.0	99.0	21.037	3.45	0.8	0.3	0.7	Q8 PLD
	36	細石刀	頁岩	T4h ₁ V	12.0	35.0	21.299	3.5	0.8	0.2	0.7	Q8 PLD
	37	細石刀	頁岩	T4h ₁ E	86.0	78.0	21.178	3.4	0.9	0.1	0.6	Q5 PLD
	38	細石刀	頁岩	T4h ₁ II	140.5	87.7	21.042	3.2	0.7	0.4	0.3	Q8 PLD
	39	細石刀	頁岩	T4h ₁ III	162.5	32.0	21.032	3.65	1.1	0.4	1.0	Q8 PLD
	40	細石刀	頁岩	T4h ₁ III	141.2	123.3	21.118	3.0	0.8	0.25	0.6	Q8 PLD 複合資料3 PLD
	41	細石刀	頁岩	T4h ₁ V	159.7	146.5	20.971	3.5	0.8	0.3	0.6	Q8 PLD 複合資料3 PLD
	42	細石刀	頁岩	T4h ₁ III	35.8	81.5	21.121	1.75	1.05	0.2	0.4	Q6 PLD
	43	細石刀	頁岩	T4i ₁ I	101.0	170.0	21.236	1.5	0.7	0.2	0.2	Q5 PLD
	44	細石刀	頁岩	T4h ₁ I	107.5	2.0	21.096	1.5	0.8	0.2	0.3	Q8 PLD
	45	細石刀	頁岩	T4h ₁ I	151.0	63.0	21.166	2.05	0.75	0.2	0.2	Q7 PLD
	46	細石刀	頁岩	T4g ₁ III	189.0	117.0	21.078	1.5	0.75	0.2	0.3	Q6 PLD
	47	細石刀	頁岩	T4h ₁ II	115.8	160.7	21.082	1.75	0.75	0.2	0.3	Q8 PLD
	48	細石刀	頁岩	T4h ₁ III	94.3	63.8	21.079	1.5	0.85	0.2	0.2	Q7 PLD
	49	細石刀	頁岩	T4h ₁ I	74.5	160.5	21.015	1.2	0.7	0.2	0.2	Q8 PLD
	50	細石刀	頁岩	T4h ₁ V	56.6	67.7	21.040	1.65	0.6	0.2	0.2	Q8 PLD
	51	細石刀	頁岩	T4h ₁ V	136.5	25.0	21.001	1.9	0.8	0.2	0.3	Q8 PLD

52	細石刃	頁岩	T4h,IV	178.3	16.4	21.341	2.1	0.85	0.2	0.4	QII PLM
53	細石刃	頁岩	T4h,III	96.5	64.0	21.027	1.1	0.7	0.2	0.2	QII PLM
54	細石刃	頁岩	T4h,II	117.0	46.0	20.971	2.05	0.85	0.3	0.4	QII PLM
55	細石刃	頁岩	T4h,IV	60.5	60.5	20.750	2.7	1.1	0.3	1.1	QII PLM
56	細石刃	頁岩	T4h,III	55.2	185.2	21.133	1.5	0.85	0.2	0.4	QII PLM
57	細石刃	頁岩	T4h,I	111.0	35.0	21.133	1.2	0.8	0.1	0.1	QII PLM
第34回58	細石刃	頁岩	T4h,I	73.0	93.0	21.066	2.5	0.3	2.5	0.5	QII PLM
59	細石刃	頁岩	T4h,I	170.0	96.0	21.142	1.7	0.8	0.3	0.2	QII PLM
60	細石刃	頁岩	T4g,III	192.5	7.0	20.994	2.0	0.85	0.2	0.1	QII PLM
61	細石刃	頁岩	T4h,II	199.4	194.3	20.980	2.3	0.6	0.3	0.3	QII PLM
62	細石刃	頁岩	T4h,II	23.8	180.8	21.091	1.6	1.0	0.3	0.5	QII PLM
63	細石刃	頁岩	T4h,III	124.0	118.0	21.089	1.4	0.6	0.2	0.1	QII PLM
64	細石刃	頁岩	T4h,III	8.0	30.0	21.211	2.0	0.7	0.2	0.2	QII PLM
65	細石刃	頁岩	T4g,II	180.2	49.1	21.021	1.75	0.8	0.15	0.3	QII PLM
66	細石刃	頁岩	T4b,IV	115.0	135.0	21.023	3.3	0.9	0.2	0.6	QIII PLM 使用済あり
67	細石刃	頁岩	T4d,I	102.0	115.5	20.990	1.3	0.85	0.2	0.3	QII PLM
68	細石刃	頁岩	T4b,III	56.0	82.0	21.105	0.7	0.6	0.2	0.1	QII PLM
69	細石刃	頁岩	T4b,I	137.8	70.9	20.951	1.75	0.55	0.1	0.1	QII PLM 使用済あり
70	細石刃	頁岩	T4h,IV	94.6	17.4	20.934	1.8	0.95	0.2	0.4	QII PLM
71	細石刃	頁岩	T4h,II	179.0	165.0	20.930	2.0	0.8	0.2	0.4	QII PLM
72	細石刃	頁岩	T4h,II	16.8	85.3	21.071	1.75	0.6	0.2	0.2	QII PLM
73	細石刃	頁岩	T4h,IV	46.5	45.8	20.920	1.9	0.9	0.2	0.3	QII PLM
74	細石刃	頁岩	T4h,I	54.0	168.4	20.990	1.9	0.75	0.3	0.3	QII PLM
75	細石刃	頁岩	T4h,II	24.1	87.0	21.091	2.9	0.8	0.3	0.5	QIII PLM
76	細石刃	頁岩	T4h,IV	54.0	59.7	21.002	3.5	0.7	0.2	0.6	QIII PLM
第35回77	細石刃	頁岩	T4h,II	12.0	190.0	21.022	2.8	0.9	0.3	1.0	QIII PLM 使用済あり
78	細石刃	頁岩	T4h,I	183.0	124.0	20.855	1.9	0.9	0.2	0.4	QIII PLM
79	細石刃	頁岩	T4h,III	101.0	168.5	20.952	2.1	0.8	0.2	0.4	QIII PLM
80	細石刃	頁岩	T4h,I	185.0	131.0	20.706	1.9	0.7	0.3	0.4	QIII PLM
81	細石刃	頁岩	T4h,III	110.0	77.0	20.893	1.3	0.8	0.15	0.3	QIII PLM
82	細石刃	頁岩	T4h,II	93.0	88.0	20.830	1.4	0.7	0.15	0.2	QIII PLM
83	細石刃	頁岩	T4f,III	114.0	79.0	20.743	1.4	0.9	0.15	0.3	QIII PLM
第34回84	彫器	頁岩	T4h,I	139.0	173.0	21.063	10.2	3.85	0.7	43.6	QIII PLM
第28回85	鏃器	頁岩	T4e,IV	191.0	2.8	20.973	3.4	2.6	0.6	5.9	QIII PLM
第29回86	鏃器	頁岩	T4g,I	50.0	17.0	21.053	7.9	4.0	0.7	29.5	QIII PLM
第35回87	尖頭器	安山岩	T4g,IV	116.0	129.0	21.050	5.9	2.0	1.0	8.9	QII PLM
第29回88	剥片	頁岩	T4g,IV	40.0	198.0	20.874	3.1	1.95	0.6	3.4	QIII PLM 二次加工済あり
第34回89	剥片	頁岩	T4h,I	18.0	110.0	21.059	3.7	2.4	0.6	4.7	QIII PLM 二次加工済あり
第35回90	剥片	頁岩	T4e,III	116.5	90.3	20.759	1.4	2.3	0.25	0.7	QIII PLM 二次加工済あり
91	細石刃	頁岩	T4c,II	102.0	129.0	20.787	1.5	0.5	0.15	0.1	QII PLM 石英の混入

92	細石刀	頁岩	T4g ₂ II	35.0	80.0	21.053	1.65	0.4	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
93	細石刀	頁岩	T4f ₂ II	180.0	11.5	21.091	2.4	0.8	0.3	0.3	Q8 PLS 写真の寸測値
94	細石刀	頁岩	T4g ₂ I	79.5	181.2	21.084	1.0	0.4	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
95	細石刀	頁岩	T4g ₂ III	19.5	148.1	20.977	1.5	0.7	0.2	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
96	細石刀	頁岩	T4g ₂ IV	167.5	130.0	20.968	1.5	0.4	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
97	細石刀	頁岩	T4f ₂ III	100.5	168.5	20.937	1.3	0.7	0.2	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
98	細石刀	頁岩	T4h ₂ IV	78.0	55.0	21.090	1.3	0.6	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
99	細石刀	頁岩	T4h ₂ I	33.5	153.5	21.015	1.9	0.9	0.2	0.3	Q8 PLS 写真の寸測値
100	細石刀	頁岩	T4h ₂ I	156.2	60.5	21.017	1.8	0.4	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
101	細石刀	頁岩	T4h ₂ I	52.3	51.5	21.058	1.5	0.65	0.2	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
102	細石刀	頁岩	T4h ₂ III	8.2	61.2	21.014	2.1	0.7	0.2	0.3	Q8 PLS 写真の寸測値
103	細石刀	頁岩	T4h ₂ I	67.5	135.5	20.963	1.6	0.7	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
104	細石刀	頁岩	T4h ₂ II	34.9	130.8	20.969	1.0	0.4	0.1	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
105	細石刀	頁岩	T4h ₂ I	63.8	115.8	20.940	2.3	0.8	0.15	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
106	細石刀	頁岩	T4h ₂ I	137.0	147.0	20.917	2.0	0.8	0.2	0.4	Q8 PLS 写真の寸測値
107	細石刀	頁岩	T4g ₂ II	189.6	155.6	20.914	1.7	0.3	0.1	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
108	細石刀	頁岩	T4h ₂ III	27.0	108.3	20.864	0.9	0.6	0.1	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
109	細石刀	頁岩	T4h ₂ II	162.0	175.0	20.862	1.6	0.5	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
110	細石刀	頁岩	T4h ₂ II	14.0	91.0	20.800	1.3	0.9	0.15	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
111	細石刀	頁岩	T4h ₂ II	6.0	84.0	20.815	1.4	0.7	0.1	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
112	細石刀	頁岩	T4h ₂ IV	83.0	72.0	20.749	1.8	0.7	0.15	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
113	細石刀	頁岩	T4h ₂ III	78.0	190.0	20.990	1.8	0.8	0.15	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
114	剥片	頁岩	T4d ₂ IV	87.8	21.2	20.794	4.9	3.1	0.3	3.7	Q8 PLS 写真の寸測値
115	剥片	頁岩	T4h ₂ I	142.0	197.0	21.130	5.4	3.7	0.65	11.3	Q8 PLS 写真の寸測値
116	剥片	頁岩	T4h ₂ IV	200.0	30.5	21.123	4.8	4.1	0.4	7.3	Q8 PLS 写真の寸測値
117	剥片	頁岩	T4h ₂ I	10.0	188.0	21.164	2.5	1.9	0.5	1.8	Q8 PLS 写真の寸測値
118	剥片	頁岩	T4h ₂ II	56.0	128.0	20.711	1.7	1.5	0.25	0.6	Q8 PLS 写真の寸測値
119	剥片	黒曜石	T4e ₂ III	66.6	4.5	20.945	1.9	1.2	0.15	0.3	Q8 PLS 写真の寸測値
120	剥片	黒曜石	T4e ₂ II	54.5	194.0	20.818	1.3	1.0	0.25	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
121	剥片	黒曜石	T4e ₂ II	86.0	157.5	20.825	1.9	1.5	0.25	0.7	Q8 PLS 写真の寸測値
122	剥片	黒曜石	T4e ₂ II	193.0	86.0	20.751	1.9	0.7	0.5	2.3	Q8 PLS 写真の寸測値
123	剥片	黒曜石	T4e ₂ I	171.5	177.5	20.749	1.8	1.3	0.2	0.4	Q8 PLS 写真の寸測値
124	剥片	黒曜石	T4e ₂ III	115.3	97.4	20.713	1.5	0.75	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値
125	剥片	黒曜石	T4e ₂ II	139.3	179.5	20.757	1.5	1.4	0.2	0.2	Q8 PLS 写真の寸測値
126	剥片	黒曜石	T4f ₂ IV	27.4	14.9	20.793	0.8	0.7	0.15	0.1	Q8 PLS 写真の寸測値

2 堅穴住居跡

当遺跡からは、縄文時代の堅穴住居跡2軒(SI3・4)、弥生時代の堅穴住居跡1軒(SI2)、奈良時代の堅穴住居跡1軒(SI1)、時期不明の堅穴住居跡1軒(SI5)が検出された。以下、検出した住居跡とそこから出土した遺物について記載する。

(1) 縄文時代

第3号住居跡 (第36図)

位置 調査区の東部, T4ja区。

重複関係 本跡の北東部が第5号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径6.09m, 短径5.25mの楕円形である。

主軸方向 N-46°-E

壁 壁高は32~44cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた面は見られない。

ピット 6か所(P1~P6)。P1は径35cmの円形で、深さ58cmである。P2は長径46cm, 短径38cmの楕円形で、深さ60cmである。P3は長径42cm, 短径36cmの楕円形で、深さ33cmである。P4は長径41cm, 短径27cmの楕円形で、深さ54cmである。P5は径40cmの円形で、深さ66cmである。いずれも主柱穴と考えられるが、配列から第5号土坑に掘り込まれた位置に主柱穴があったと思われる。P6は長径46cm, 短径35cmの楕円形, 深さ41cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

炉 2か所。炉1は中央部に位置し、長径108cm, 短径69cmの楕円形で、床面を30cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。覆土は4層からなる。炉2は、炉1の南側に位置し、長径76cm, 短径63cmの楕円形で、床面を6cm掘り窪めた地床炉である。覆土は2層からなる。

炉1土層解説

- 1 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

炉2土層解説

- 5 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

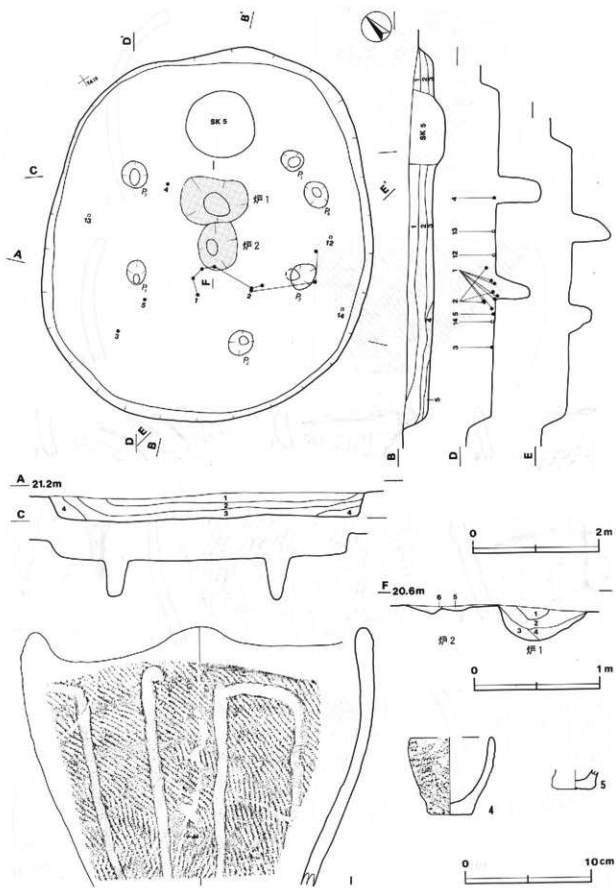
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

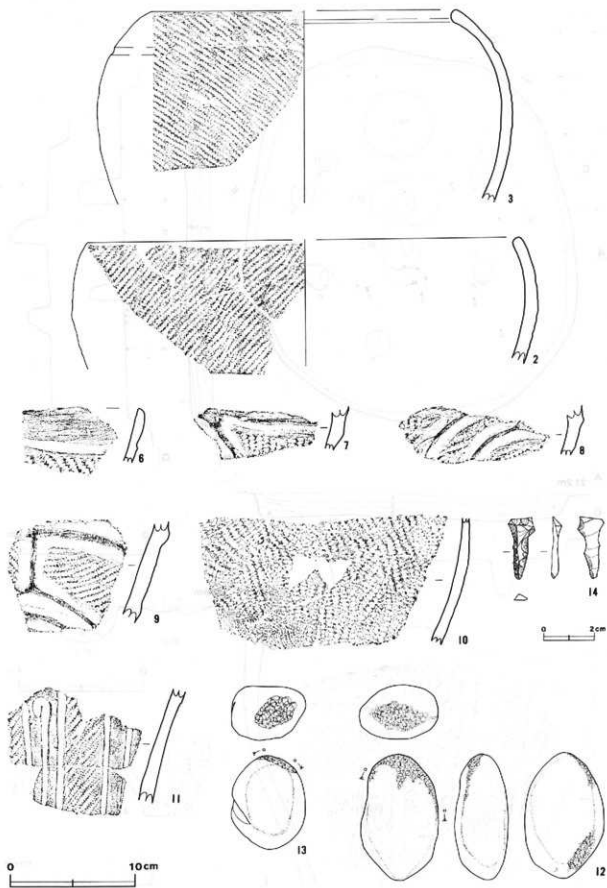
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片322点, 敲石2点, 石錐1点が出土している。第36図1の深鉢形土器は、中央部の床面から、第37図2の深鉢形土器は、中央部の覆土中層から、3の深鉢形土器は、西部の床面から出土している。第36図4のミニチュア土器は、中央部の床面から、5のミニチュア土器底部片は、西部の床面から出土している。第37図6~11は覆土から出土した縄文土器片である。6の口縁部片は、単節縄文を地文とし横位の沈線で区画されている。7~9は単節縄文を施文後太い隆帯で区画されている。10の胴部片は、単節縄文RLで施文され、調整痕が認められる。11は単節縄文RLの地文に沈線で区画し、区画内が磨り消されている。12の敲石は、東部の床面から出土している。13の敲石は、北西部の覆土下層から出土している。14の石錐は東部の床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から縄文時代中期(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第36图 第3号住居跡出土遺物実測図



第37图 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 28.0 B (21.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は縦やかに内彎しながら口縁部に至る。口縁部から胴部に横位・斜位・縦位の単筋縄文を施した後、太い沈線で区画している。	長石・石英に ぶい黄褐色 普通	P4 60% PL28 床面 (加増目EⅡ)
第37図 2	深鉢形土器 縄文土器	A [35.2] B (10.2)	口縁部から胴部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。口縁部から単筋縄文LRを施文している。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P5 5% PL27 覆土中層 (加増目EⅡ)
3	深鉢形土器 縄文土器	A [24.6] B (15.5)	口縁部から胴部にかけての破片。内彎して口縁部に至る。単筋縄文LRを施文後、口縁部に横位の沈線を施している。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P6 5% PL27 床面 (加増目EⅡ)
第38図 4	ミナツト形 縄文土器	A [7.0] B 6.2 C 3.5	底部は平底で、胴部は内彎して口縁部に至る。口縁部から横位・斜位・縦位の単筋縄文が施文されている。	スコリア 褐色 普通	P7 85% PL28 床面
5	ミナツト形 縄文土器	B (1.7) C 2.6	底部片。底部外面に撈集工具による条線が施されている。	スコリア・雲母 褐色 普通	P8 10% PL28 床面

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第37図12	礫石	10.1	6.2	4.3	364.8	安山岩	床面	Q1 PL32
13	礫石	7.6	6.0	4.4	286.0	硬質砂岩	覆土下層	Q2 PL32
14	石 錐	2.5	1.1	0.2	0.7	チャート	床面	Q3 PL32

第4号住居跡(第38図)

位置 調査区の西部, T3i4区。

規模と平面形 長径3.77m, 短径3.59mではほぼ円形である。

壁 壁高は19~28cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。踏み固められた面は見られない。

炉 中央部に位置し、長径67cm, 短径53cmの楕円形で、床面を28cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。覆土は4層からなる。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック中量、焼土粒子少量
- 3 赤褐色 焼土大ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 4 赤褐色 焼土大ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土 4層からなる自然堆積である。

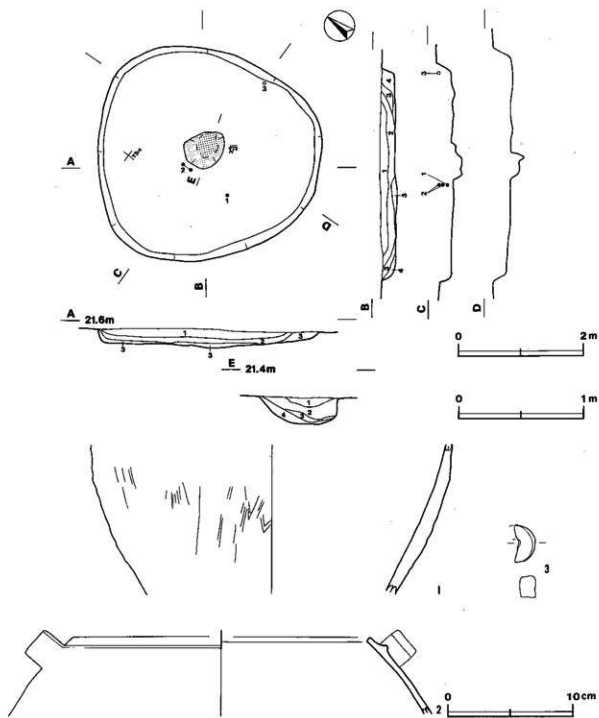
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 縄文土器片70点、土製品1点が出土している。第38図1の深鉢形土器は、南西部の覆土中層から、2の

浅鉢形土器は、中央部の覆土上層から出土している。3の珠状耳飾りは、北部の覆土上層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。



第38図 第4号住居跡・出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	浅鉢形土器 縄文土器	B (12.0)	割断片。胴部は内彎しながら立ち上がる。胴部に糸線が施されている。	長石・スコリア 褐色 普通	P9 15% PL28 層十中層 (中期後葉)
2	浅鉢形土器 縄文土器	A [24.0] B (5.7)	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部にかけて内彎する。口縁部直下に横位の微隆起線及び把手が施され、胴部にかけて縦位の微隆起線が施されている。	長石・スコリア に白い黄褐色 普通	P10 5% PL28 層十上層 (中期後葉)

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第38図3	土製映状耳飾り	2.9	1.7	1.8	9.8	覆土層	DP2 P.L28

(2) 弥生時代

第2号住居跡 (第39図)

位置 調査区の西部, T4c3区。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.03mの隅丸方形である。

主軸方向 N-47°-E

壁 壁高は30~40cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり, 中央部分から出入り口施設にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は径20cmの円形で, 深さ58cmである。P₂は長径24cm, 短径14cmの楕円形で, 深さ60cmである。P₃は径20cmの円形で, 深さ33cmである。P₄は径20cmの円形で, 深さ54cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P₅は長径53cm, 短径32cmの楕円形, 深さ41cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 南東壁際に設置され, 長径81cm, 短径47cmの楕円形で, 深さ18cmである。底面は皿状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

炉 2か所。炉1は中央部に位置し, 長径86cm, 短径68cmの楕円形で, 床面を10cm掘り窪めた地床炉である。

炉床は赤変硬化している。覆土は5層からなる。炉2は南部に位置し, 長径46cm, 短径40cmの楕円形の地床炉である。覆土は2層からなる。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 赤褐色 焼土小ブロック多量

炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

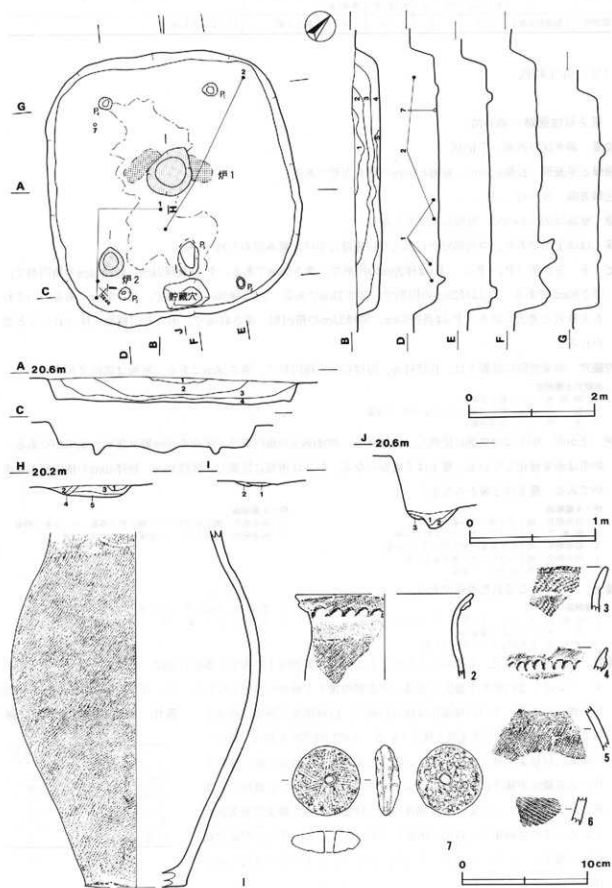
遺物 弥生土器片46点, 土製品1点が出土している。第39図1の弥生土器広口壺は, 中央部の覆土下層から出土している。2の弥生土器広口壺は, 中央部の覆土下層から出土している。3~6は, 覆土から出土した弥生土器片である。3の口縁部片は複合口縁で, 口縁部及び胴部に縄文を施し, 口縁部直下に無文帯を残している。4の口縁部片も複合口縁で, 口縁部に付加糸1種 (付加2条) の縄文を施し, 口縁部下端に棒状工具による横圧が施されている。5は頸部から胴部にかけての破片で, 頸部に無文帯を残している。6は胴部片で, 付加糸2種の縄文が施文されている。7の紡錘車は, 西部の床面から出土している。また, 貯蔵穴及び炉の覆土から, 表10の通りゴボウ類・コンニャクイモ類・米類の炭化種子が検出された。

表10 柏原遺跡第2号住居跡炭化植物種子分析

	貯蔵穴覆土	炉の覆土
コンニャクイモ類	2 (121)	
ゴボウ類	3	6
米類		4
草類	2	31
同定不可	8	4

()はかけら

所見 本跡は、形態及び出土遺物から弥生時代後期後半と考えられる。



第39図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	広口壺 弥生土器	B (28.7) C [8.2]	底部から胴部にかけての破片。胴部は内摩し、頸部は外反気味に立ち上っている。胴部には付加糸1種(付加2条)の縄文が施文され、頸部に無文帯を持つ。	長石・パミスにふい黄褐色 普通	P2 40% PL28 覆土下層
2	広口壺 弥生土器	A (14.4) B [6.8]	口縁部から胴部にかけての破片。發合口縁で、口縁部に付加糸1種(付加1条)の縄文を施文後、口縁部下端に棒状工具による押圧が施されている。頸部は無文で、胴部に付加糸1種(付加2条)の縄文が施文されている。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P3 10% PL28 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第39図7	土師輪軸車	5.5	5.7	1.7	53.9	床面	DP1 PL29

(3) 奈良時代

第1号住居跡(第40図)

位置 調査区の中央部, U4c区。

規模と平面形 長軸3.23m, 短軸2.73mの長方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 上面は削平され、壁高は2~5cmが確認された。

床 平坦である。

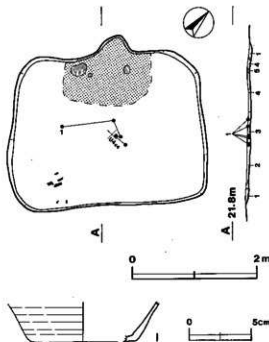
覆土 5層からなるが、覆土が浅いため堆積状況は不明である。

土層解明

- 1 層 褐色 炭化粒子・ローム中ブロックローム粒子少量
- 2 層 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 層 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 層 褐色 ローム粒子少量
- 5 層 褐色 炭化粒子少量

遺物 土師器片4点が出土している。第40図1の坯は、中央部の床面から出土している。

所見 住居跡の南コーナー部に、炭化材が確認されていることから、焼失家屋の可能性が考えられる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から奈良時代(8世紀後半)と考えられる。



第40図 第1号住居跡・出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	杯 土師器	B (3.2) C [8.6]	体部片。平底。底部から外反しなから立ち上る。	体部内・外面横ナデ。	雲母・スコリアにふい褐色 普通	P1 10% PL28 床面

(4) 時期不明

第5号住居跡 (第41図)

位置 調査区の西南部, U3h区。

規模と平面形 削平により, 炉とピットしか確認できなかったため, 規模や平面形は不明である。

主軸方向 不明

床 削平により床面は確認できなかった。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は長径62cm, 短径52cmの楕円形で, 深さ23cmである。P₂は長径54cm, 短径46cmの楕円形で, 深さ39cmである。P₃は長径61cm, 短径46cmの楕円形で, 深さ38cmである。P₄は径55cmの円形で, 深さ28cmである。いずれも支柱穴と考えられる。

炉 4か所のピットの中央部に位置し, 長径80cm, 短径59cmの楕円形で, 床面を15cm掘り窪めた地床炉である。

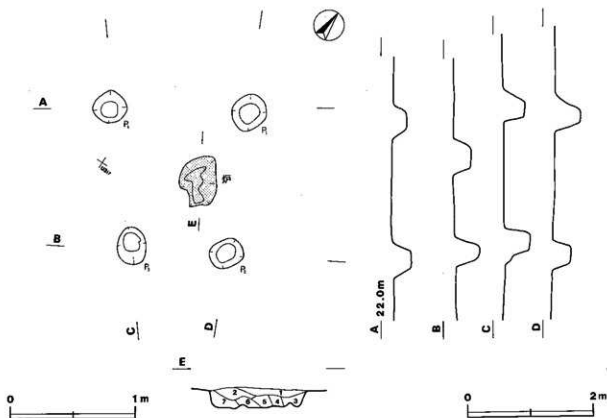
覆土は7層からなる。

炉土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土粒子少量 | |

遺物 出土していない。

所見 本跡に伴う遺物がなため, 詳細は不明である。ピット及び炉の位置から考え, 縄文時代の住居跡の可能性が考えられる。



第41図 第5号住居跡実測図

表11 柏原遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) 長×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設				伊・甕	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							土柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	U4a	N-65°-E	長方形	3.23×2.71	2~5	平坦	—	—	—	—	甕1	人瓦	土層碎片4	
2	T4a	N-67°-E	隅欠方形	4.30×4.03	30~40	平坦	4	1	—	1	伊2	自然	弥生土器片46, 土製品1, 炭化種子	
3	T4b	N-66°-E	隅欠形	6.09×5.25	32~44	平坦	5	—	—	1	伊2	自然	縄文土器片322, 炭石2, 石鏝1	本跡→SK5
4	T3a	—	円形	3.77×3.59	19~28	平坦	—	—	—	—	伊1	自然	縄文土器片70, 土製品1	
5	U3a	—	—	—	—	—	4	—	—	—	伊1	—	—	

3 土坑

当遺跡からは、土坑40基が検出された。ここでは時期や性格が推定できるものについて記述し、他は実測図(第48・49図)及び一覧表に記載する。

第15号土坑(第42図)

位置 調査区南西部 U2b区

規模と平面形 長径3.87m, 短径1.84mの不整形円形で、深さ133cmである。

長径方向 N-66°-W

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。長径方向の壁は、底面から20~40cmのところまでオーバーハングし、上面ではほぼ垂直に立ち上がる。

底面 底面は凸凹で、北西部に皿状のくぼみがある。

覆土 12層からなり、ブロック状の堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

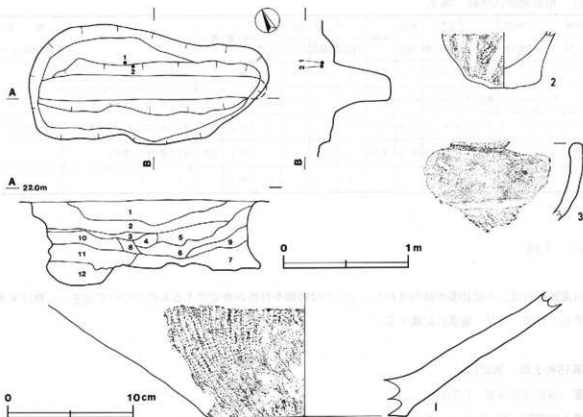
1	暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量	6	暗褐色	ローム大ブロック多量, ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量	7	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
3	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量	8	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
4	褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量, ローム大ブロック少量	9	褐色	ローム粒子多量, ローム大・中・小ブロック中量
5	褐色	ローム粒子多量, ローム大・中・小ブロック中量	10	暗褐色	ローム粒子中量, ローム大・中・小ブロック少量
			11	暗褐色	ローム粒子中量, ローム大・中・小ブロック少量
			12	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量

遺物 覆土中から、縄文土器片23点が出土している。第42図1の浅鉢形土器底部、2の深鉢形土器底部は、どちらも北部の覆土上層からの出土である。3は覆土中から出土した縄文土器の口縁部片で、単節縄文を地文とし横位の沈線で区画されている。

所見 遺物は流れ込みと思われるが、遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第15号土坑出土遺物観察表

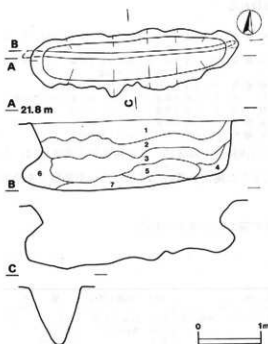
図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・造成	備考
第42図 1	浅鉢形土器 縄文土器	B (10.0)	底部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部に単節縄文R Lが施されている。	粘土・石英・雲母に多い黄褐色 普通	P11 20% PL29 覆土上層 (中期後葉)
2	深鉢形土器 縄文土器	B (4.5) C 5.8	底部から胴部下にかけての破片。底部は小形の平底で、胴部は外反して立ち上がる。単節縄文が施され、横位の沈線で区画されている。	石英・バミス・雲母 褐色 普通	P12 5% PL27 覆土上層 (中期後葉)



第42図 第15号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑 (第43図)

位置 調査区南西部 U3f区



第43図 第21号土坑実測図

規模と平面形 長径3.35m, 短径0.77mの不整楕円形で、深さ110cmである。

長径方向 N-79°-E

壁面 外傾して立ち上がる。長径方向の壁は、底面から45~65cmのところまでオーバーハングし、上面では外傾して立ち上がる。

底面 凸凹している。

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック少量
- 4 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第28号土坑 (第44図)

位置 調査区南部 V4j区

規模と平面形 長径2.75m, 短径1.40mの楕円形で, 深さ185cmである。

長径方向 N-87°-W

壁面 外傾して立ち上がる。長径方向の西部の壁は, 底面から80cmのところまでオーバーハングし, 上面ではほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

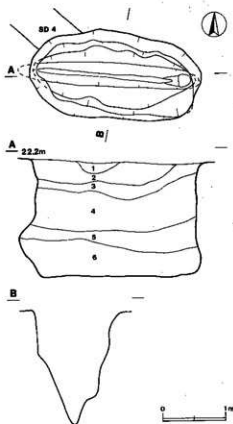
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ローム大・小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第44図 第28号土坑実測図

第29号土坑 (第45図)

位置 調査区南東部 V4e区

規模と平面形 長径3.30m, 短径0.81mの不整楕円形で, 深さ54cmである。

長径方向 N-29°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

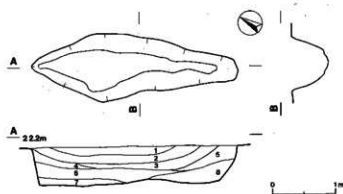
覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム中量, ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第45図 第29号土坑実測図

第30号土坑（第46図）

位置 調査区西部 T3f区

規模と平面形 長径1.54m, 短径1.04mの不整楕円形で, 深さ44cmである。

長径方向 N-13°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

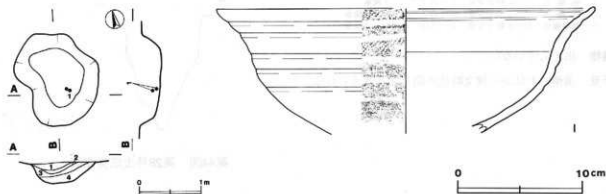
2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子少量

4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 覆土中から, 縄文土器片7点が出土している。第46図1の浅鉢形土器は, 南部の覆土下層から出土している。

所見 出土遺物から, 縄文時代後期の土坑と考えられる。



第46図 第30号土坑・出土遺物実測図

第30号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第46図 1	浅鉢形土器	A [30.6]	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎し, 口縁部との境から外反して立ち上がる。口縁部から胴部に単線縄文LRを地文とし, 横位の沈線で区画し, 沈線内を磨り消している。	石英・バミス 明黄褐色 普通	P13 5% P.L.29 覆土下層 (後影中集)
	縄文土器	B [10.1]			

第38号土坑（第47図）

位置 調査区中央部 U3a区

規模と平面形 長径1.29m, 短径0.90mの不整楕円形で, 深さ24cmである。

長径方向 N-39°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

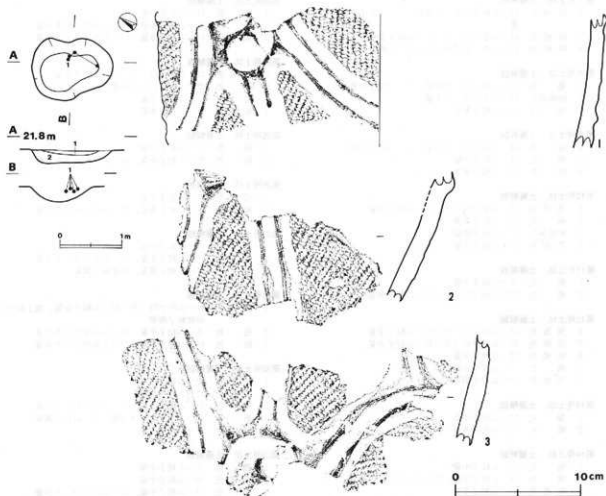
底面 平坦である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量

2 黄褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量



第47図 第38号土坑・出土遺物実測図

遺物 覆土上層から、縄文土器片34点が出土している。第47図1の深鉢形土器は、南部の覆土中層から出土している。2・3は覆土中から出土した縄文土器片で、単節縄文を地文とし沈線及び隆帯で区画されている。所見 出土遺物から、縄文時代中期の土坑と考えられる。

第38号土坑遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徵及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (10.8)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。単節縄文Rしを地文とし、沈線と隆帯で区画及び渦巻きが施されている。	灰石・石英・スコリア 棕色 普通	F14 5% PL29 覆土中層 (加巻EⅡ)

第1号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第2号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

第3号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第4号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

第5号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第6号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

- 第7号土坑 土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

- 第8号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック中量
 3 褐色 ローム粒子少量

- 第9号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子少量
 3 褐色 ローム粒子少量

- 第10号土坑 土層解説
 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 暗褐色 ローム粒子少量
 4 黒褐色 ローム粒子少量

- 第11号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子少量
 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

- 第12号土坑 土層解説
 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子少量
 4 褐色 ローム粒子中量
 5 黒褐色 ローム粒子少量

- 第13号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子中量
 2 褐色 ローム粒子少量

- 第14号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子中量
 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 3 暗褐色 ローム粒子少量
 4 褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック少量

- 第16号土坑 土層解説
 1 褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量

- 第17号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量
 4 褐色 ローム粒子少量
 5 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

- 第18号土坑 土層解説
 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量

- 第19号土坑 土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子中量
 2 褐色 ローム粒子少量

- 第20号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム小ブロック少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

- 第22号土坑 土層解説
 1 褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
 3 暗褐色 炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量

- 第23号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量
 3 褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック少量

- 第24号土坑 土層解説
 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 褐色 ローム小ブロック少量
 3 褐色 ローム粒子中量
 4 褐色 ローム粒子少量

- 第25号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子中量
 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

- 第26号土坑 土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量

- 第27号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子中量
 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

- 第31号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量

- 第32号土坑 土層解説
 1 明褐色 ローム粒子中量
 2 明褐色 ローム粒子少量
 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 4 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
 5 褐色 ローム粒子少量

- 第33号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 4 明褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量

- 第34号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

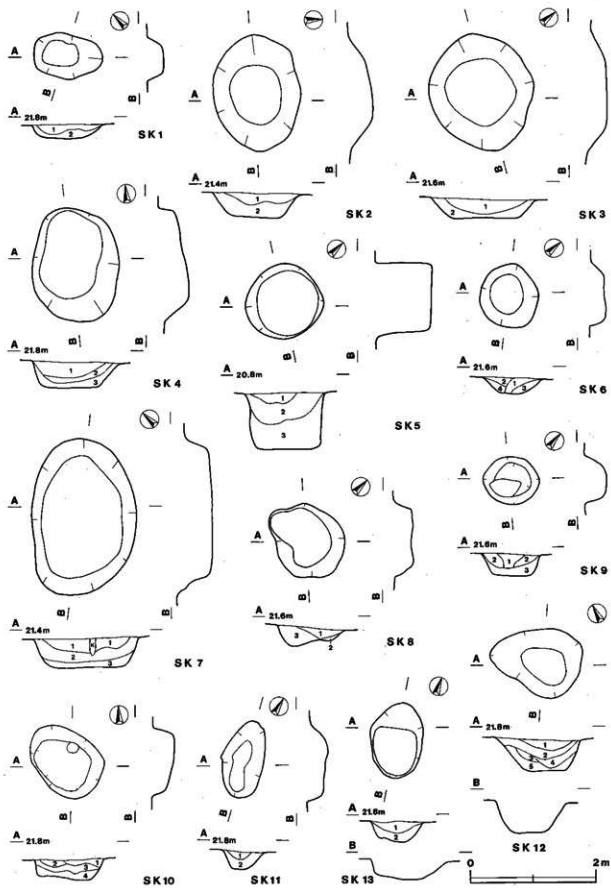
- 第35号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
 2 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

- 第36号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム粒子中量
 2 褐色 ローム粒子少量

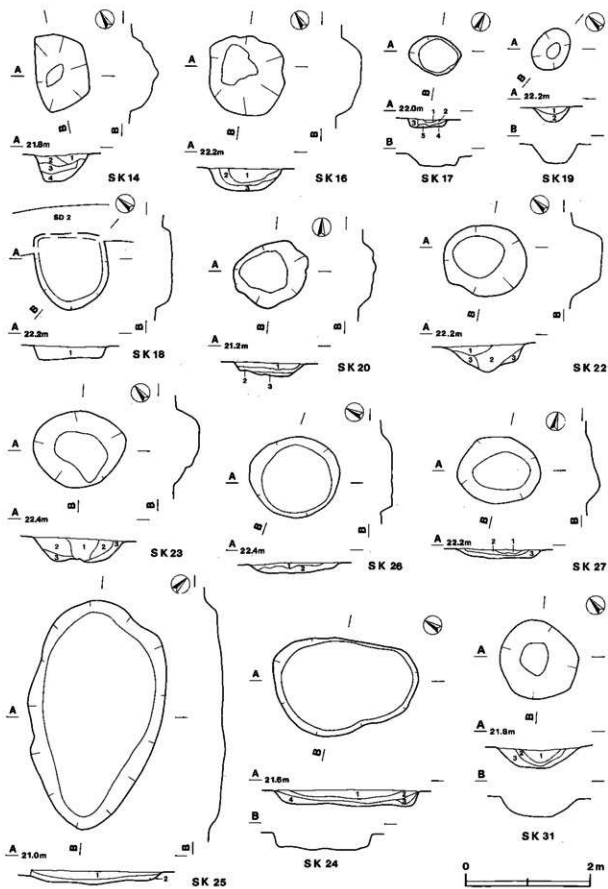
- 第37号土坑 土層解説
 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量

- 第38号土坑 土層解説
 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

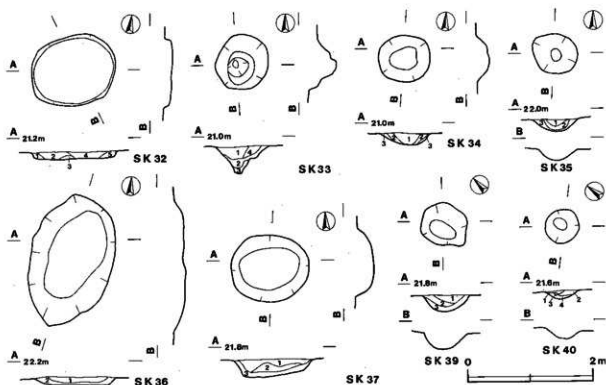
- 第40号土坑 土層解説
 1 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 2 赤褐色 炭化粒子少量
 3 暗赤褐色 炭化粒子微量
 4 暗赤褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量



第48图 第1~13号土坑实测图



第49图 第14·16~20·22~27·31号土坑实测图



第50図 第32~37・39・40号土坑実測図

表12 柏原遺跡土坑一覽表

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(旧一新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	V4gs	N-45°-W	楕円形	1.10×0.72	28	緩斜	平坦	自然		
2	U4br	N-88°-E	楕円形	1.90×1.40	40	緩斜	平坦	自然		
3	V5as	N-64°-W	楕円形	1.92×1.62	31	緩斜	平坦	自然		
4	V5bs	N-17°-W	楕円形	1.87×1.46	50	外傾	平坦	自然		
5	T4ja	—	円形	1.25×1.20	91	外傾	平坦	自然		SI3→本跡
6	U4gp	N-55°-W	楕円形	1.40×0.91	26	緩斜	平坦	人為		
7	U4gr	N-48°-W	楕円形	2.50×1.65	56	外傾	平坦	自然		
8	U5gt	N-4°-W	不整形円形	1.40×0.84	30	外傾	平坦	人為		
9	U5gi	N-42°-E	楕円形	0.90×0.78	37	外傾	平坦	人為		
10	U5bi	N-40°-W	楕円形	1.30×0.95	50	外傾	平坦	自然		
11	U4hs	N-28°-W	不整形円形	1.25×0.65	32	外傾	平坦	自然		
12	U4hs	N-62°-W	不整形円形	1.47×0.70	55	緩斜	平坦	自然		
13	U4ib	N-5°-W	楕円形	1.22×0.85	34	外傾	凹状	自然		
14	U4ib	N-35°-E	楕円形	1.24×0.83	44	外傾	平坦	自然		
15	U2b	N-66°-W	楕円形	3.87×1.84	133	垂直	凸凹	人為	縄文土器片23	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新旧関係(旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
16	U3f	N-14'-W	楕円形	1.40×1.27	35	外傾	皿状	自然		
17	U4i	N-62'-E	楕円形	0.85×0.62	20	外傾	平坦	人為		
18	V4a	N-49'-E	不整楕円形	1.29×1.15	22	外傾	平坦	自然		本誌→SD3
19	V4a	N-90'-E	楕円形	0.72×0.55	30	緩斜	平坦	人為		
20	T4h	N-63'-E	楕円形	1.24×0.97	26	緩斜	平坦	自然		
21	U3f	N-79'-E	楕円形	3.35×0.77	110	外傾	凸凹	自然		
22	V4b	N-25'-W	楕円形	1.35×1.16	50	外傾	平坦	人為		
23	V4c	N-48'-W	楕円形	1.52×1.22	40	外傾	皿状	人為		
24	T3j	N-33'-W	楕円形	2.32×1.52	25	外傾	平坦	自然		
25	T4d	N-37'-W	楕円形	3.66×2.13	33	緩斜	平坦	自然		
26	V4f	N-27'-W	楕円形	1.46×1.30	18	外傾	平坦	自然		
27	V4g	N-75'-E	楕円形	1.35×1.05	22	緩斜	皿状	自然		
28	V4j	N-87'-W	楕円形	2.75×1.40	185	外傾	平坦	自然		
29	V4e	N-29'-W	不整楕円形	3.30×0.81	54	外傾	平坦	自然		
30	T3f	N-13'-W	不整楕円形	1.54×1.04	44	外傾	平坦	自然	縄文土器片7	
31	T3j	N-3'-W	楕円形	1.35×1.17	32	緩斜	皿状	自然		
32	T4i	N-24'-W	楕円形	1.40×1.13	14	外傾	平坦	人為		
33	T4b	N-37'-E	楕円形	0.92×0.81	42	外傾	平坦	自然		SD15との新旧は不明
34	T4h	N-56'-E	楕円形	0.85×0.77	19	緩斜	皿状	自然		
35	T4g	N-50'-W	楕円形	0.75×0.64	20	緩斜	皿状	自然		
36	U3i	N-8'-E	不整楕円形	2.15×1.32	19	緩斜	皿状	自然		
37	U3a	N-75'-W	楕円形	1.25×1.08	28	緩斜	皿状	自然		
38	U3a	N-39'-W	不整楕円形	1.29×0.90	24	緩斜	平坦	自然	縄文土器片34	
39	U3a	N-4'-W	不整楕円形	0.83×0.67	25	緩斜	平坦	自然		
40	T3j	—	円形	0.56×0.53	13	緩斜	皿状	人為		

4 溝

当遺跡からは、溝22条が検出された。形状に特徴のある溝について解説を加え、その他については実測図(第56図、付図3)及び一覽表に記載する。

第15A号溝 (第51図, 付図3)

位置 調査区北西部 T4a₂~U4a₃区

重複関係 本跡が, 第15B・16号溝を掘り込んでおり, 第17号溝に掘り込まれている。さらに, 第33号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 南東部の土地境界の一部が調査できず, 正確な規模は不明である。北西から南東 (N-62°-W) に25.2m延び, 西へ曲がり (N-13°-E) 13.6m延び, 東南へ曲がり (N-64°-W) 10.8m延びる。上幅66~141cm, 下幅14~74cm, 深さ28cmである。断面形はU字形である。

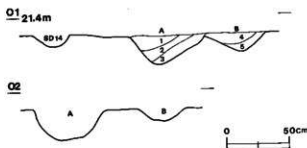
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説 (O1)

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第51図 第15A・15B号溝実測図

第15B号溝 (第51図, 付図3)

位置 調査区北西部 U4a₂~U4a₃区

重複関係 本跡は, 第15A号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南東部の土地境界の一部が調査できず, 正確な規模は不明である。北西から南東 (N-64°-W) に3.8m延びる。上幅37~64cm, 下幅12~37cm, 深さ9cmである。断面形はU字形である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説 (O1)

- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第16号溝 (第52図, 付図3)

位置 調査区北西部 T4d₅~T4f₂区

重複関係 本跡は, 第15A・17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東側が調査区外に延びるため, 正確な規模は不明である。北東から南西 (N-15°-E) へ20.1m延び, 北西に曲がり (N-43°-W) 2.6m延び, 南西に曲がり (N-21°-E) 9.8m延びる。上幅37~70cm, 下幅13~35cm, 深さ8cmである。断面形はU字形である。

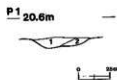
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説 (P1)

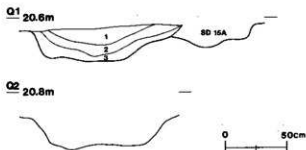
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第52図
第16号溝実測図



第53図 第17号溝実測図

第17号溝 (第53図, 付図3)

位置 調査区北西部 T4a2~T3d2区

重複関係 本跡が, 第15A・16・18号溝を掘り込み, 第19号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西から南東(N-76°-E)へ26.4m延び, 南に曲がり(N-24°-E)14.2m延び, 北西に曲がり(N-55°-W)18.1m延びる。上幅97~205cm, 下幅28~74cm, 深さ26cmである。断面形はU字形である。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説 (Q1)

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 壤土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第18号溝 (第54図, 付図3)

位置 調査区北西部 T3h0~T3d2区

重複関係 本跡は, 第17・19号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南東から北西(N-55°-W)へ25.1m延び, 西に曲がり(N-14°-E)13.6m延びる。上幅124~152cm, 下幅12~46cm, 深さ48cmである。断面形はU字形である。

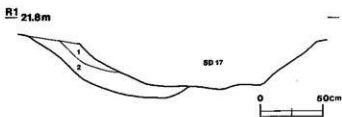
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説 (R1)

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



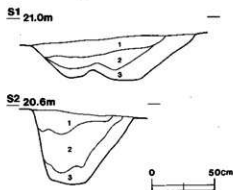
第54図 第18号溝実測図

第19号溝 (第55図, 付図3)

位置 調査区北西部 S4jr~T3d2区

重複関係 本跡が, 第17・18号溝を掘り込んでいる。第20号溝と合流しているが新旧は不明である。

規模と形状 北東側が調査区外に延びるため, 正確な規模は不明である。北東から南西(N-34°-E)へ11.6m延び, 西へ曲がり(N-32°-W)13.0m延び, 南西へ曲がり(N-40°-E)46.2m延びる。上幅82~170cm, 下幅38~68cm, 深さ68cmである。断面形はU字形である。



第55図 第19号溝実測図

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説 (S1)

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

土層解説 (S2)

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物は流れ込みと思われる。本跡の時期や性格は不明である。

第1号溝 (A1) 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第2号溝 (B1) 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第3号溝 (C1) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第4号溝 (D1) 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

第5号溝 (E1) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第6号溝 (F1) 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第7号溝 (G1) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第8号溝 (H1) 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム中・小ブロック少量

第9号溝 (I1) 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第10号溝 (J1) 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム大・小ブロック少量

第11号溝 (K1) 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量

第12A号溝 (L1) 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量

第12B号溝 (M1) 土層解説

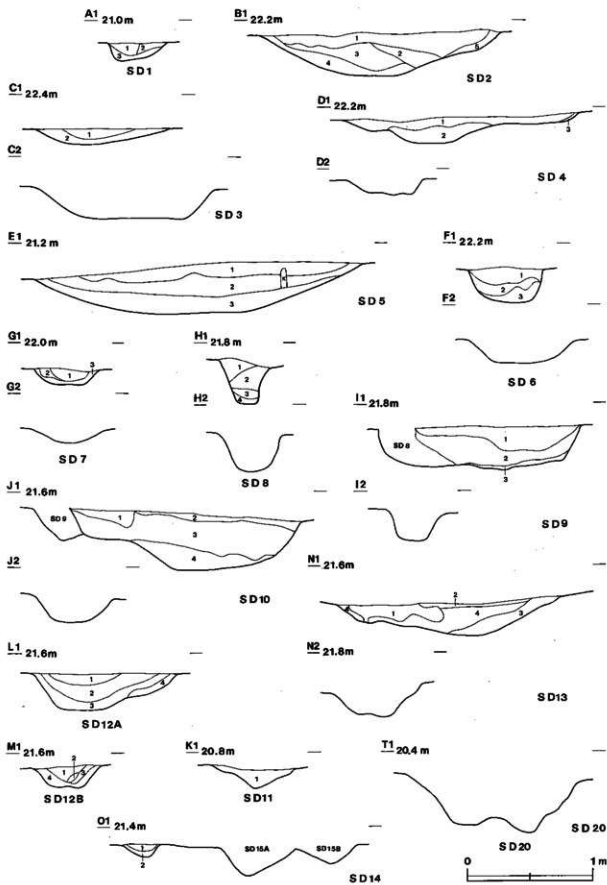
- 1 黄褐色 ローム粒子中量
- 2 黄褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 黄褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

第13号溝 (N1) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第14号溝 (O1) 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量



第56图 第1~12A·12B·13·14·20号溝実測図

表13 柏原遺跡溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	風 横				断面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係 新旧関係(旧→新)
				幅(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)					
1	U56-U50	北東→南西	直線状	43.4	34~52	16~24	10	U	平坦	自然		
2	V46-V50	南西→北→南東	L字状	44.4	40~200	10~52	16	U	平坦	自然	陶器片1	本層-S04
3	V46-V56	南西→北→南東	L字状	47.8	21~198	11~88	26	U	平坦	自然		S13→本層
4	V46-V46a	南東→北西→南	L字状	59.2	60~203	20~159	12	U	平坦	自然		S02→本層
5	U26a-U26b	北→南→西	L字状 (8.0)	118~279	62~170		36	U	平坦	自然	陶器片5	
6	U46-U53a	北東→南西	直線状	23.9	56~106	22~41	10	U	平坦	自然		
7	U36-U33a	北西→南東	直線状 (16.5)	51~78	21~41		10	U	平坦	自然		
8	U46-U46a	北西→南東	直線状 (14.8)	42~70	4~32		30	U	平坦	自然		本層-S09
9	U46-U46a	南西→北→南東	L字状	14.2	40~98	7~62	24	U	平坦	自然		S08→本層-S010
10	U46-U46a	南西→北→南東	L字状	10.9	62~150	13~90	24	U	平坦	自然		S09→本層
11	T46-U46a	北西→南東	直線状	10.6	56~81	21~41	30	U	平坦	自然		
12A	T36-U26a	北東→南西	直線状	29.8	35~203	23~56	14	U	平坦	自然	陶器片2	本層-S015
12B	T36-U36a	北東→南西	直線状	22.3	40~124	24~86	16	U	平坦	自然	陶器片1	S012a→本層
13	U36-U46a	南東→北西→南西	コの字状	[63.9]	63~91	28~41	30	U	平坦	自然	陶器片9	
14	T46-U46a	北西→南東	直線状 (9.0)	34~45	9~12		22	U	平坦	自然		
15A	T46-U46a	北西→南東→南西	直線状 (49.6)	66~141	14~74		28	U	平坦	自然		S015b・16→本層-S017
15B	U46-U46a	北西→南東	直線状 (3.8)	37~64	12~37		9	U	平坦	自然		本層-S015a
16	T46-U46a	北東→南西→北西→南西	クランク状 (32.5)	37~70	13~35		8	U	平坦	自然		本層-S015a・17
17	T46-U36a	北西→南東→南	コの字状	58.7	97~205	28~74	26	U	平坦	自然		
18	T36-U36a	南東→北西→西	L字状	38.7	124~152	12~46	48	U	平坦	自然		本層-S017・19
19	S46-U36a	北東→南西→北西→南	クランク状 (70.8)	82~170	58~68		68	U	凸凹	自然		S0-17・18→本層
20	S36-U46a	北西→南東→北東→北	コの字状 (22.6)	117~158	14~92		46	U	凸凹	自然		

5 遺構外出土遺物

当遺跡の遺構外から、縄文時代から近世までの遺物が出土している。ここではこれらの出土遺物のうち特徴的なものについて記載する。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴 及 び 文 様	胎土・色調・焼成	備 考
第18図 1	深鉢形土器 縄文土器	A [17.0] B (18.7)	胴部は緩やかに内彎しながら口縁部に至る。半筋縄文R Lを地文とし、縦線で区画されている。	石英・スコリア・炭母 に多い黄褐色 普通	P15 60% P L30 表層 (加資料E IV)
2	深鉢形土器 縄文土器	A [18.8] B (7.9)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は緩やかに内彎しながら口縁部に至る。半筋縄文R Lを地文とし、横位の比線及び比線による横円区画文が施されている。	長石・石英・パミス に多い黄褐色 普通	P16 5% P L30 表層 (加資料E III)
3	深鉢形土器 縄文土器	A [14.6] B (8.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部と胴部の域から外反して立ち上がる。胴部に半筋縄文R Lを施文し、胴部に横位の縦線が施されている。	長石・パミス 明黄褐色 普通	P17 5% P L31 表層 (加資料E V)

当遺跡から出土した縄文時代の遺物は、中期及び後期の土器が主体であるが、早期及び前期の土器片も出土している。

縄文時代早期に比定される土器（第18図4・5）

4は縦位の縄文が施文されており、稲荷台式に比定される。5は条痕文が施されており、茅山式に比定される。

縄文時代前期に比定される土器（第18図6・7）

6は波状貝殻文が施されており、浮島Ⅱ式に比定される。7は三角刺突文が施されており、浮島Ⅲ式に比定される。

縄文時代中期に比定される土器（第18図8～10）

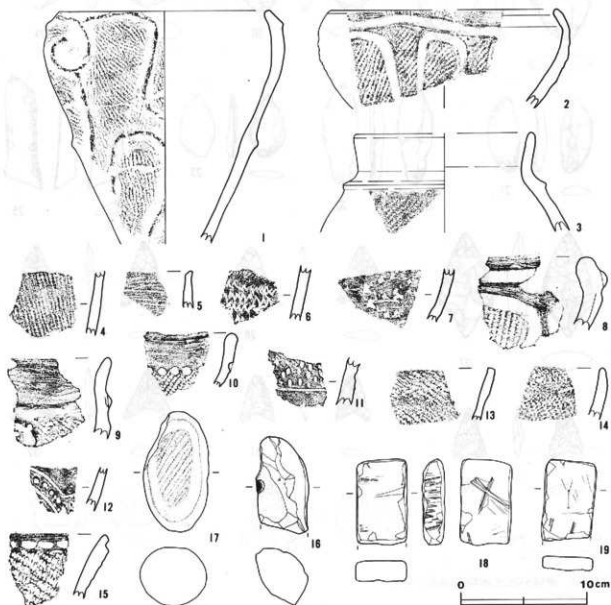
8は単節縄文RLを施文後、太い沈線と隆帯で区画されており、加曾利Ⅲ式に比定される。9は単節縄文RLを施文後、頸部に細隆線が施されている。10は単節縄文RLを施文後、頸部に刺突文が施されている。9・10は加曾利Ⅳ式に比定される。

縄文時代後期に比定される土器（第18図11～15）

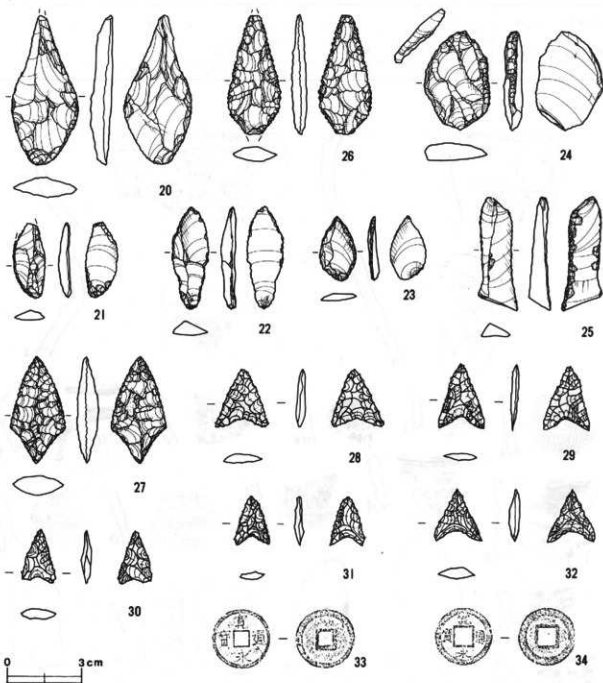
11・12は沈線と区画した中に刺突列点文が施されており、称名寺Ⅱ式に比定される。13・14は単節縄文RLが施文された口縁部片である。15は単節縄文RLを施文後、口唇部に棒状工具による刺突が施されている。13～15は後期前葉の土器と思われる。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第18図16	石皿	(7.8)	(4.2)	(4.6)	(180.6)	砂岩	表採	Q4 P.L31
17	磨石	9.6	5.1	4.8	326.2	砂岩	表採	Q5 P.L31
18	砥石	6.9	4.1	2.8	84.3	凝灰岩	表採	Q6 P.L31
19	砥石	6.4	4.3	1.1	48.7	凝灰岩	表採	Q7 P.L31
20	石楯	6.0	2.8	0.8	10.7	安山岩	表採	Q14 P.L32
第19図21	ナイフ形石器	2.0	1.4	0.4	1.3	頁岩	S4区	Q15 P.L31
22	ナイフ形石器	4.1	1.5	0.6	2.5	頁岩	表採	Q16 P.L31
23	ナイフ形石器	2.6	1.5	0.3	1.1	頁岩	S3区	Q17 P.L31
24	形器	4.0	2.7	0.7	8.6	頁岩	T4d区	Q18 P.L31
25	掻器	4.7	1.6	0.6	3.5	頁岩	表採	Q19 P.L31
26	尖頭器	4.3	2.2	0.6	4.7	安山岩	表採	Q20 P.L32
27	尖頭器	4.2	2.1	0.9	5.4	チャート	S4区	Q13 P.L32
28	石鏃	2.4	2.1	0.4	1.4	チャート	表採	Q8 P.L32
29	石鏃	2.6	1.8	0.3	1.1	チャート	表採	Q9 P.L32
30	石鏃	2.1	1.3	0.4	0.8	チャート	T4区	Q10 P.L32
31	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.7	チャート	S3区	Q11 P.L32
32	石鏃	2.0	1.9	0.4	1.1	チャート	表採	Q12 P.L32

图版番号	鉄種	初鑄年	出土地点	備考
		年号(西曆)		
第19回33	寛永通宝	宝永5年(1708)	表採	M1 P.L.32
34	寛永通宝	享保11年(1726)	表採	M2 P.L.32



第57图 遺構外出土遺物実測図(1)



第58図 遺構外出土遺物実測図(2)

第4節 まとめ

今回の調査で確認した遺構は、旧石器時代の集中地点5か所、竪穴住居跡5軒、陥し穴4基、土坑36基及び溝22条である。ここでは、各時期ごとに概観してまとめたい。

旧石器時代

当遺跡において旧石器時代の遺物が出土した層位は、前述の通り3層の立川ローム層である。この3層中部

からは1.2万年前の浅間火山ガラスが、5層上部からは2.1~2.5万年前の始良カルデラ火山ガラスが検出されており、遺物は浅間火山ガラス層の下から出土している。出土した石材のうち集中地点が確認されたのは、頁岩と黒曜石である。頁岩を石材とする石器は158点で、細石刃が104点を数えることができ、全体の65.8%を占める。これらの細石刃の内訳は、表14の通りである。完形は全体の5.7%で、先端部欠失の15.3%を含めると21%で、全体の5分の1となる。完形の細石刃の長さは、2.9~5.9cmと幅がある。細石刃全体の中で頭部の占める割合は33.6%、中間部は23.0%である。頭部及び中間部の長さは1.3~2.4cmの範囲に含まれるものが多く、頭部及び中間部の占める割合は56.6%である。また、側縁に使用痕が認められるものが10例あり、全体の9.6%である。県内で細石刃がまとめて出土した遺跡に、後野B遺跡がある。後野B遺跡からは、頁岩を石材とした細石刃167点が出土した。完形及び先端部欠失の細石刃の割合は34.5%を占め、完形の長さは2.5~5.0cmである。頭部及び中間部の割合は45.5%で、長さは1.5~2.5cmの範囲に含まれる。さらに、使用痕のある細石刃が12例確認され、その割合は全体の7.2%である。⁽¹⁾当遺跡の細石刃は、後野B遺跡の割合及び長さと同様している。後野B遺跡の細石刃は、計画的に折られたと考えられているが、当遺跡においても同様の可能性が考えられる。黒曜石は、産地が神津島であることが確認され、出土状況から石器製作跡の可能性が考えられる。しかし、頁岩との時期差は不明である。

当遺跡出土の石器の特徴として、細石刃核が船底形を呈しており、彫器は背面の全周を調整加工し左屑に彫刻刀面を持ち荒屋型の特徴を持っている。搔器は全周に調整加工が施され、基部がやや細く山形県北村山郡大石田町の角二山遺跡出土のものと同様である。⁽²⁾削器は2側縁及び先端部に調整加工が施され、基部が細く作出され、角二山遺跡出土の削器と技法的に似たところが窺われる。細石刃がまとめて出土した遺跡は、ひたちなか市の後野B遺跡、千葉県佐倉市の木戸場遺跡、埼玉県川本町の白草遺跡がある。後野B遺跡では、細石刃核、細石刃、彫器、彫器削片、削器、礫器及び尖頭器が出土している。⁽³⁾木戸場遺跡では、石核、細石刃核、細石刃、彫器、搔器、削器、敲石、台石、削片、ナイフ形石器及び円礫が出土している。⁽⁴⁾白草遺跡では、細石刃、彫器、搔器、削器及び礫器が出土している。⁽⁵⁾これらの石器のなかで、細石刃核、細石刃、彫器、搔器及び削器の石材は頁岩である。それぞれの遺跡の頁岩を石材とした旧石器製品を器種別に観ると、細石刃核はいずれも船底形を呈している。また、彫器は荒屋型、搔器及び削器は角二山遺跡出土のものと共通性を持っており、東北地方との関連が示唆される。これらのことから、当遺跡出土の旧石器は、後野B遺跡、木戸場遺跡、白草遺跡と同じように東北地方の影響を強く受けていると思われる。

表14 柏原遺跡出土細石刃分類表

		集中地点					
		1	2	3	4	他	合計
細 石 刃	完形	1		5 (1)			6 (1)
	先端部欠失	1	4 (2)	10 (1)	1		16 (3)
	頭部	4 (1)	4	23	3	1	35 (1)
	中間部	2 (1)	2	14 (1)	5 (1)	1	24 (3)
	先端部	3 (1)	6	13 (1)	1		23 (2)
合計		11 (3)	16 (2)	65 (4)	10 (1)	2	104 (10)

() は使用痕のある細石刃数

縄文時代

当遺跡から、早期から後期までの土器片が出土しており、生活の場として長期間利用されてきたと考えられる。遺構は、堅穴住居跡2軒、陥し穴4基及び土坑2基が検出されている。住居跡は台地の北部に位置しており、その南側に、陥し穴が東西に並ぶように配置されている。柏原遺跡の所在する台地は、居住地及び狩り場として利用されていたと思われる。

柏原遺跡周囲の縄文時代の遺跡は、支谷を挟んだ北東側の台地に甚五郎崎遺跡、支谷を挟んだ北側の台地に下高井向原Ⅰ及びⅡ遺跡がある。甚五郎崎遺跡から住居跡5軒が検出され、下高井向原Ⅰ遺跡から住居跡4軒、下高井向原Ⅱ遺跡から住居跡1軒が検出されている。柏原遺跡で検出された中期後葉の住居跡と同時期の住居跡は、下高井向原Ⅱ遺跡の1軒のみである。これに対し、甚五郎崎遺跡及び下高井向原Ⅰ遺跡は、早期から前期の集落跡は確認されているが、中期の遺構は検出されず、また、遺物もほとんど検出されていない。⁽⁶⁾ 柏原遺跡では、早期から前期の遺構は検出されず、遺物も少ないが、中期後葉の住居跡2軒が検出され、中期後葉の土器片が多数出土している。これらのことから、早期及び前期には、甚五郎崎遺跡・下高井向原Ⅰ遺跡の位置する北側の台地が生活の場として利用され、中期後葉は、支谷を挟んだ南側の当遺跡の所在する台地が生活の場となったと思われる。

弥生時代

当遺跡から、後期後半の住居跡1軒が検出されている。同時期の住居跡2軒が、当遺跡と支谷を挟んだ北東側の東原遺跡から検出されている。東原遺跡及び柏原遺跡で検出された住居跡と同時期と考えられる住居跡が、龍ヶ崎市南三島遺跡で検出されている。これらの住居跡も、西部から南部にかけての台地縁辺部に帯状に分布し、環状に集落を形成している。⁽⁷⁾ 東原遺跡の住居跡も、台地の東部縁辺部に位置し、柏原遺跡で検出された住居跡も台地の北側縁辺部に位置している。

東原遺跡・柏原遺跡で検出された弥生時代の住居跡から、炭化種子が検出されており、柏原遺跡の住居跡から検出された炭化種子は、ゴボウ類・コンニャクイモ類・米類であった。東原遺跡・柏原遺跡で検出された住居跡は軒数が少なく、集落としての性格は不明な点が多いが、当遺跡において耕作が行われていた可能性が考えられる。

奈良・平安時代

当遺跡の奈良・平安時代の遺構は、住居跡1軒である。この住居跡は、約3mの方形で、竈を持っている。また、検出された遺物は、少量の土師器片である。しかし、この住居跡以外には、遺物も少ないことから、当遺跡周辺では、奈良時代に大きな集落は形成されなかったと思われる。

当遺跡近辺の奈良・平安時代の遺跡には、甚五郎崎遺跡と下高井向原Ⅰ遺跡がある。甚五郎崎遺跡から住居跡3件、下高井向原Ⅰ遺跡から土坑1基が検出されている。いずれも平安時代後期のものである。

註

- (1) 後野遺跡発掘調査団「後野遺跡一関東ローム層中における石器と土器の変化」1976年12月
- (2) 麻生俊、加藤晋平、藤本強編集「日本の旧石器文化」有斐閣1976年8月
- (3) (1)に同じ
- (4) 千葉県文化財センター「佐倉市向山谷津・明代台・木戸場・古内遺跡」1987年3月

- (5) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団「白草遺跡Ⅰ・北篠場遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第129集』
1993年3月
- (6) 茨城県教育財団「取手都市計画事業下高井特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 甚五郎崎遺跡
下高井向原Ⅰ遺跡 下高井向原Ⅱ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第107集』 1996年3月
- (7) 茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書18 南三島遺跡3・4区(Ⅱ)」『茨城県教育
財団文化財調査報告第49集』 1989年3月

参考文献

- ・ 加藤晋平, 鶴丸俊明共著「図録石器入門辞典—先土器」 柏書房1991年3月
- ・ 筑波大学遠岡資料研究グループ編「湧別川—遠岡榮治氏採集機加沢遺跡遠岡地点石器図録—」『遠軽町先史資料館収蔵資料集』 1990年3月

付章 自然科学分析

柏原遺跡のローム層序

パリオ・サーヴェイ株式会社

I. はじめに

茨城県南部に広がる常陸台地は、霞ヶ浦や北浦を含むいくつかの谷によって開析され、東茨城・鹿島・行方・新治・稲敷などの台地にわかれている。これらの台地の地形・地質は、坂本(1986)により以下のように記載されている。常陸台地は下総台地に対比される段丘で、その構成層は後記更新世の海成層である見和層である。見和層は最終間氷期の下末吉海進に伴って堆積したものである。その上位に堆積する常陸粘土層に対比される。常陸粘土層は、菊池(1961)によれば約4万9千年前に噴出した(町田・鈴木, 1971)箱根—東京軽石の陸灰直前まで堆積したとされる。さらに、その上位には褐色火山灰土層(いわゆるローム層)が認められる。

常陸台地の最南部に位置する真壁台地は、北を小貝川の低地に、南を利根川により限られ、北西—南東方向にのびるが、やや狭小な台地である。柏原遺跡は、この真壁台地を開析する谷の谷頭斜面に立地する。

今回の発掘調査により、ローム層上部から舟底形細石核や荒屋形彫刻刀など細石刃文化期の石器群が出土している。今回の自然科学分析はこれらの石器群の年代感を得るために、火山ガラス比分析および重鉱物分析によるローム層序対比を行う。火山ガラス比分析では、ローム層中に混交する指標テフラ由来の細粒火山ガラスの産状を調べることににより、陸灰層準を推定する。重鉱物分析では、ローム層中の重鉱物組成を調べ、その層位的变化を指標として対比に用いる。本分析方法は、武蔵野台地の立川ローム層では対比資料が比較的多いためとくに有効な手段となっている。本遺跡周辺で分析例は少ないが、武蔵野台地や栃木県—茨城県北部のローム層との対比を行う。

II. 試料

第1地点では上位より1層—13層に分層されている。1層・2層は黒褐色土層、3層・4層は褐色ローム層、5層は暗褐色ローム層、6層・7層は褐色ローム層、8層・9層は暗褐色ローム層、10層・11層は褐色ローム層、12層は暗褐色ローム層、13層は褐色粘土層とされている。この中で、1層は表土層、2層は黒色火山灰土層(いわゆる黒ボコ土層)、3層はソフトローム層、5層は暗色帯とされている。

試料は、2層—7層まで(上位より試料番号1—30)を厚さ5cmで連続的に採取した。また、8—13層までは、各層1点ずつ試料を採取した。この中から、火山ガラス比分析には、本地域のローム層上部の指標テフラである立川ローム層最上部ガラス質火山灰(UG:山崎, 1978)や始良Tn火山灰(AT:町田・新井, 1976)などが検出されると考えられる試料番号1—16の計16点の試料を選択する。また、重鉱物分析には、試料番号2—30の偶数番号の試料の計15点の試料を選択する。以上の1層—7層までの柱状図と試料採取位置を図1に示す。

III. 分析方法

(1) 重鉱物分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。感想の後、篩別し、得られた粒径1/4mm—1/8mmの砂分をポリタングステート(比

重約2.96に調整)により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上からの落射光で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

(2) 火山ガラス比分析

重鉱物分析の処理により得られた軽鉱物分を偏光顕微鏡下にて観察、火山ガラスとそれ以外の碎屑物を250粒を計数し、碎屑物中における火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、便宜上軽鉱物にいれ、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は、表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

IV. 結果

結果を表1・図1に示す。

(1) 重鉱物分析

カンラン石は試料番号14の5層上部より上位で比較的量比が低く、5層上部より下位では比較的量比が高い。試料番号4・8・12に量比の極小層準が、試料番号18・26に極大層準が認められる。

斜方輝石と単斜輝石の両輝石は、カンラン石とはほぼ逆の傾向をしめす。両輝石の量比は試料番号8～12付近で高いが、極大層準はやや不明瞭である。また、試料番号18・26に極小層準が認められる。

各閃石は試料番号18より下位で微量認められるが、それより上位ではほとんど認められない。

(2) 火山ガラス比分析

試料番号2～7付近では、中間型火山ガラスと軽石型火山ガラスが比較的多く認められる。下位より見て、試料番号8から5で増加、試料番号5から3で多く、試料番号3より上位では減少する。この火山ガラスは、その産出層準と、形態によりUGに由来すると考える。UGは浅間火山の軽石流期のテフラの細粒部であると考えられており、その隆灰年代は約1.2万年前とされている(町田・新井, 1992)。武蔵野台地の立川ローム層の標準層序におけるⅢ層上部が隆灰層準と考えられている。一方、UGの由来と考えられている浅間軽石流期のテフラには、浅間板鼻黄色テフラ(A s-Y P)やA s-Y Pと同一噴火輪廻のテフラと考えられている浅間草津テフラ(A s-K)などがある(町田・新井, 1992)。A s-Y Pの分布主軸は東南東で、主に群馬県南部に分布し、その隆灰年代は約1.3～1.4万年前と考えられている(町田・新井, 1992)。さらに、A s-K(引用文献中ではA s-Y P k)に対比されるテフラは、東北地方南部から中部でも認められている(小岩・早田, 1994)。一般に、土壤中に特定のテフラが混交して産出する場合、テフラ最濃集部の下限が隆灰層準に一致する場合が多い(早津, 1988)。これに従えば、本地点のUGの隆灰層準は試料番号5の3層中部付近と考えられる。

また、それより下位の試料番号7～15付近ではバブル型火山ガラスが比較的多く認められる。下位より見て試料番号16から15で急増、試料番号15から13で増加、試料番号13より上位では減少する。この火山ガラスは、その形態と色調および産出層準からATに由来すると考えられる。ATは、鹿児島県の始良カルデラを給源とし、隆灰年代は約2.1～2.5万年前と考えられている(町田・新井, 1992)。前述の早津(1988)に従えば、本地点のATの隆灰層準は試料番号14～15の5層上部と考えられる。

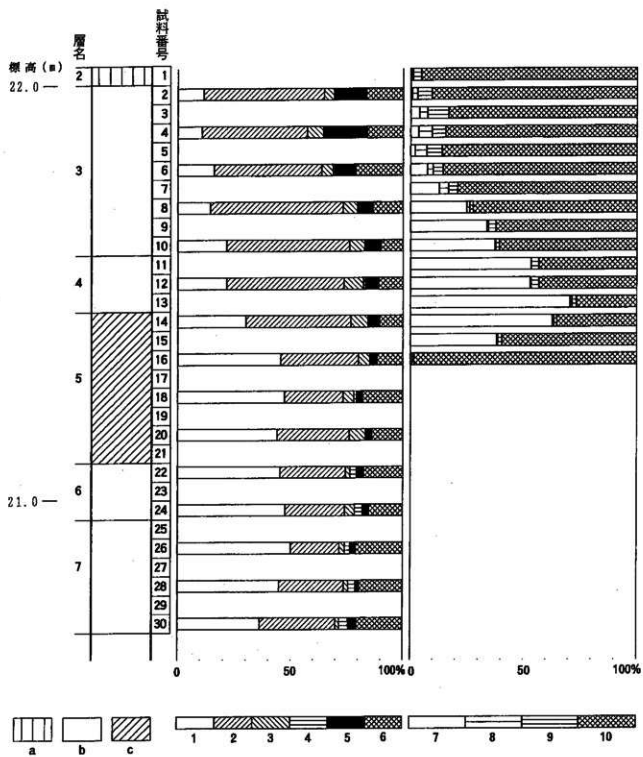


図1 柱状図・試料採取位置および重鉱物組成・火山ガラス比
a: 黒ボク土, b: ローム, c: 暗色帯
1: カンラン石, 2: 斜方輝石, 3: 単斜輝石
4: 角閃石, 5: 不透明鉱物, 6: その他
7: パブル型火山ガラス, 8: 中間型火山ガラス
9: 軽石型火山ガラス, 10: その他

表1 重鉱物および火山ガラス比分析結果

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単方輝石	各閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
1	—	—	—	—	—	—	—	2	1	9	238	250
2	29	133	11	0	36	41	250	2	6	16	226	250
3	—	—	—	—	—	—	—	10	9	23	208	250
4	27	116	18	0	49	40	250	9	15	15	211	250
5	—	—	—	—	—	—	—	5	13	17	215	250
6	40	119	13	2	23	53	250	19	6	11	214	250
7	—	—	—	—	—	—	—	32	10	10	198	250
8	36	147	16	0	17	34	250	19	3	4	181	250
9	—	—	—	—	—	—	—	84	2	8	156	250
10	54	136	17	0	18	25	250	93	1	4	152	250
11	—	—	—	—	—	—	—	133	0	9	108	250
12	54	130	22	2	15	27	250	132	1	9	108	250
13	—	—	—	—	—	—	—	177	2	5	66	250
14	75	117	19	1	12	26	250	157	2	3	88	250
15	—	—	—	—	—	—	—	95	1	5	149	250
16	114	86	13	1	7	29	250	2	0	2	246	250
18	118	65	12	3	7	45	250	—	—	—	—	—
20	110	80	18	0	7	35	250	—	—	—	—	—
22	113	73	5	7	8	44	250	—	—	—	—	—
24	119	66	11	9	7	38	250	—	—	—	—	—
26	125	54	6	6	6	53	250	—	—	—	—	—
28	112	72	5	8	4	49	250	—	—	—	—	—
30	91	84	4	10	9	52	250	—	—	—	—	—

V. 考察

今回の分析によるUGの隆灰層準より、試料番号5の3層中部付近が武蔵野台地の立川ローム層の標準層序におけるⅢ層上部(以下、同様の意味を“ ”を付して示す。)に対比される。

ATの隆灰層準は、武蔵野台地の立川ローム層の第二安色帯(BBⅡ)の“Ⅶ層”上限付近にある場合が多い。今回の分析結果から、試料番号14~15の5層上部が“Ⅶ層”上限に対比される。

重鉱物組成上の指標としては、武蔵野台地の立川ローム層第一暗色帯(BBⅠ)の“Ⅴ層”上限付近に輝石の極大がある(小林ほか、1971など)。今回の分析結果では、試料番号8~12の3層下部~4層中部で両輝石の量比が高いが、極大層準は不明瞭であった。詳細な対比ではないが、この試料番号8~12の3層下部~4層中部は“Ⅴ層”で輝石の量比が高いことに対比される。

また、下位では当社の分析例により、ATの隆灰層準(“Ⅶ層”上限)のやや下位にカンラン石の極大層準などが指標として認められている。今回の分析結果から、試料番号18の5層中部のカンラン石の極大層準がこれにあたると思われる。

角閃石は栃木県~茨城県北部の分析例では、宝木ローム層の上部(暗色帯上部)付近すなわちATの隆灰層準付近において下位に向かって増加することが認められている。この角閃石は、宝木ローム層の中部に隆灰層準がある赤城鹿沼軽石(Ag-KP:新井, 1962)に由来すると考えられる。Ag-KPは赤城火山を給源とし、隆灰年代は約3.1~3.2万年前と考えられている(町田・新井, 1992)。本遺跡の角閃石の産状は、栃木県~茨城県北部の宝木ローム層の分析例にやや類似する。したがって、本遺跡のローム層の重鉱物組成には、栃木県~茨城県北部のローム層の重鉱物組成と南関東のローム層の重鉱物の両方の特徴が認められている。

以上のことにより、3層中部がおおむね“Ⅲ層~Ⅳ層”、3層下部~4層がおおむね“Ⅴ層~Ⅶ層”、5層以下が“Ⅷ層”以下に対比される。

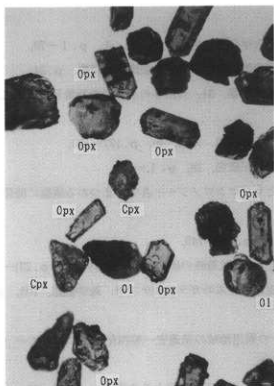
ところでローム層(ここではいわゆる関東ローム層のような細粒の火山砕屑物を母材とする土壌をさすものとして用いる)の成因については、従来は小噴火による隆下火山灰の累積したもの(たとえば町田(1964)など)とする説が主に支持されてきた。これに対して、いったん堆積した火山灰が風によって移動させられて累積した説も主張されるようになってきている。この説は、中村(1970)により提示され、早川(1986)、早川・由井(1989)、早川(1990)、早川(1995)などにおいて、火山学および火山灰編年学上の種々の観察事実を根拠として述べられている。この説に従えば、ローム層も黒ボク土層も火山の噴火とは関係なく常に降りつる風塵によって形成されたことになる。また、最近では鈴木(1995)により、過去5万年間に堆積した火山灰土が層厚1mを上回る地域では、ローム層は広域テフラや小規模な噴火によりテフラが一次的に累積したものといったん隆灰したテフラが二次堆積したものが混在するが、地域によりその構成物の割合は変化すると述べられている。いずれにしても、風成の火山噴出物に由来する砕屑物が二次堆積を繰り返し、土壌生成作用を受けながら少しずつ累積し、ローム層が形成されていると考えられる。本分析結果におけるUGやATの産状は、そのことをよく表している。

また、ローム層の鉱物組成にはおもに周辺の火山噴出物の鉱物組成が反映されており、それは同じ地域、同じ時期では類似すると考えられる。したがって、同じ地域において鉱物組成の層位的変化を調べることにより、対比の指標が導き出され、今回のように層序対比が可能となっている。

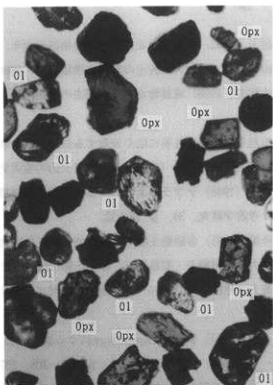
文献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, 4, p. 1—79.
- 早川由起夫 (1986) 火山灰土の成因と堆積速度。1986年度春季大会日本火山学会講演予稿集, p. 34.
- 早川由起夫 (1990) 堆積物から知る過去の火山噴火。火山第2集, 34, 火山学の基礎研究特集号, p. S121—S130.
- 早川由起夫 (1995) 日本に広く分布するローム層の特徴とその成因。火山, 40, p. 177—190.
- 早川由起夫・由井将雄 (1989) 草津白根火山の噴火史。第四紀研究, 28, p. 1—17
- 早津賢治 (1988) テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフロクロノジー—A Tにまつわる議論に關係して一。考古学研究, 34, p. 18—32.
- 菊池隆男 (1981) 常陸粘土層の堆積環境。地質学論集, 20, p. 129—145.
- 小林達夫・小田静夫・羽鳥謙三・鈴木正男 (1971) 野川先土器時代遺跡の研究。第四紀研究, 10, p. 231—252.
- 小岩直人・早田 勉 (1994) 東北地方中南部に分布する更新世紀末のガラス質テフラ。地学雑誌, 103, p. 68—76.
- 町田 洋 (1964) Tephrochronologyによる富士火山とその周辺地域の発達史—第四紀末期について—(その1)(その2)。地学雑誌, 73, p. 293—308, 337—350.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良T n火山灰の発見とその意義一。科学, 46, p. 339—347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。276 p., 東京大学出版会。
- 町田 洋・鈴木正男 (1971) 火山灰の絶対年代と第四紀後記の編年—フィッション・トラック法による試み—。科学, 41, p. 263—270.
- 中村一明 (1970) ローム層の堆積と噴火活動。軽石学雑誌, 3, p. 1—7.
- 坂本 亨 (1986) 3. 4 関東平野北部の更新統(9)常陸台地。「日本の地質3 関東地方」, p. 189—190, 共立出版。
- 鈴木毅彦 (1995) いわゆる火山灰土(ローム)の成因に関する一考察—中部—関東に分布する火山灰度の層厚分布—。火山, 40, p. 167—176.
- 山崎晴雄 (1978) 立川断層とその第四後期の運動。第四紀研究, 16, p. 231—246.

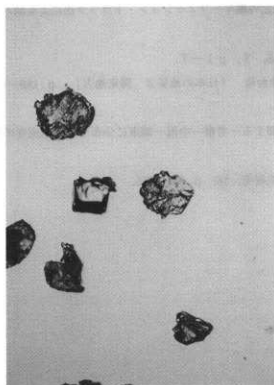
図版1 重鉱物および火山ガラス



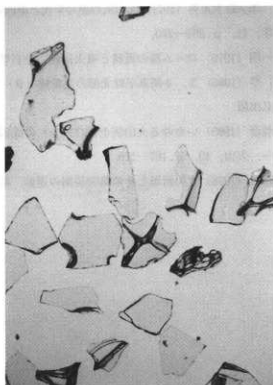
1. 重鉱物 (試料番号8)



2. 重鉱物 (試料番号18)



3. U G火山ガラス (試料番号5)



4. A T火山ガラス (試料番号13)

Ol:カンラン石, Opx:斜方輝石, Cpx:単斜輝石.

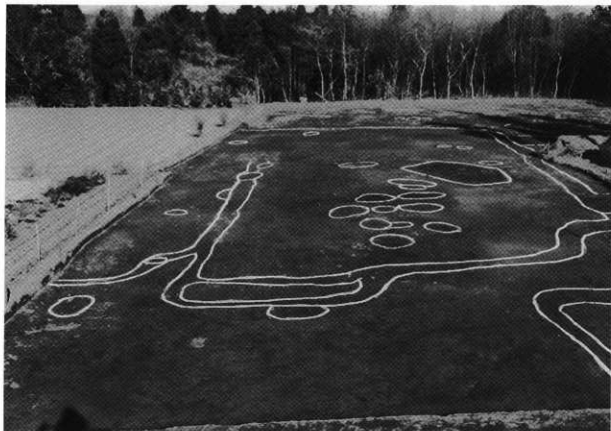
0.5mm

写 真 图 版

東	原	遺	跡
前	畑	遺	跡
柏	原	遺	跡



遺跡全景（平成7年度）



遺構確認状況



調査終了全景

第1号住居跡
完掘状況

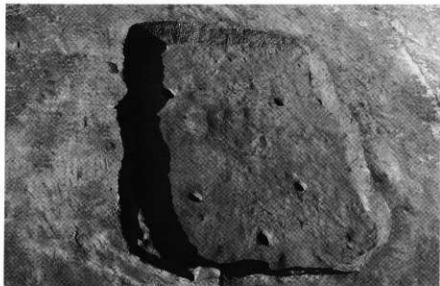


第1号住居跡
遺物出土状況



第1号住居跡
遺物出土状況





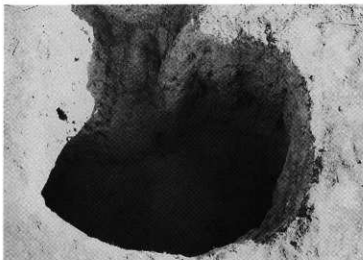
第2・3号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
遺物出土状況



第2号住居跡
遺物出土状況



第1号地下式墳完掘状況



第2号地下式墳完掘状況



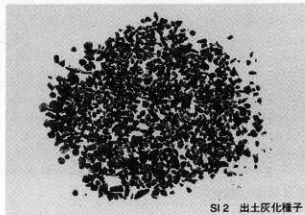
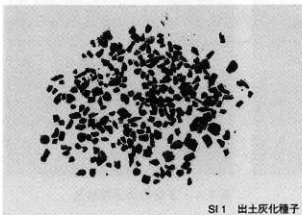
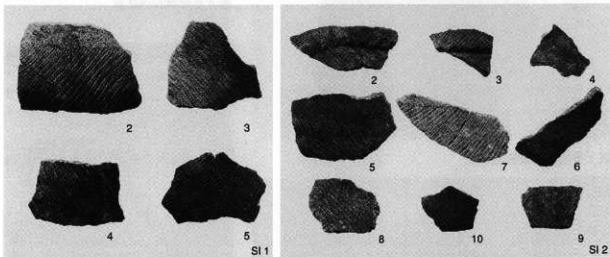
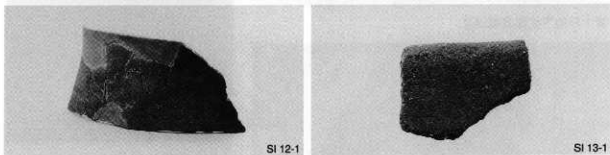
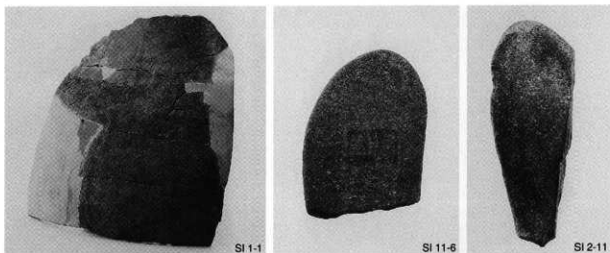
第4号溝完掘状況



第3 A号溝完掘状況



第3 A・3 B号溝完掘状況



第1・2号住居跡出土遺物



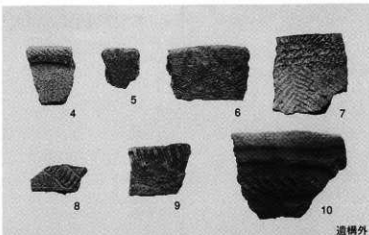
遺構外-1



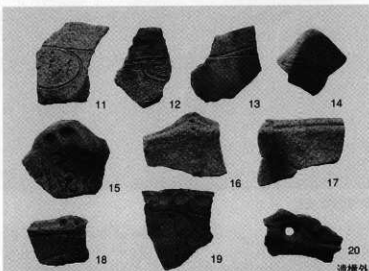
遺構外-2



遺構外-3



遺構外



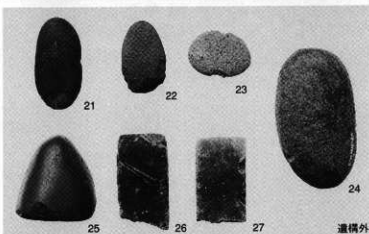
遺構外



遺構外-28



遺構外-29



遺構外



遺構外-30



遺構外-31



遺構外-32



遺構外-33



遺構外-34



遺構確認状況



調査終了全景



第4号土坑完掘状況



第5号土坑完掘状況



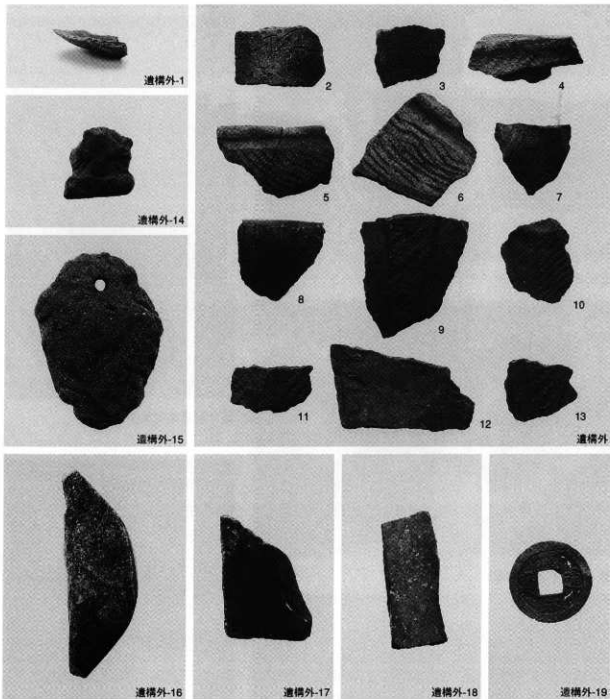
第6号土坑完掘状況



第1号溝完掘状況



第2号溝完掘状況



遺構外出土遺物



遺跡全景

PL12

柏原遺跡



調査前全景



遺構確認状況



旧石器集中地点全景



第1号石器集中地点遺物出土状況



旧石器集中地点全景



第3号石器集中地点遺物出土状況

細石刃核出土状況



彫器出土状況



尖頭器出土状況



PL16

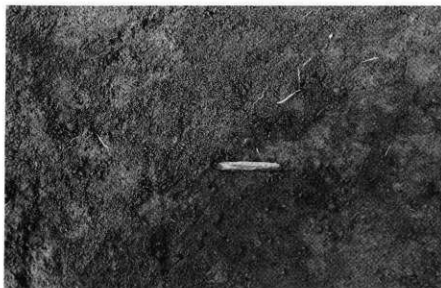
柏原遺跡



削器出土状況



細石刃出土状況



細石刃出土状況

第3号住居跡
完掘狀況

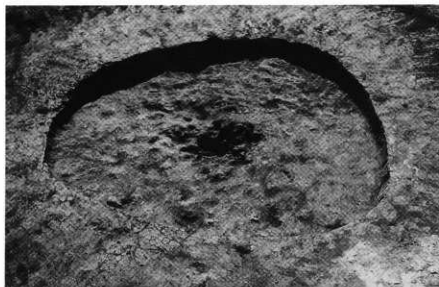


第3号住居跡
遺物出土狀況



第3号住居跡
遺物出土狀況





第4号住居跡
完掘状況



第4号住居跡
遺物出土状況



第2号住居跡
完掘状況

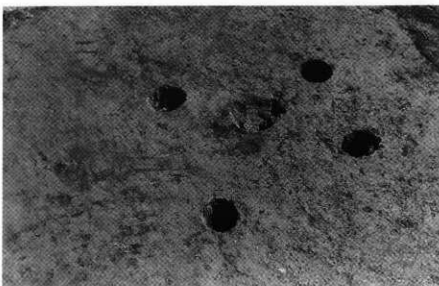
第2号住居跡
遺物出土状況

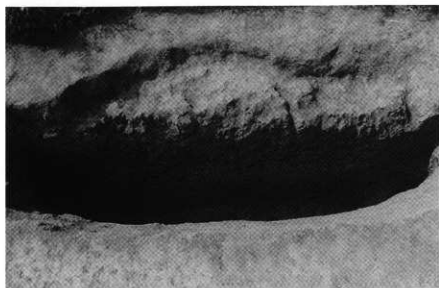


第1号住居跡
完掘状況

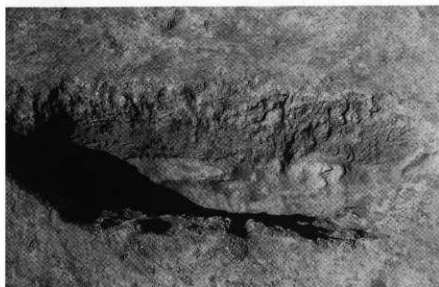


第5号住居跡
完掘状況





第15号土坑
完掘狀況



第21号土坑
完掘狀況



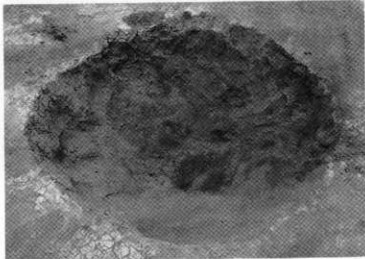
第28号土坑
完掘狀況



第18号溝完掘状況



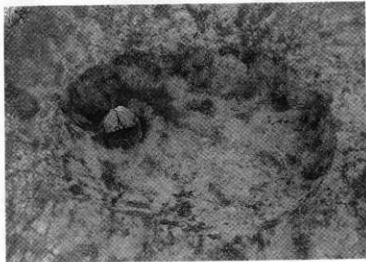
第29号土坑完掘状況



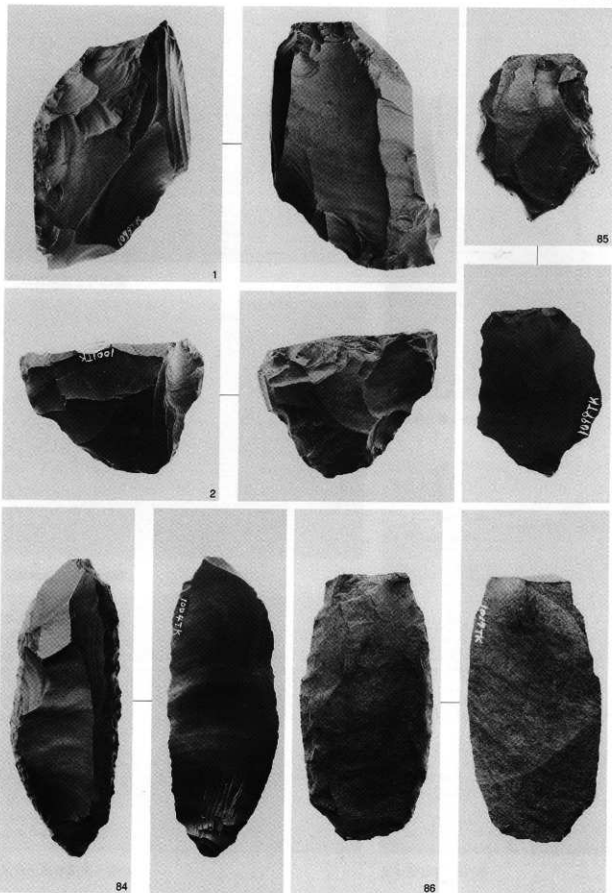
第30号度坑完掘状況



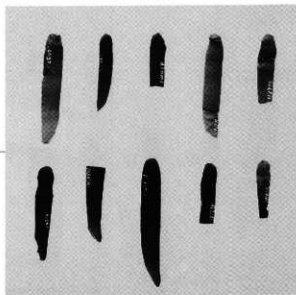
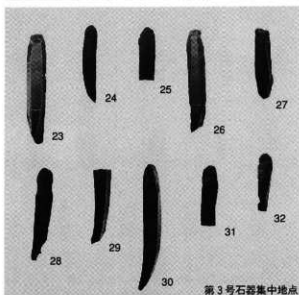
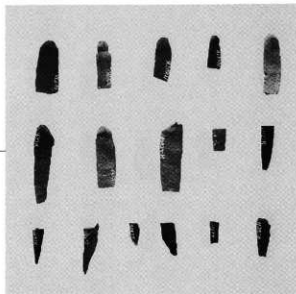
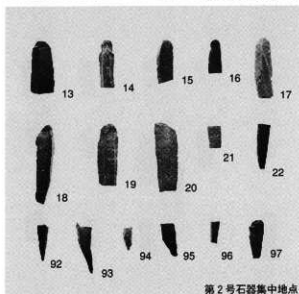
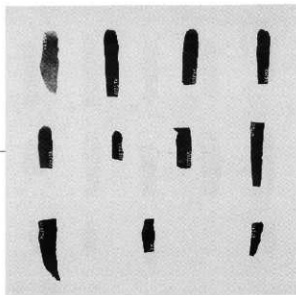
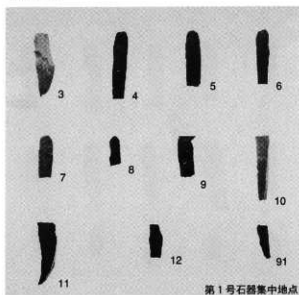
第19号溝完掘状況

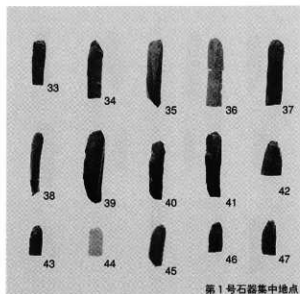


第38号土坑遺物出土状況

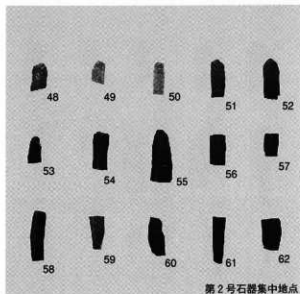
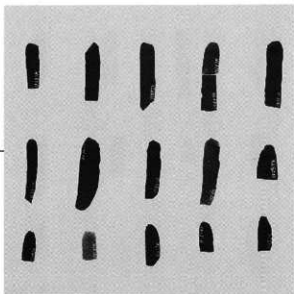


石器集中地点出土遺物(1)

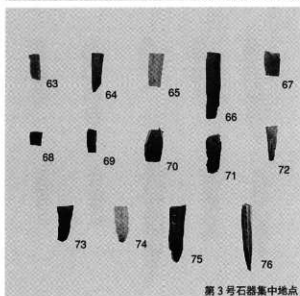
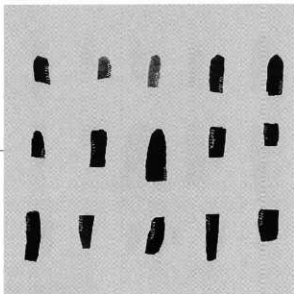




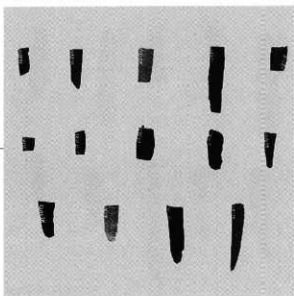
第1号石器集中地点

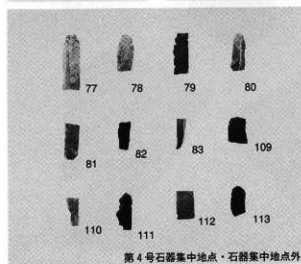
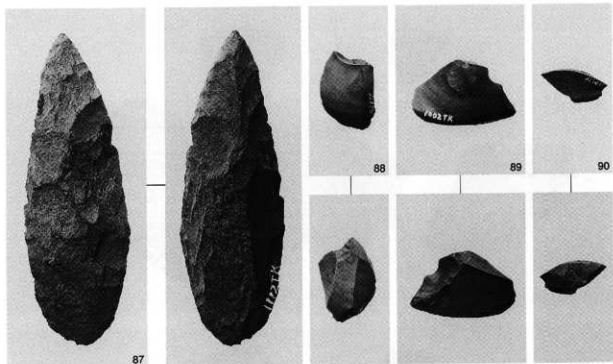


第2号石器集中地点

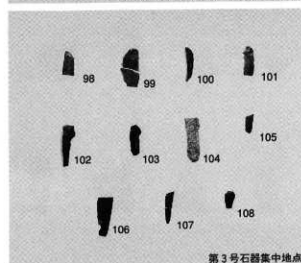
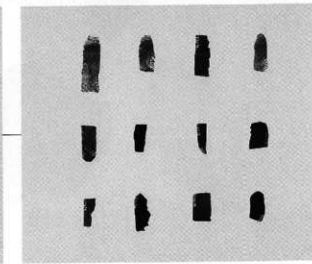


第3号石器集中地点

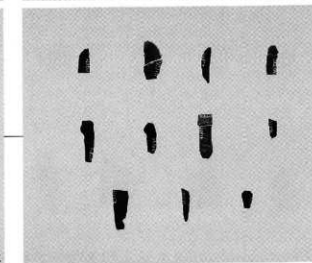


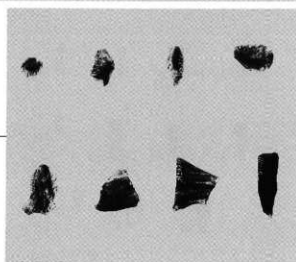
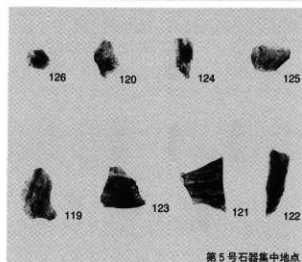
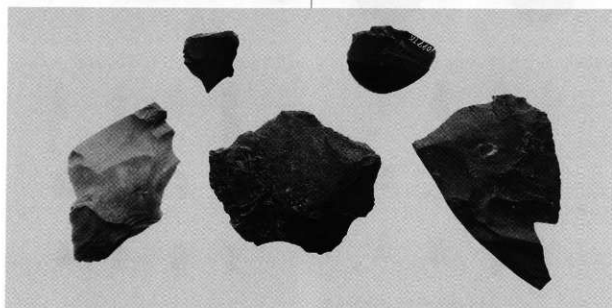
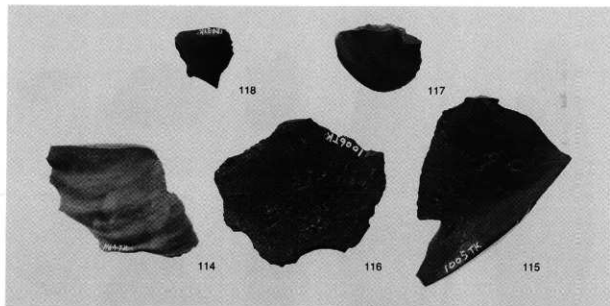


第4号石器集中地点・石器集中地点外



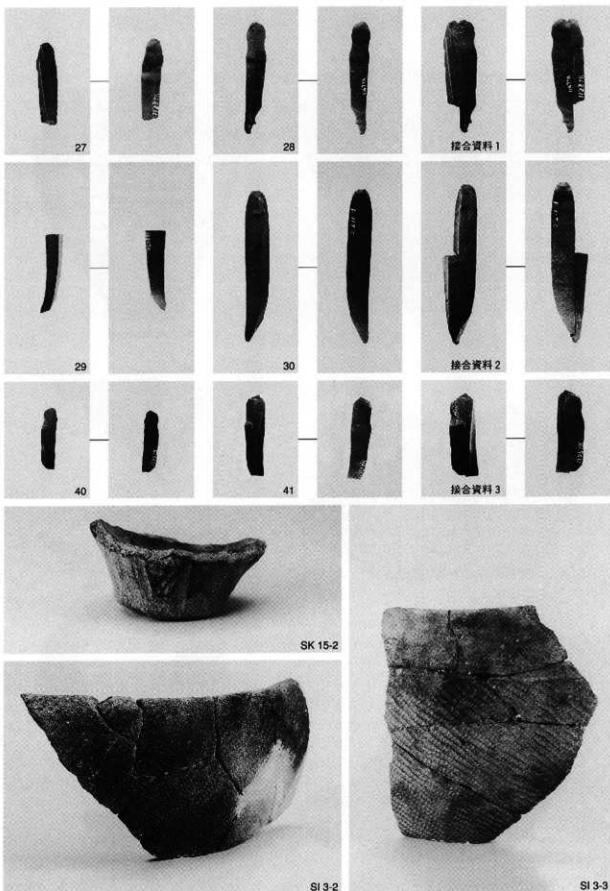
第3号石器集中地点





第5号石器集中地点

石器集中地点出土遺物(5)



石器集中地点出土遺物(6)、第3号住居跡・第15号土坑出土遺物



SI 3-1



SI 2-1



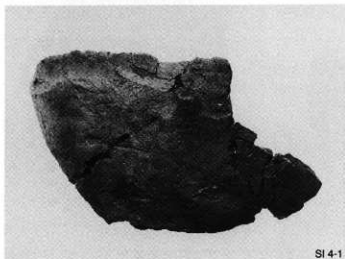
SI 4-2



SI 2-2



SI 1-1



SI 4-1



SI 3-5



SI 4-3



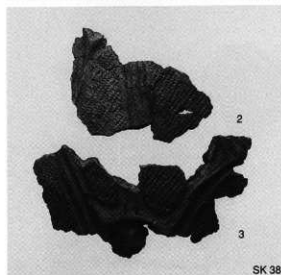
SI 3-4



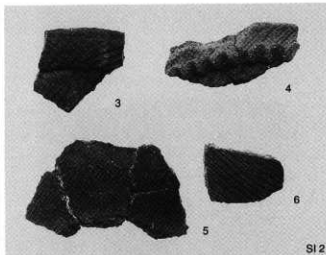
SK 15-1



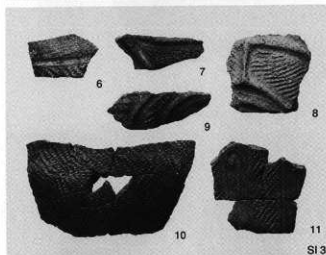
SK 30-1



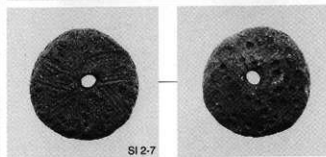
SK 38



SI 2



SI 3



SI 2-7



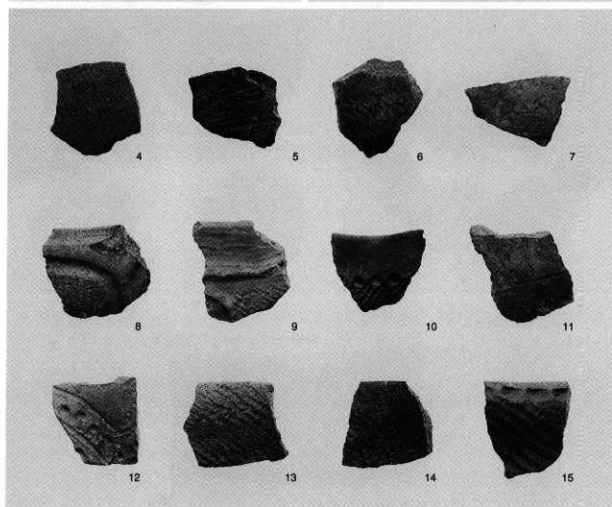
SK 38-1



1



2



4

5

6

7

8

9

10

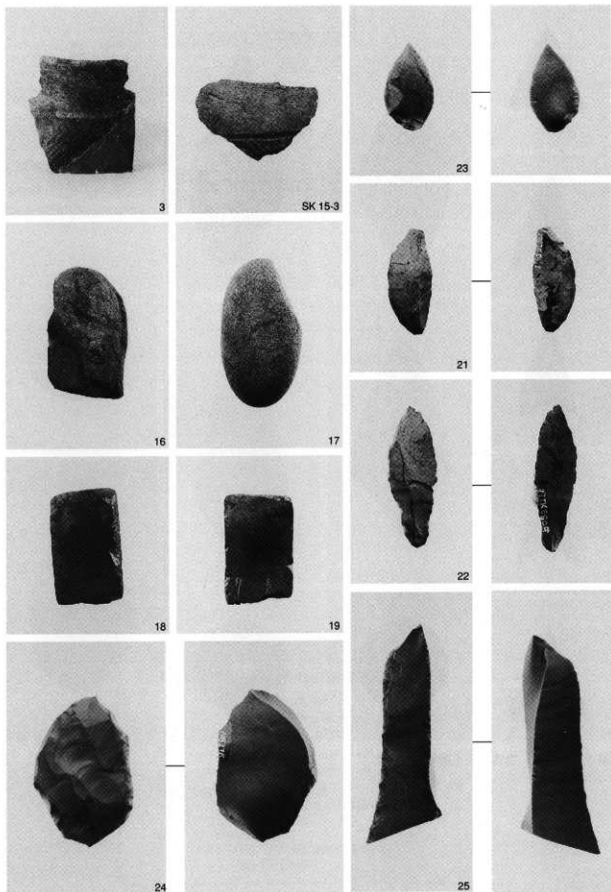
11

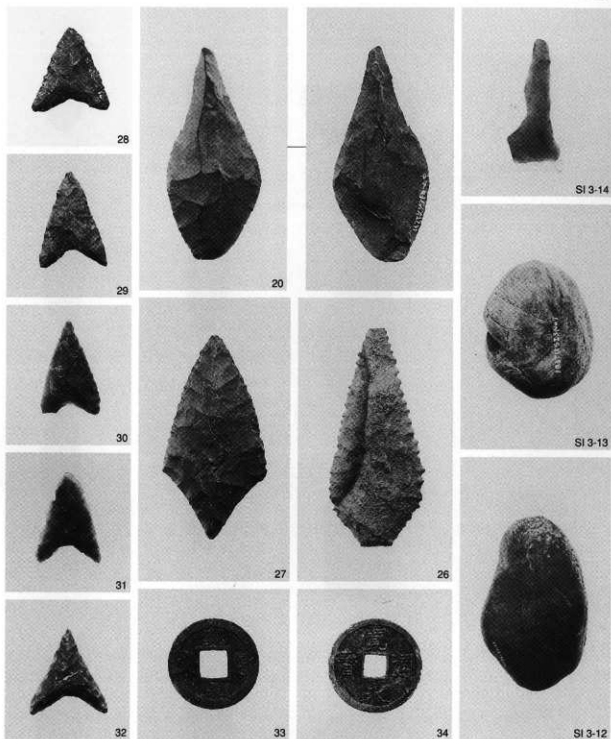
12

13

14

15





第3号住居跡・遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第143集

取手都市計画事業下高井特定土地区画
整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

東原遺跡
前畑遺跡
柏原遺跡

平成11(1999)年3月16日 印刷

平成11(1999)年3月19日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
T E L 029-225-6587

印刷 山三印刷株式会社
〒311-4153 水戸市河和田町4433-33
T E L 029-252-8481

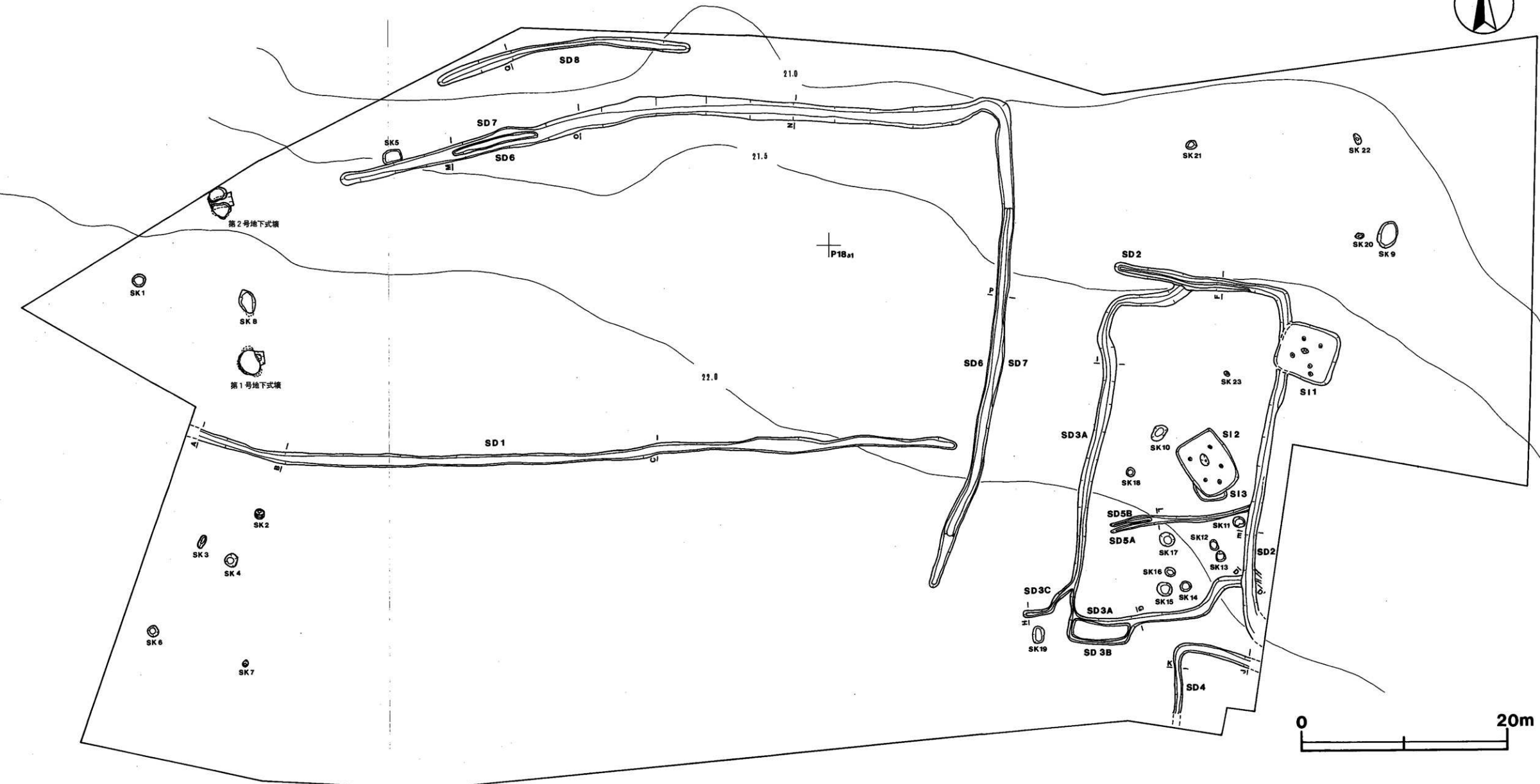
付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第143集

東原遺跡全体図

前畑遺跡全体図

柏原遺跡全体図



付図1 東原遺跡全体図



付図2 前畑遺跡全体図

